



HPイメージング バーコード スキャナー プロダクトリファレンスガイド

© Copyright 2011, 2012 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。

Microsoft、WindowsおよびWindows Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

HP製品およびサービスに対する保証は、当該製品およびサービスに付属の保証規定に明示的に記載されているものに限られます。本書のいかなる内容も、当該保証に新たに保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して責任を負いかねますのでご了承ください。

本書には、著作権によって保護された所有権に関する情報が掲載されています。本書のいかなる部分も、HP Inc.の書面による承諾なしに複写、複製、あるいは他言語へ翻訳することはできません。

プロダクトリファレンスガイド

HPイメージングバーコードスキャナー

初版（2011年1月）

改訂第1版（2011年5月）

改訂第2版（2012年4月）

製品番号：634487-293

目次

はじめに.....	7
このガイドについて.....	7
概要.....	7
マニュアルの表記規則.....	8
リファレンス.....	8
テクニカル サポート.....	8
HPのWebサイトのサポート.....	8
再販業者によるテクニカル サポート.....	8
電話でのテクニカル サポート.....	8
スキャナーについて.....	9
スキャナーのプログラミング.....	9
設定方法.....	9
セットアップ.....	11
開梱.....	11
スキャナーのセットアップ.....	11
インターフェiskeーブルの取り付け.....	12
インターフェiskeーの選択.....	13
インターフェiskeーの設定.....	13
設定のカスタマイズ.....	14
インターフェiskeー設定の変更.....	14
グローバルインターフェiskeー機能.....	14
その他の機能の設定.....	14
ソフトウェアバージョンの送信.....	14
製品の設定の初期状態へのリセット.....	15
バーコードを使用した設定.....	17
設定パラメーター.....	17
グローバルインターフェiskeー機能.....	19
ホストコマンド：従う/無視.....	19
USBサスペンドモード.....	19
USB-COMインターフェiskeー.....	21
文字間遅延.....	22
ASCII BELでのピーブ音.....	22
Not on Fileでのピーブ音.....	23
ACK/NAKのオプション.....	23
ACK文字.....	24
NAK文字.....	24
ACK/NAKのタイムアウト値.....	25
ACK/NAKの再試行回数.....	25
ACK/NAKのエラー処理.....	26
送信エラーの通知.....	26
無効化文字.....	27
有効化文字.....	27
キーボードの設定.....	29
国モード.....	30
制御文字の送信.....	32
コード間遅延.....	33
Caps Lockの状態.....	33
USBキーボードの速度.....	34
USBキーボードのテンキー.....	35
データフォーマット.....	37
グローバルプレフィックス/サフィックス.....	38
グローバルAIM ID.....	39
ラベルID.....	40

個別設定ラベルID	40
ラベルIDの制御	40
ラベルIDの読み取りコードの選択：1D読み取りコード	41
ラベルIDの読み取りコードの選択：2D読み取りコード	44
大文字/小文字変換	45
文字変換	45
読み取り時のパラメーター	47
二重読み取りのタイムアウト	48
スリープモードのタイムアウト	50
LEDおよびビープ音によるインジケータ	51
電源投入時の警告	51
読み取り成功：通知のタイミング	51
読み取り成功ビープ音の種類	52
読み取り成功ビープ音の周波数	52
読み取り成功ビープ音の長さ	53
読み取り成功ビープ音の音量	54
読み取り成功LEDの持続時間	55
スキャン機能	56
スキャンモード	56
スタンドモードでのトリガーのタイムアウト	57
スタンドの動作	59
スタンドモードでの感度	60
スキャン有効時間	60
フラッシュオン時間	61
フラッシュオフ時間	62
緑色スポットの持続時間	62
携帯電話モード	63
ピックモード	63
複数ラベルの読み取り	64
ボリューム（読取範囲）内の複数ラベルの読み取り	64
フレーム（時間枠）ごとの複数ラベル	65
読み取りコードによる複数ラベルの順序付け	65
コード長による複数ラベルの順序付け	66
1D読み取りコード	67
1Dコードの選択	67
すべての読み取りコードの無効化	68
Code EAN/UPC	69
クーポンの制御	69
UPC-A	70
UPC-Aの有効化/無効化	70
UPC-Aのチェックキャラクタの送信	70
UPC-AをEAN-13に拡張	71
UPC-Aのナンバーシステムキャラクタの送信	71
UPC-Aの2Dコンポーネント	72
UPC-E	72
UPC-Eの有効化/無効化	72
UPC-Eのチェックキャラクタの送信	73
UPC-Eの2Dコンポーネント	73
UPC-EをEAN-13に拡張	74
UPC-EをUPC-Aに拡張	74
UPC-Eのナンバーシステムキャラクタの送信	75
GTINへのフォーマット変換	75
EAN 13（JAN 13）	76
EAN 13の有効化/無効化	76
EAN 13のチェックキャラクタの送信	76
EAN-13のフラグ1文字	77
EAN-13からISBNへの変換	77
EAN-13の2Dコンポーネント	78
ISSN	78
ISSNの有効化/無効化	78
EAN 8（JAN 8）	79

EAN 8の有効化/無効化	79
EAN 8のチェックキャラクタの送信	79
EAN 8をEAN 13に拡張	80
EAN 8の2Dコンポーネント	80
UPC/EANのグローバル設定	81
UPC/EANの価格とウェイトのチェック	81
アドオン	82
オプションのアドオン	82
オプションのアドオンのタイマー	83
オプションのGS1-128アドオンのタイマー	86
条件付きアドオン制御 (1~4)	89
Code 39	91
Code 39の有効化/無効化	91
Code 39のチェックキャラクタの計算	91
Code 39のチェックキャラクタの送信	92
Code 39のスタート/ストップキャラクタの送信	93
Code 39 Full ASCII	93
Code 39の長さ制御	94
Code 39の長さ1の設定	95
Code 39の長さ2の設定	96
Code 39のディジット間の比率	97
Trioptic Code	99
Trioptic Codeの有効化/無効化	99
Code 32 (イタリアの医薬品コード)	99
Code 32の有効化/無効化	99
Code 32の機能設定の例外	100
Code 32のチェックキャラクタの送信	100
Code 32のスタート/ストップキャラクタの送信	100
Code 39 CIP (フランスの医薬品)	101
Code 39 CIPの有効化/無効化	101
Code 39 Danish PPT	101
Code 39 Danish PPTの有効化/無効化	101
Code 39 LaPoste	102
Code 39 LaPosteの有効化/無効化	102
Code 39 PZN	102
Code 39 PZNの有効化/無効化	102
Code 128	103
Code 128の有効化/無効化	103
Code 128をCode 39に拡張	103
Code 128のチェックキャラクタの送信	104
Code 128のファンクション文字の送信	104
Code 128のサブコード交換の送信	105
Code 128の長さ制御	106
Code 128の長さ1の設定	107
Code 128の長さ2の設定	108
GS1-128	109
GS1-128の有効化	109
GS1-128の2Dコンポーネント	109
Code ISBT 128	110
ISBT 128の連結	110
ISBT 128の強制連結	110
ISBT 128の連結モード	111
ISBT 128の動的連結のタイムアウト	112
ISBT 128の高度な連結オプション	112
Interleaved 2 of 5 (I2 of 5)	113
I2 of 5の有効化/無効化	113
I2 of 5のチェックキャラクタの計算	114
I2 of 5のチェックキャラクタの送信	115
I2 of 5の長さ制御	115
I2 of 5の長さ1の設定	116
I2 of 5の長さ2の設定	117
Interleaved 2 of 5 CIP HR	118

Interleaved 2 of 5 CIP HRの有効化/無効化.....	118
Standard 2 of 5	119
Standard 2 of 5の有効化/無効化.....	119
Standard 2 of 5のチェックキャラクタの計算.....	119
Standard 2 of 5のチェックキャラクタの送信.....	120
Standard 2 of 5の長さ制御.....	120
Standard 2 of 5の長さ1の設定.....	121
Standard 2 of 5の長さ2の設定.....	122
Industrial 2 of 5.....	123
Industrial 2 of 5の有効化/無効化.....	123
Industrial 2 of 5のチェックキャラクタの計算.....	123
Industrial 2 of 5のチェックキャラクタの送信.....	124
Industrial 2 of 5の長さ制御.....	124
Industrial 2 of 5の長さ1の設定.....	125
Industrial 2 of 5の長さ2の設定.....	126
Code IATA.....	127
IATAの有効化/無効化.....	127
IATAのチェックキャラクタの送信.....	127
Codabar.....	128
Codabarの有効化/無効化.....	128
Codabarのチェックキャラクタの計算.....	128
Codabarのチェックキャラクタの送信.....	129
Codabarのスタート/ストップキャラクタの送信.....	129
Codabarのスタート/ストップキャラクタセット.....	130
Codabarのスタート/ストップキャラクタの一致.....	130
Codabarの長さ制御.....	131
Codabarの長さ1の設定.....	132
Codabarの長さ2の設定.....	133
Codabarのディジット間の比率.....	134
ABC Codabar.....	136
ABC Codabarの有効化/無効化.....	136
ABC Codabarの連結モード.....	136
ABC Codabarの動的連結のタイムアウト.....	137
ABC Codabarの強制連結.....	138
Code 11.....	139
Code 11の有効化/無効化.....	139
Code 11のチェックキャラクタの計算.....	139
Code 11のチェックキャラクタの送信.....	140
Code 11の長さ制御.....	141
Code 11の長さ1の設定.....	142
Code 11の長さ2の設定.....	143
Code 11のディジット間の比率.....	144
GS1 DataBar™ Omnidirectional.....	146
GS1 DataBar™ Omnidirectionalの有効化/無効化.....	146
GS1 DataBar™ OmnidirectionalのGS1-128エミュレーション.....	146
GS1 DataBar™ Omnidirectionalの2Dコンポーネント.....	147
GS1 DataBar™ Expanded.....	147
GS1 DataBar™ Expandedの有効化/無効化.....	147
GS1 DataBar™ ExpandedのGS1-128エミュレーション.....	148
GS1 DataBar™ Expandedの2Dコンポーネント.....	148
GS1 DataBar™ Expandedの長さ制御.....	149
GS1 DataBar™ Expandedの長さ1の設定.....	150
GS1 DataBar™ Expandedの長さ2の設定.....	151
GS1 DataBar™ Limited.....	152
GS1 DataBar™ Limitedの有効化/無効化.....	152
GS1 DataBar™ LimitedのGS1-128エミュレーション.....	152
GS1 DataBar™ Limitedの2Dコンポーネント.....	153
Code 93.....	153
Code 93の有効化/無効化.....	153
Code 93のチェックキャラクタの計算.....	154
Code 93のチェックキャラクタの送信.....	154
Code 93の長さ制御.....	155

Code 93の長さ1の設定	156
Code 93の長さ2の設定	157
MSI	158
MSIの有効化/無効化	158
MSIのチェックキャラクタの計算	158
MSIのチェックキャラクタの送信	159
MSIの長さ制御	159
MSIの長さ1の設定	160
MSIの長さ2の設定	161
Plessey	162
Plesseyの有効化/無効化	162
Plesseyのチェックキャラクタの計算	163
Plesseyのチェックキャラクタの送信	163
Plesseyの長さ制御	164
Plesseyの長さ1の設定	165
Plesseyの長さ2の設定	166
郵便コードの選択	167
PostnetのBB制御	168
2D読み取りコード	169
2Dグローバル機能	169
2Dの最大デコード時間	170
2Dの通常/反転読み取りコード制御	171
2Dマルチフレーム タイムアウト	171
2D読み取りコードの選択	172
Aztec Code	173
Aztec Codeの有効化/無効化	173
Aztec Codeの長さ制御	173
Aztec Codeの長さ1の設定	173
Aztec Codeの長さ2の設定	174
China Sensible Code	175
China Sensible Codeの有効化/無効化	175
China Sensible Codeの長さ制御	175
China Sensible Codeの長さ1の設定	176
China Sensible Codeの長さ2の設定	177
Data Matrix	178
Data Matrixの有効化/無効化	178
Data Matrixのスマールコード	178
Data Matrixの正方形/長方形スタイル	179
Data Matrixの長さ制御	180
Data Matrixの長さ1の設定	180
Data Matrixの長さ2の設定	181
Maxicode	182
Maxicodeの有効化/無効化	182
Maxicodeのプライマリメッセージの送信	182
Maxicodeの長さ制御	183
Maxicodeの長さ1の設定	183
Maxicodeの長さ2の設定	184
PDF417	184
PDF417の有効化/無効化	184
Macro PDF417	185
PDF417の長さ制御	186
PDF417の長さ1の設定	186
PDF417の長さ2の設定	187
Micro PDF417	187
Micro PDF417の有効化/無効化	187
Micro PDF417のCode 128/GS-1-128エミュレーション	188
Micro PDF417の長さ制御	188
Micro PDF417の長さ1の設定	189
Micro PDF417の長さ2の設定	190
QRコード	191
QR Codeの有効化/無効化	191

QR Codeの長さ制御.....	192
Micro QR.....	193
Micro QRの有効化/無効化.....	193
UCC Composite.....	194
UCC Compositeの有効化/無効化.....	194
UCCオプション コンポジットタイマー.....	195
リファレンス.....	197
USB COMのパラメーター.....	197
コード間遅延.....	204
読み取りコード.....	205
長さの設定.....	205
データ編集.....	206
グローバルプレフィックス/サフィックス.....	207
グローバルAIM ID.....	208
ラベルID.....	209
文字変換.....	213
読み取り時のパラメーター.....	214
読み取り成功LEDの持続時間.....	214
スキャン機能.....	215
スキャンモード.....	215
スキャン有効時間.....	216
フラッシュオン時間.....	217
フラッシュオフ時間.....	218
読み取りコードによる複数ラベルの順序付け.....	219
技術仕様.....	223
LEDおよびピープ音による通知.....	227
エラーコード.....	228
標準の初期設定.....	229
サンプルバーコード.....	239
テンキー.....	243
スキャンコード表.....	247
制御文字エミュレーション.....	247
1回押して放すキー.....	247
インターフェイスの種類：USBキーボード.....	248
インターフェイスの種類：USBキーボード（ALTモード）.....	250
Microsoft Windowsコードページ1252.....	252
クイックセットアップ.....	253
OPOSドライバー.....	253
キャリッジリターン.....	254
タブ.....	255
音量.....	256

第1章 はじめに

このガイドについて

このプロダクトリファレンスガイド（PRG）は、接続、プログラミング、メンテナンス、仕様などの高度な技術情報を必要とするユーザーを対象としています。『HP Imaging Barcode Scanner User Guide』（◆HPイメージングバーコードスキャナーユーザーガイド◆）およびこの製品に関連する他の説明書は、HPのWebサイトから無料でダウンロードできます。

概要

第1章（この章）では、マニュアルの表記規則、およびスキャナーとその機能/動作の概要について説明します。

第2章「[セットアップ](#)」では、開梱、ケーブルの接続、およびスキャナーのセットアップについて説明します。

第3章「[バーコードを使用した設定](#)」では、スキャナーをカスタマイズするための手順およびバーコードラベルについて説明します。インターフェイスの種類、一般的な機能、データフォーマット、読み取りコード固有の機能、およびモデル固有の機能に関するさまざまなセクションが含まれています。

第4章「[リファレンス](#)」では、より複雑なプログラミング項目の背景情報および詳細手順を提供します。

付録A「[技術仕様](#)」には、物理特性、パフォーマンス特性、および環境や規定に関する仕様の一覧が記載されています。また、ケーブルの標準のピン配列やLED/ビープ音の機能についても説明します。

付録B「[標準の初期設定](#)」には、スキャナーの機能およびオプションに関する一般的な工場出荷時設定が記載されています。

付録C「[サンプルバーコード](#)」には、いくつかの一般的な読み取りコードのバーコード例が記載されています。

付録D「[テンキー](#)」には、特定のパラメーターの設定でスキャンされる数字バーコードが記載されています。

付録E「[スキャンコード表](#)」には、キーボードウェッジおよびUSBキーボードインターフェイス用の制御文字エミュレーションに関する情報の一覧が記載されています。

付録F「[クイックセットアップ](#)」には、キーボードウェッジおよびUSBキーボードインターフェイス用の制御文字エミュレーションに関する情報の一覧が記載されています。

マニュアルの表記規則

このガイドでは、以下の表記規則を使用しています。

以下に示す記号は、スキャナーの使用時に注意する必要がある重要な問題または手順を読者に知らせるために、ガイドの中で使用されています。



「注」には、スキャナーの適切な診断、修復、および操作に必要な情報が記載されています。



注意

「注意」記号は、機器または資産が損傷する可能性のある動作についてユーザーに注意を促します。

リファレンス

このプロダクトリファレンスガイド (PRG)、ユーザー ガイド、[HP Imaging Scanner Configuration]アプリケーションの最新版、およびこの製品の他のすべてのマニュアル、手順シート、およびユーティリティの最新版は、以下に記載したWebサイトからダウンロードできます。また、印刷版のマニュアルおよび製品サポートCDは、ほとんどの製品について、HP認定の再販業者またはサービス プロバイダーから購入できます。

テクニカル サポート

HPのWebサイトのサポート

HPのWebサイト (www.hp.com/jp/support/) は、HP製品のテクニカル サポートおよび技術情報の完全な情報源となります。このサイトは、製品サポート、製品登録、保証に関する情報、製品マニュアル、製品の技術ノート、ソフトウェア アップデート、デモ、および修理のために製品を送り返す手順を提供します。

再販業者によるテクニカル サポート

HP認定の再販業者は、優れた技術的支援や情報を提供します。再販業者は、特定の種類の業務、アプリケーション ソフトウェア、およびコンピューター システムに精通し、個別的な支援を提供できます。

電話でのテクニカル サポート

インターネットや電子メールでアクセスできない場合は、HP製のリテールPOSコンピューターに記載の電話番号を使用し、HPのテクニカル サポートまでお問い合わせください。

スキャナーについて

本体は通常、最も一般的な端末および通信の設定に合わせて工場出荷時にプログラムされています。設定された機能を変更する必要がある場合は、このガイドに記載されているプログラミングバーコードをスキャンして、カスタム設定を行うことができます。

HP製のバーコードスキャナーがこのマニュアルの対象となります。

別の方法として、スキャナーの付属CDからインストール可能な設定アプリケーションを使用してプログラミングを実行することもできます。このマルチプラットフォームのユーティリティプログラムでは、PCを使用してデバイスの設定を行えます。シリアルケーブルまたはUSBケーブルを使用してデバイスと通信し、設定用バーコードを作成して印刷することもできます。

イメージベースのスキャナーで使用されているLEDテクノロジーの進展によって、対象となる照射領域の照明が大幅に改善されたため、スキャンの効率が向上しました。人間工学に基づいたスキャナーの設計により、シングルトリガーモードまたは連続モードのどちらにおいても、長時間利用しているときの使いやすさが向上します。

スキャナーのプログラミング

設定方法

プログラミングバーコード

スキャナーには、一連の標準的な初期設定機能が工場出荷時に設定されています。インターフェイス用バーコードのスキャンが完了すると、選択したインターフェイスに対応する機能セクションに用意された手順やプログラミングバーコードラベルを使用して、その他のオプションを選択したりスキャナーをカスタマイズしたりできるようになります。さまざまな機能のカスタマイズ可能な設定については、17ページからの「バーコードを使用した設定」を参照してください。

一部のプログラミングラベル（15ページの「カスタム初期設定の復元」など）では、1つのラベルをスキャンするだけで変更が完了します。しかしほとんどのバーコードでは、スキャンする前にスキャナーをプログラミングモードにする必要があります。プログラミングモードを開始するには、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードを1回スキャンします。スキャナーがプログラミングモードになったら、いくつかのパラメーター設定をスキャンし、その後で[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンします。これで変更が確定され、プログラミングモードが終了し、スキャナーが通常の動作に戻ります。



上記の一般的なプログラミング手順には例外がいくつかあります。あらかじめ設定された各機能を変更する場合は、機能の説明および設定手順をよくお読みください。

設定ソフトウェア

[HP Imaging Scanner Configuration]はマルチプラットフォームのユーティリティプログラムであり、USB-COMインターフェイス経由での迅速でわかりやすい設定方法を提供します。このソフトウェアは、製品に付属のCD-ROMに含まれているほか、Webサイトからもダウンロードできます。このソフトウェアでは、PCで動作するわかりやすいグラフィカルインターフェイスから設定コマンドを選択することで、スキャナーを設定できます。これらのコマンドは選択した通信インターフェイスを介してスキャナーに送信されます。または、スキャンされるバーコードとして印刷することもできます。

このユーティリティでは、接続されているデバイスを対象にソフトウェアアップグレードを実行することもできます。

メモ

第2章 セットアップ

開梱

購入したスキャナーおよびオプション製品がすべて揃っていて、損傷がないことをよく確認します。配送中に何らかの損傷が発生した場合は、HPのテクニカル サポートにお問い合わせください。8ページに情報が記載されています。

梱包材は保管しておいてください。本体の保守が必要になった場合に、元の梱包箱に入れて送り返していただく必要があります。

スキャナーのセットアップ

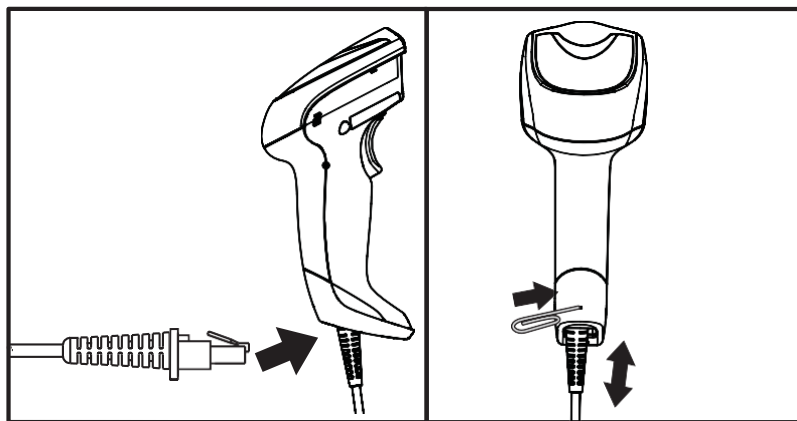
スキャナーを接続して組み立ててホストとの通信を行うには、このセクションで説明する操作を行います。

1. まず、インターフェイスケーブルの取り付けを行います。
2. 「インターフェイスの選択」に進み、目的のインターフェイスを設定します。
3. インターフェイスの設定を変更します(そのインターフェイスの工場出荷時設定を使用しない場合のみ)。
4. 「その他の機能の設定」に進みます(工場出荷時の設定から変更する必要がある場合)。

インターフェイスケーブルの取り付け

スキャナーケーブルを接続するには、図1に示すように、ケーブルをハンドルに挿入します。ケーブルを取り外すには、リリース用の開口部にクリップを挿入してからケーブルを引き抜きます。

図1.ケーブルの接続/取り外し

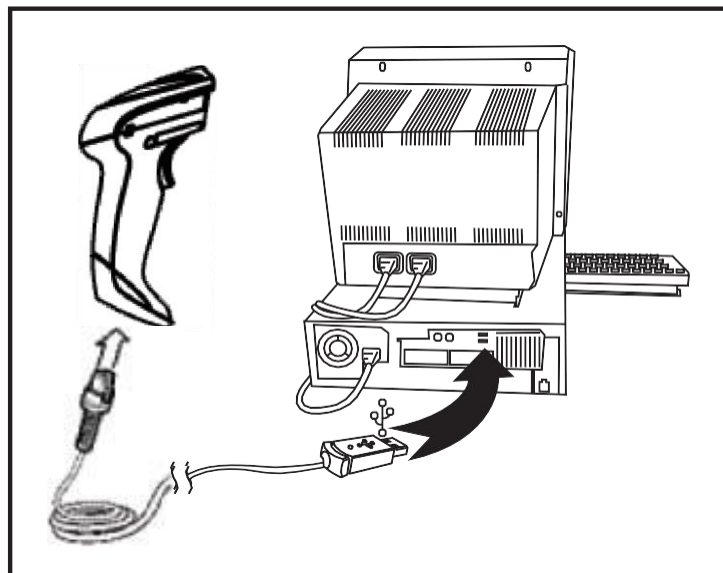


USB接続



購入したインターフェイスの種類に適したUSBケーブルを使用して、端末またはPC上のUSBポートにスキャナーを接続します。図2を参照してください。

図2.USB接続



インターフェイスの選択

スキャナーとホスト間の物理的な接続が完了したら、以下の表1に進み、スキャナーを接続するインターフェイスの種類を選択します。そのセクションの適切なバーコードをスキャンしてシステムに合ったインターフェイスの種類を設定します。

スキャナーはUSBホスト インターフェイスをサポートしています。

インターフェイスの設定

このセクションに記載されているプログラミング バーコードをスキャンして、スキャナーが接続されるシステムに合った適切なインターフェイスの種類を選択します。次に、このガイドの対応するセクション（表1にも記載されています）に進み、選択したインターフェイスに関連する目的の設定および機能をすべて設定します。



一部のプログラミング機能およびオプションとは異なり、インターフェイスの選択では1つのプログラミング バーコード ラベルのみをスキャンする必要があります。インターフェイス選択のバーコードをスキャンする前に、プログラミング モードの開始/終了バーコードをスキャンしないでください。

一部のインターフェイスでは、電源投入時にスキャナーが無効になった状態で起動する必要があります。スキャナーが無効になった状態でさらにスキャナーを設定する必要が生じた場合は、トリガーを5秒程度引いたままにします。バーコードを使用したプログラミングが可能な状態へと、スキャナーの状態が変わります。

表1.USBインターフェイスのオプション

USB-COM		機能
\$P,HA47,P\r  USB-COM-STDの選択 ^a	RS-232標準インターフェイスをシミュレートするためのUSB-COM	USB-COMインターフェイス機能の設定 (21ページから)
キーボード		機能
\$P,HA35,P\r  USB標準キーボードの選択	USB標準キーボード 	USBキーボードインターフェイス機能の設定 (29ページから)
USB標準キーボード (ALTモード)	\$P,HA2B,P\r  USB標準キーボード (ALTモード) の選択	

a. <http://www.hp.com/jp/> にアクセスして、HPのサポートおよびドライバー ダウンロード ページから正しいUSB Comドライバーをダウンロードしてください。

設定のカスタマイズ

インターフェイス設定の変更

前に記載されている表のインターフェイス用バーコードをスキャンした後、スキャナーをさらにカスタマイズするためのオプションを選択する必要がある場合は、17ページからの「[バーコードを使用した設定](#)」で、お使いのインターフェイスの種類に対応するセクションを参照してください。

- 21ページの「[USB-COMインターフェイス](#)」
- 29ページの「[キーボード設定](#)」

グローバルインターフェイス機能

すべてのインターフェイスタイプで設定可能な設定については、19ページの「[グローバルインターフェイス機能](#)」を参照してください。

その他の機能の設定

取り付け時に標準の工場出荷時の初期設定とは異なるプログラミングが必要な場合は、このガイドの以下のセクションで、インターフェイスに固有でない設定を必要に応じて行うことができます。

読み取り時のパラメーター：読み取り時のパラメーターには、スキャン、ビープ音やLEDインジケーター、およびその他の全般的な設定に関するプログラミングが含まれています。

1Dコードの選択：バーコード ラベルの種類（読み取りコード）に関するオプションが含まれています。これらの設定を使用すると、読み取りコードの有効化/無効化、ラベルの長さの設定、チェック デジットの要求などを行えます。

ソフトウェアバージョンの送信

以下のラベルをスキャンすると、デバイスのソフトウェアバージョンをUSB-COMおよびキーボードインターフェイス経由で送信できます。

RevA1r



ソフトウェアバージョンの送信

製品の設定の初期状態へのリセット

カスタム初期設定の復元

スキャナーに設定されているプログラミング オプションがわからなくなった場合、またはいくつかのオプションを変更した後でカスタム初期設定 (スキャナーに保存されている場合) に戻したくなった場合は、下の[カスタム初期設定の復元]バーコードをスキャンしてください。これにより、現在有効なインターフェイスのカスタム設定が復元されます。



カスタム初期設定は、インターフェイスの種類に基づいて行われます。このラベルをスキャンする前に、スキャナーを正しいインターフェイスに設定します。

\$P,HA00,P



カスタム初期設定の復元

メモ

第3章

バーコードを使用した設定

このセクションおよび以降のセクションでは、初期設定を変更する方法でスキャナーを設定するためのプログラミング バーコードについて説明します。その他のプログラミング方法について詳しくは、9ページの「設定方法」を参照してください。



「このセクションを使用するためには、最初にお使いのスキャナーでバーコードを読み取れるようにする必要があります。これをまだ行っていない場合は、11ページの「セットアップ」に進み、適切な手順を終わらせてください。

設定パラメーター

スキャナーをセットアップしたら、アプリケーションのニーズに合うように初期設定のパラメーターを変更できます。お使いのアプリケーションの初期設定値を設定したり、そのインターフェイスを選択したりするには、229ページからの「標準の初期設定」の初期設定値を参照してください。

目的の機能をそのリファレンス グループに基づいて簡単に見つけられるように、以下の設定パラメーターはいくつかの論理グループに分けられています。

インターフェイス設定：

- 21ページの「USB-COMインターフェイス」
- 29ページの「キーボード設定」

すべてのインターフェイスアプリケーションに共通のパラメーター：

- 37ページの「データ フォーマット」には、ホスト システムに送信されるメッセージを制御するためのオプションが記載されています。
- 47ページの「読み取り時のパラメーター」は、さまざまな動作モードおよびインジケータのステータスの機能を制御します。

読み取りコード固有のパラメーター：

- 67ページの「1Dコードの選択」には、1Dコード、コード ファミリー、およびそのオプションを個別に組み合わせるための設定が記載されています。
- 172ページの「2D読み取りコードの選択」には、2Dコード、コード ファミリー、およびそのオプションを個別に組み合わせるための設定が記載されています。



このセクションを使用するためには、最初にお使いのスキャナーでバーコードを読み取れるようにする必要があります。これをまだ行っていない場合は、11ページの「セットアップ」に進み、適切な手順を終わらせてください。

各機能を設定するには、以下の操作を行います。

1. 各プログラミング ページの一番上に表示されている[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンします (該当する場合)。
2. 目的のプログラミング機能を設定するためのバーコードをスキャンします。スキャン対象のバーコードのみがスキャナーで確実に読み取られるように、そのページおよび (場合によっては) 見開きページ上の使用しないバーコードを隠す必要が生じる場合があります。
3. その他の入力パラメーターが必要な場合は、付録D「テンキー」に進み、テンキーの適切な文字をスキャンします。



「リファレンス」の章には、多くの機能に関する追加情報が記載されています。

最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力直すことができます。

4. 一連のプログラミング手順を完了します。このためには、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンしてプログラミングモードを終了します。

選択した設定項目の設定に関する詳細な説明、プログラミング情報、および例については、197ページからの「リファレンス」を参照してください。






グローバル インターフェイス機能

以下のインターフェイス機能は、すべての種類のインターフェイスで設定可能です。

ホスト コマンド : 従う/無視




このオプションは、スキャナーがホスト コマンドに従うか、それともホスト コマンドを無視するかを指定します。無視するように設定した場合、スキャナーは以下の処理に必要なコマンドを除き、すべてのホスト コマンドを無視します。

- サービスモード
- フラッシュプログラミングモード
- インターフェイスをアクティブな状態に保つ
- ラベルの送信

	<p>\$CIF IH00</p>  <p>ホスト コマンド=従う</p>
<p>\$CIF IH01</p>  <p>ホスト コマンド=無視</p>	

USBサスペンドモード

この設定は、USBインターフェイスがサスペンドモードに入る機能を有効または無効にします。

	<p>\$CUSSE00</p>  <p>USBサスペンドモード=無効</p>
<p>\$CUSSE01</p>  <p>USBサスペンドモード=有効</p>	



プログラミングモードの開始/終了

メモ

USB-COMインターフェイス

文字間遅延 (22ページ)
ASCII BELでのビープ音 (22ページ)
Not on Fileでのビープ音 (23ページ)
ACK/NAKオプション (23ページ)
ACK文字 (24ページ)
NAK文字 (24ページ)
ACK/NAKタイムアウト値 (25ページ)
ACK/NAK再試行回数 (25ページ)
ACK/NAKのエラー処理 (26ページ)
送信エラーの通知 (26ページ)
無効化文字 (27ページ)
有効化文字 (27ページ)

このガイドに記載されているプログラミングバーコードを使用すると、標準のUSB-COMインターフェイスを変更できます。標準の工場出荷時設定の一覧については、[付録B「標準の初期設定」](#)を参照してください。



文字間遅延

このパラメーターは、ある文字の末尾が送られてから次の文字の先頭が送られるまでの文字間の遅延時間を指定します。遅延時間は、0（ゼロ）～990ミリ秒の範囲（10ミリ秒単位）で設定できます。0を設定すると、遅延なしになります。

詳しくは、[197ページ](#)を参照してください。




	\$CR2IC00  文字間遅延=遅延なし
\$CR2IC  文字間遅延の設定の選択	
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。	~  キャンセル



00=文字間遅延なし

ASCII BELでのビープ音




このパラメーターを有効にすると、シリアル回線で<BEL>文字が検出されたときにスキャナーでビープ音が鳴ります。<BEL>は、不正な入力またはその他の重要なイベントに対してユーザーの注意を促すために発行されます。

\$CR2BB00  ASCII BELでのビープ音=無効	
	\$CR2BB01  ASCII BELでのビープ音=有効



Not on Fileでのビープ音

このオプションは、NOF (Not-On-File) ホスト コマンドの受信時にスキャナーでビープ音を続けて3回鳴らす動作を有効または無効にします。

<p>\$CBPNF00</p>  <p>Not on Fileでのビープ音=無効</p>	
	<p>\$CBPNF01</p>  <p>Not on Fileでのビープ音=有効</p>

ACK/NAKのオプション

このオプションは、スキャナーのACK/NAKプロトコルサポート機能を有効または無効にします。詳しくは、[198ページ](#)を参照してください。


	<p>\$CR2AE00</p>  <p>ACK/NAKプロトコル=ACK/NAKを無効</p>
<p>\$CR2AE01</p>  <p>ACK/NAKプロトコル=ラベルの送信で有効</p>	
	<p>\$CR2AE02</p>  <p>ACK/NAKプロトコル=ホスト コマンドの確認応答で有効</p>
<p>\$CR2AE03</p>  <p>ACK/NAKプロトコル=ラベルの送信およびホスト コマンドの確認応答で有効</p>	



プログラミングモードの開始/終了

ACK文字

この設定は、ACK文字として使用するASCII文字または16進値を指定します。ASCII文字または0~0xFFの16進値を選択できます。詳しくは、[198ページ](#)を参照してください。


<p>\$CR2AC</p>  <p>ACK文字設定の選択</p>	
--	--

初期設定

0x06 「ACK」 文字

NAK文字

この設定は、NAK文字として使用するASCII文字または16進値を指定します。ASCII文字または0~0xFFの16進値を選択できます。詳しくは、[199ページ](#)を参照してください。

<p>\$CR2NA</p>  <p>NAK文字設定の選択</p>	
--	--

初期設定



0x15 「NAK」 文字



ACK/NAKのタイムアウト値

このオプションは、ラベルの送信後にホストからACK文字が送られてくるまでスキャナーが待機する時間を指定します。選択できるタイムアウト値の範囲は、200～15,000ミリ秒（15秒）（200ミリ秒単位）です。0を選択すると、タイムアウトは無効になります。

この機能の設定について詳しくは、[200ページ](#)を参照してください。



<p>\$CR2AT</p>  <p>ACK/NAKのタイムアウト値設定の選択</p>	
<p>入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。</p>	<p>~</p>  <p>キャンセル</p>

初期設定

01=ACK/NAKのタイムアウト値は200ミリ秒

ACK/NAKの再試行回数

この機能は、再試行状態のためにスキャナーでラベルの送信を再試行する回数を指定します。選択できる再試行回数は1～254です。0を選択すると、再試行回数は無効になり、255を選択すると、再試行回数は無制限になります。詳しくは、[201ページ](#)を参照してください。

<p>\$CR2AR</p>  <p>ACK/NAKの再試行回数設定の選択</p>	
<p>入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。</p>	<p>~</p>  <p>キャンセル</p>

初期設定


003=3回の再試行



プログラミングモードの開始/終了

ACK/NAKのエラー処理

この機能は、ホストからのACK文字の待機中に検出された受信エラーをスキャナーで処理する方法を指定します。

	<p>\$CR2EH00</p>  <p>ACK/NAKのエラー処理=検出されたエラーを無視</p>
<p>\$CR2EH01</p>  <p>ACK/NAKのエラー処理=エラーを有効なACK文字として処理</p>	
	<p>\$CR2EH02</p>  <p>ACK/NAKのエラー処理=エラーを有効なNAK文字として処理</p>

送信エラーの通知

このオプションは、ACK/NAKモードのときにスキャナーで送信エラーを知らせるピープ音を鳴らす機能を有効または無効にします。

	<p>\$CR2TF00</p>  <p>送信エラーの通知=通知を無効</p>
<p>\$CR2TF01</p>  <p>送信エラーの通知=通知を有効</p>	



無効化文字

スキャナーの無効化に使用されるホスト コマンドの値を指定します。ASCII文字または0～0xFFの16進値を選択できます。

この機能の設定について詳しくは、[202ページ](#)を参照してください。

\$CR2DC



無効化文字設定の選択

初期設定

0x44=無効化文字は「D」

有効化文字

スキャナーの有効化に使用されるホスト コマンドの値を指定します。ASCII文字または0～0xFFの16進値を選択できます。

この機能の設定について詳しくは、「リファレンス」の[203ページ](#)を参照してください。

\$CR2EC



有効化文字設定の選択

初期設定

0x45=有効化文字は「E」



プログラミングモードの開始/終了

メモ

キーボードの設定

国モード (30ページ)
制御文字の送信 (32ページ)
コード間遅延 (33ページ)
Caps Lockの状態 (33ページ)
USBキーボードの速度 (34ページ)
USBキーボードのテンキー (35ページ)

USBキーボードおよびキーボード ウェッジ インターフェイス用のオプションを選択するには、この章に記載されているプログラミング バーコードを使用します。標準の工場出荷時設定の一覧については、付録B「標準の初期設定」を参照してください。








キーボード インターフェイスに適用される制御文字エミュレーションに関する情報の一覧は、付録E「スキャンコード表」に記載されています。



プログラミングモードの開始/終了

国モード

この機能は、USBキーボードによってサポートされる国や言語を指定します。

	<p>\$CKBC000</p>  <p>国モード=米国</p>
<p>\$CKBC001</p>  <p>国モード=ベルギー</p>	
	<p>\$CKBC002</p>  <p>国モード=英国</p>
<p>\$CKBC003</p>  <p>国モード=デンマーク</p>	<p>国モード機能の説明に記載されているインターフェイスにのみ対応しています。</p>
	<p>\$CKBC004</p>  <p>国モード=フランス</p>
<p>\$CKBC005</p>  <p>国モード=ドイツ</p>	
<p>国モード機能の説明に記載されているインターフェイスにのみ対応しています。</p>	<p>\$CKBC00D</p>  <p>国モード=ハンガリー</p>



国モード（続き）

<p>\$CKBC006</p>  <p>国モード=イタリア</p>	
<p>国モード機能の説明に記載されているインターフェイスにのみ対応しています。</p>	<p>\$CKBC00C</p>  <p>国モード=日本語106キー</p>
<p>\$CKBC007</p>  <p>国モード=ノルウェー</p>	<p>国モード機能の説明に記載されているインターフェイスにのみ対応しています。</p>
<p>国モード機能の説明に記載されているインターフェイスにのみ対応しています。</p>	<p>\$CKBC008</p>  <p>国モード=ポルトガル</p>
<p>\$CKBC009</p>  <p>国モード=スペイン</p>	
<p>\$CKBC00A</p>  <p>国モード=スウェーデン</p>	
<p>\$CKBC00F</p>  <p>国モード=スロバキア</p>	<p>国モード機能の説明に記載されているインターフェイスにのみ対応しています。</p>



プログラミングモードの開始/終了

制御文字の送信

この機能は、スキャナーからホストにASCII制御文字を送信する方法を指定します。制御文字について詳しくは、付録E「スキャンコード表」を参照してください。

オプションは、以下のとおりです。

制御文字00：00～0x1Fの文字は制御文字[Ctrl] + キーとして送信され、特殊キーは0x80～0xA1に配置されます。

制御文字01：00～0x1Fの文字は制御文字[Ctrl] + 大文字キーとして送信され、特殊キーは0x80～0xA1に配置されます。

制御文字02：特殊文字は00～0x1Fに配置され、0x80～0xFEの文字は拡張ASCII表（Microsoft Windowsコードページ1252：252ページの「Microsoft Windows Codepage 1252」を参照してください）に従って送信されるよう意図されています。


	<p>\$CKBSC00</p>  <p>ウェッジでの制御文字の送信=00</p>
<p>\$CKBSC01</p>  <p>ウェッジでの制御文字の送信=01</p>	
	<p>\$CKBSC02</p>  <p>ウェッジでの制御文字の送信=02</p>



コード間遅延

キーボード インターフェイスでホストに送信されるラベル間の遅延時間を指定します。この機能の選択可能な範囲は、0~99秒です。

この機能の設定に関する詳細情報および例については、「リファレンス」の204ページを参照してください。





\$CKBID  コード間遅延の設定	
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。	~ キャンセル


 初期設定

00=ウェッジのコード間遅延なし

Caps Lockの状態

このオプションは、スキャナーから送信される文字データのフォーマットを指定します。標準キーボード（ALTモード）を選択した場合、このオプションは適用されません。

 初期設定	\$CKBCL00  Caps Lockの状態=Caps Lockオフ
\$CKBCL01  Caps Lockの状態=Caps Lockオン	
	\$CKBCL02  Caps Lockの状態=自動Caps Lock有効



プログラミングモードの開始/終了

USBキーボードの速度

このオプションは、USBキーボードのUSBポーリングレートを指定します。



この機能はUSBキーボードインターフェイスにのみ適用されます。

	\$CKBSP01 USBキーボードの速度=1ミリ秒
\$CKBSP02 USBキーボードの速度=2ミリ秒	
	\$CKBSP03 USBキーボードの速度=3ミリ秒
\$CKBSP04 USBキーボードの速度=4ミリ秒	
	\$CKBSP05 USBキーボードの速度=5ミリ秒
\$CKBSP06 USBキーボードの速度=6ミリ秒	






プログラミング モードの開始/終了

USBキーボードの速度（続き）

	\$CKBSP07  USBキーボードの速度=7ミリ秒
\$CKBSP08  USBキーボードの速度=8ミリ秒	
	\$CKBSP09  USBキーボードの速度=9ミリ秒
\$CKBSP0A  USBキーボードの速度=10ミリ秒	

USBキーボードのテンキー

このオプションは、数字の送信に標準のキーまたはテンキーのどちらを使用するかを制御します。

	\$CKBKP00\r  標準キー
\$CKBKP01\r  テンキー	



プログラミングモードの開始/終了

メモ

データフォーマット

グローバルプレフィックス/サフィックス (38ページ)
グローバルAIM ID (39ページ)
ラベルID (40ページ)
ラベルID (40ページから) <ul style="list-style-type: none">• 個別設定ラベルID• 個別設定ラベルID• ラベルIDの制御• ラベルIDの読み取りコードの選択：1D読み取りコード
文字変換 (45ページ)



注意

これらの機能をIBMインターフェイスで使用することはおすすめしません。


この章に記載されている機能を使用すると、特定のユーザー定義データをメッセージ文字列に組み込むことができます。これらの機能の設定手順について詳しくは、[206ページからの「リファレンス」](#)を参照してください。



グローバルプレフィックス/サフィックス

このオプションでは最大20文字を設定し、各文字はASCII文字セットまたは00～FFの16進値から選択できます。これらの文字は、プレフィックス（ヘッダーとも呼ばれる）として（バーコード データの前の位置に）追加することも、サフィックス（フッターとも呼ばれる）として（バーコード データの後の位置に）追加することもできます。この機能の設定手順について詳しくは、[207ページ](#)を参照してください。

この機能を設定するには、上の[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンして本体をプログラミングモードにしてから、[グローバルプレフィックスの設定]または[グローバルサフィックスの設定]バーコードをスキャンした後、[付録D「テンキー」](#)に記載されている英数字から、目的の文字を表す数字（16進数）を指定します。想定された20文字よりも少ない文字列を選択した場合は、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンして文字列を終了します。プログラミングモードを終了するには、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンします。

	<p>\$CLFPR</p>  <p>グローバルプレフィックスの設定</p>
<p>\$CLFSU</p>  <p>グローバルサフィックスの設定</p>	
<p>入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。</p>	<p>~</p>  <p>キャンセル</p>

初期設定

グローバルプレフィックスなし
グローバルサフィックス=0x0D



グローバルAIM ID



この機能は、すべての種類の読み取りコードを対象にAIM IDの追加を有効または無効にします。

(ラベルIDのようにユーザー自身が選択するカスタム文字とは対照的に) AIMラベルIDをスキャンされたバーコードデータに付加できます。AIMラベルIDは、以下のように3つの文字で構成されます。

- 閉じ括弧文字 (ASCIIの「」)。この後に以下の文字が続きます。
- コード文字 (以下の表のいくつかのサンプルを参照してください)。この後に以下の文字が続きます。
- 修飾文字 (修飾文字は読み取りコードによって決まります)。

読み取りコード	文字	読み取りコード	文字
UPC/EAN	E ^a	Code 128/GS1-128	C
Code 39および Code 32	A	DataBar Omnidirectional, DataBar Expanded	e
Codabar	F	Standard 2 of 5	S
Interleaved 2 of 5	I	ISBN	X ^b
Code 93	G	Code 11	H

a. AIM IDの追加時に、UPC-AおよびUPC-EラベルはEAN 13に変換されます。

b. ISBN (修飾文字0が付いたX)

	\$CAIEN00 グローバルAIM ID=無効
\$CAIEN01 グローバルAIM ID=有効	



ラベルID

ラベルIDは、最大3つのASCII文字（各文字は0x01～0xFFの16進値のどれか）で構成されるカスタマイズ可能なコードであり、バーコード（読み取りコード）の種類を識別するために使用されます。このオプションを有効にする方法に応じて、送信されるバーコード データの前または後ろにラベルIDを連結できます。この機能には、カスタムのラベルIDを読み取りコードごとに個別に設定するためのオプションが用意されています（40ページの「個別設定ラベルID」を参照してください）。「すべての」種類の読み取りコードで常に業界標準のラベルIDが含まれるようにスキャナーをプログラミングする場合は、前の機能、39ページの「グローバルAIMID」を参照してください。

この機能の設定について詳しくは、「リファレンス」の209ページからの「ラベルID」を参照してください。

個別設定ラベルID

この機能は、1つの読み取りコードのラベルIDを個別に設定します。設定するには、まず以下のラベルをスキャンして、ラベルIDをプレフィックス、サフィックスのどちらにするかを定義します。次に、41ページからの「ラベルID の読み取りコードの選択 - 1D読み取りコード」で設定対象の読み取りコードを選択した後、このマニュアルの末尾にあるASCIIの表から最大3つの文字を選択します。この機能の設定手順について詳しくは、211ページからの「ラベルID：読み取りコードごとに個別設定」を参照してください。

ラベルIDの制御

このオプションは、指定された種類の読み取りコードについて、ラベルIDを無効にするか、ラベルIDをプレフィックスとして送信するか、それともラベルIDをサフィックスとして送信するかを制御します。

	<p>\$CIDC000</p>  <p>ラベルIDの送信=無効</p>
<p>\$CIDC001</p>  <p>ラベルIDの送信=プレフィックスとして有効</p>	
	<p>\$CIDC002</p>  <p>ラベルIDの送信=サフィックスとして有効</p>
<p>~</p>  <p>キャンセル</p>	<p>入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。</p>



ラベルIDの読み取りコードの選択 : 1D読み取りコード

前のページの[ラベルIDの制御]の設定後、以下の表を使ってラベルIDの設定対象となる読み取りコードを選択します。手順について詳しくは、「リファレンス」の211ページを参照してください。

\$CACID  ABC CodabarのラベルID文字の設定	\$CP3ID  Code 32 PharmacodeのラベルID文字の設定
\$CALID  Anker PlesseyのラベルID文字の設定	\$CC9ID  Code 93のラベルID文字の設定
\$CCBID  CodabarのラベルID文字の設定	\$CIBID  Concatenated ISBT 128のラベルID文字の設定
\$CC1ID  Code 11のラベルID文字の設定	\$CDPID  Danish PPTのラベルID文字の設定
\$CC8ID  Code 128のラベルID文字の設定	\$C3BID  EAN 13のラベルID文字の設定
\$CC3ID  Code 39のラベルID文字の設定	\$C3MID  EAN 13 CompositeのラベルID文字の設定
\$CCCID  Code 39 CIPのラベルID文字の設定	\$C32ID  EAN 13 P2のラベルID文字の設定
\$C8BID  EAN 8のラベルID文字の設定	\$C35ID  EAN 13 P5のラベルID文字の設定



ラベルIDの読み取りコードの選択：1D読み取りコード

<p>\$C8MID</p>  <p>EAN 8 CompositeのラベルID文字の設定</p>	<p>\$CXCID</p>  <p>GS1 DataBar Expanded CompositeのラベルID文字の設定</p>
<p>\$C82ID</p>  <p>EAN 8 P2のラベルID文字の設定</p>	<p>\$CU8ID</p>  <p>GS1-128のラベルID文字の設定</p>
<p>\$C85ID</p>  <p>EAN 8 P5のラベルID文字の設定</p>	<p>\$CUMID</p>  <p>GS1-128 CompositeのラベルID文字の設定</p>
<p>\$C4BID</p>  <p>GS1 DataBar 14のラベルID文字の設定</p>	<p>\$CLBID</p>  <p>GS1 DataBar LimitedのラベルID文字の設定</p>
<p>\$C4CID</p>  <p>GS1 DataBar 14 CompositeのラベルID文字の設定</p>	<p>\$CLCID</p>  <p>GS1 DataBar Limited CompositeのラベルID文字</p>
<p>\$CXBID</p>  <p>GS1 DataBar ExpandedのラベルID文字の設定</p>	<p>\$CG2ID</p>  <p>GTIN 2のラベルID文字の設定</p>
<p>\$CIAID</p>  <p>IATA Industrial 2 of 5のラベルID文字の設定</p>	<p>\$CG5ID</p>  <p>GTIN 5のラベルID文字の設定</p>
<p>\$CU2ID</p>  <p>Industrial 2 of 5のラベルID文字の設定</p>	<p>\$CGBID</p>  <p>GTIN 8のラベルID文字の設定</p>



ラベルIDの読み取りコードの選択：1D読み取りコード（続き）

\$CI2ID  Interleaved 2 of 5のラベルID文字の設定	\$CMSID  MSIのラベルID文字の設定
\$CISID  ISBNのラベルID文字の設定	\$CPLID  PlesseyのラベルID文字の設定
\$CINID  ISSNのラベルID文字の設定	\$CAMID  UPC-A CompositeのラベルID文字の設定
\$CPZID  PZN CodeのラベルID文字の設定	\$CA2ID  UPC-A P2のラベルID文字の設定
\$CS2ID  Standard 2 of 5のラベルID文字の設定	\$CA5ID  UPC-A P5のラベルID文字の設定
\$CCTID  Trioptic CodeのラベルID文字の設定	\$CEBID  UPC-EのラベルID文字の設定
\$CABID  UPC-A CodeのラベルID文字の設定	\$CE5ID  UPC-E P5のラベルID文字の設定
\$CLPID  LaPoste Code 39のラベルID文字の設定	



ラベルIDの読み取りコードの選択 : 2D読み取りコード

\$CAZID  AztecのラベルID文字の設定	\$CMXID  MaxicodeのラベルID文字の設定
\$CCSID  China SensibleのラベルID文字の設定	\$CP4ID  PDF 417のラベルID文字の設定
\$CDMID  Data MatrixのラベルID文字の設定	\$CMIID  Micro PDF 417のラベルID文字の設定
\$CPNID  PostnetのラベルID文字の設定	\$CQRID  QRコードのラベルID文字の設定
\$CPPID  Planet郵便番号のラベルID文字の設定	\$CPJID  日本の郵便番号のラベルID文字の設定
\$CPRID  英国の郵便番号のラベルID文字の設定	\$CPSID  スウェーデンの郵便番号のラベルID文字の設定
\$CPKID  Kix郵便番号のラベルID文字の設定	\$CPMID  IMB郵便番号のラベルID文字の設定
\$CPAID  オーストラリアの郵便番号のラベルID文字の設定	\$CPGID  ポルトガルの郵便番号のラベルID文字の設定







大文字/小文字変換

この機能を使用すると、すべてのアルファベット文字を大文字または小文字に変換できます。



大文字/小文字変換は、スキャンされたバーコードデータにのみ影響し、ラベルID、プレフィックス、サフィックス、またはその他の付加データには影響しません。



	<p>\$CLFCA00</p>  <p>大文字/小文字変換=無効 (大文字/小文字変換なし)</p>
<p>\$CLFCA01</p>  <p>大文字/小文字変換=大文字に変換</p>	
	<p>\$CLFCA02</p>  <p>大文字/小文字変換=小文字に変換</p>

文字変換

文字変換は、8バイトの設定項目です。この8バイトは、16進のASCII値で表現された4つの文字ペアです。ペアの最初の文字は変換前の文字です。ペアの2つ目の文字は変換後の文字です。ペア内の変換する文字が「FF」である場合、変換は行われません。



想定された16文字よりも少ない文字列を選択した場合は、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードを2回スキャンすることで、選択を受け入れてプログラミングモードを終了します。

	<p>\$CLFCH</p>  <p>文字変換の設定</p>
	<p>0xFFFFFFFFFFFFFFF</p> <p>(文字変換なし)</p>



メモ

読み取り時のパラメーター









二重読み取りのタイムアウト (48ページ)	スキャンモード (56ページ)
スリープモードのタイムアウト (50ページ)	スタンドモードでのトリガーのタイムアウト (57ページ)
電源投入時の警告 (51ページ)	スタンドの動作 (59ページ)
読み取り成功：通知のタイミング (51ページ)	スタンドモードでの感度 (60ページ)
読み取り成功ビープ音の種類 (52ページ)	スキャン有効時間 (60ページ)
読み取り成功ビープ音の周波数 (52ページ)	フラッシュオン時間 (61ページ)
読み取り成功ビープ音の長さ (53ページ)	フラッシュオフ時間 (62ページ)
読み取り成功ビープ音の音量 (54ページ)	緑色スポットの持続時間 (62ページ)
読み取り成功LEDの持続時間 (55ページ)	ピックモード (63ページ)
携帯電話モード (63ページ)	
ボリューム（読取範囲）内の複数ラベルの読み取り (64ページ)	
フレーム（時間枠）ごとの複数ラベル (65ページ)	
コード長による複数ラベルの順序付け (66ページ)	
読み取りコードによる複数ラベルの順序付け (65ページ)	



二重読み取りのタイムアウト

[二重読み取りのタイムアウト]は、同じラベルの二重読み取りを防ぐため、同じ読み取りコードおよびデータのラベルの読み取りの間に許可される最小時間を設定します。本体でラベルが読み取られた後、指定されたタイムアウト内に同じラベルが再度検出された場合、その2回目の読み取りは無視されます。

[二重読み取りのタイムアウト]は、ラベルを読み取るたびにトリガーを引く必要のあるスキャンモードには適用されません。

	\$CSNDR0A  二重読み取りのタイムアウト=0.1秒
\$CSNDR14  二重読み取りのタイムアウト=0.2秒	
	\$CSNDR1E  二重読み取りのタイムアウト=0.3秒
\$CSNDR28  二重読み取りのタイムアウト=0.4秒	
	\$CSNDR32  二重読み取りのタイムアウト=0.5秒
\$CSNDR3C  二重読み取りのタイムアウト=0.6秒	
	\$CSNDR46  二重読み取りのタイムアウト=0.7秒



二重読み取りのタイムアウト（続き）

<p>\$CSNDR50</p>  <p>二重読み取りのタイムアウト=0.8秒</p>	
	<p>\$CSNDR5A</p>  <p>二重読み取りのタイムアウト=0.9秒</p>
<p>\$CSNDR64</p>  <p>二重読み取りのタイムアウト=1秒</p>	



プログラミングモードの開始/終了

スリープモードのタイムアウト

この機能は、スキャナーが省電力のスリープモードに移行するまでのアイドル時間の長さを設定します。スリープモードに移行したスキャナーは、トリガーを引いて復帰しない限り、ホストからのコマンドを受信できなくなります。



<p>\$CSLT000</p>  <p>スリープモードのタイムアウト=無効</p>	
<p>\$CSLT001</p>  <p>スリープモードのタイムアウト=1秒</p>	<p>\$CSLT002</p>  <p>スリープモードのタイムアウト=2秒</p>
<p>\$CSLT003</p>  <p>スリープモードのタイムアウト=3秒</p>	<p>\$CSLT004</p>  <p>スリープモードのタイムアウト=4秒</p>
<p>\$CSLT005</p>  <p>スリープモードのタイムアウト=5秒</p>	<p>\$CSLT006</p>  <p>スリープモードのタイムアウト=6秒</p>
<p>\$CSLT007</p>  <p>スリープモードのタイムアウト=7秒</p>	<p>\$CSLT008</p>  <p>スリープモードのタイムアウト=8秒</p>
<p>\$CSLT009</p>  <p>スリープモードのタイムアウト=9秒</p>	<p>\$CSLT00A</p>  <p>スリープモードのタイムアウト=10秒</p>



LEDおよびビープ音によるインジケータ




電源投入時の警告

スキャナーに電力が供給されているという（ビープ音による）通知を無効または有効にします。

	\$CBPPU00  電源投入時の警告=無効（ビープ音による通知なし）
\$CBPPU01  電源投入時の警告=4回のビープ音	

読み取り成功：通知のタイミング

この機能は、バーコードの読み取りに成功した場合にスキャナーから通知される（ビープ音が鳴ったり、緑色のLEDが点滅したりする）タイミングを指定します。




	\$CBPIN00  読み取り成功の通知=デコード後
\$CBPIN01  読み取り成功の通知=送信後	



プログラミングモードの開始/終了

読み取り成功ビープ音の種類

読み取り成功ビープ音が単音調か複音調かを指定します。

	<p>\$CBPTY00</p>  <p>読み取り成功ビープ音の種類=単音調</p>
<p>\$CBPTY01</p>  <p>読み取り成功ビープ音の種類=複音調</p>	

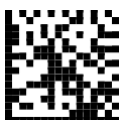








読み取り成功ビープ音の周波数

以下の一覧から選択できる低い、中程度、または高い周波数で鳴るように読み取り成功ビープ音を調整します。(ビープ音の音程の高さや階調を制御します。)

	<p>\$CBPFR00</p>  <p>読み取り成功ビープ音の周波数=低</p>
<p>\$CBPFR01</p>  <p>読み取り成功ビープ音の周波数=中</p>	
	<p>\$CBPFR02</p>  <p>読み取り成功ビープ音の周波数=高</p>



読み取り成功ビープ音の長さ

	\$CBPLE06  読み取り成功ビープ音の長さ=60ミリ秒
\$CBPLE08  読み取り成功ビープ音の長さ=80ミリ秒	
	\$CBPLE0A  読み取り成功ビープ音の長さ=100ミリ秒
\$CBPLE0C  読み取り成功ビープ音の長さ=120ミリ秒	
	\$CBPLE0E  読み取り成功ビープ音の長さ=140ミリ秒
\$CBPLE10  読み取り成功ビープ音の長さ=160ミリ秒	
	\$CBPLE12  読み取り成功ビープ音の長さ=180ミリ秒
\$CBPLE14  読み取り成功ビープ音の長さ=200ミリ秒	



プログラミングモードの開始/終了

読み取り成功ビープ音の音量

読み取り成功ビープ音を鳴らすときの音量（音の大きさ）を指定します。3つの音量レベルを選択できます。



	\$CBPV000  読み取り成功ビープ音の音量=ビープ音オフ
\$CBPV001  読み取り成功ビープ音の音量=小	
	\$CBPV002  読み取り成功ビープ音の音量=中
\$CBPV003  読み取り成功ビープ音の音量=大	



読み取り成功LEDの持続時間

この機能は、読み取りの成功後に読み取り成功を示すLEDがオンのままになる時間を指定します。読み取り成功LEDの持続時間は、10～2,550ミリ秒（0.001～2.55秒）の範囲（100ミリ秒単位）で設定できます。

この機能の設定に関する詳細手順および例については、「リファレンス」の214ページを参照してください。

<p>\$CLAGL</p>  <p>読み取り成功のLEDの持続時間設定の選択</p>	
<p>入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。</p>	<p>~</p>  <p>キャンセル</p>



020=読み取り成功のLEDが2秒間オンのままになる



スリープ時にはインジケータは消灯します。










プログラミングモードの開始/終了

スキャン機能

スキャンモード

スキャナーのスキャン動作モードを選択します。説明については、「リファレンス」の215ページを参照してください。

<p>\$CSNRM00</p>  <p>スキャンモード=トリガー シングル</p>	
	<p>\$CSNRM01</p>  <p>スキャンモード=トリガー ホールド マルチ</p>
<p>\$CSNRM02</p>  <p>スキャンモード=トリガー パルス マルチ</p>	
	<p>\$CSNRM03</p>  <p>スキャンモード=フラッシング</p>
<p>\$CSNRM04</p>  <p>スキャンモード=常時オン</p>	
	<p>\$CSNRM05</p>  <p>スキャンモード=スタンバイモード</p>



スタンドモードでのトリガーのタイムアウト

この機能は、スタンドモードでトリガーが引かれた後、トリガーシングルモードがどれだけの時間維持されるかを指定します。



このタイムアウトは、スキャンモードをスタンドモードに設定している場合のみ使用されます。

<p>\$CSNOT01</p>  <p>スタンドモードでのトリガーのタイムアウト=0.5秒</p>	
	<p>\$CSNOT03</p>  <p>スタンドモードでのトリガーのタイムアウト=1.5秒</p>
<p>\$CSNOT04</p>  <p>スタンドモードでのトリガーのタイムアウト=2秒</p>	
	<p>\$CSNOT06</p>  <p>スタンドモードでのトリガーのタイムアウト=3秒</p>
<p>\$CSNOT08</p>  <p>スタンドモードでのトリガーのタイムアウト=4秒</p>	



プログラミングモードの開始/終了

スタンドモードでのトリガーのタイムアウト（続き）

	<p>\$CSNOTOC</p>  <p>スタンドモードでのトリガーのタイムアウト=6秒</p>
<p>\$CSNOT10</p>  <p>スタンドモードでのトリガーのタイムアウト=8秒</p>	
	<p>\$CSNOT00</p>  <p>スタンドモードでのトリガーのタイムアウト=トリガーが引かれた時点でトリガー シングルに戻る</p>



スタンドの動作

自動認識ハードウェアを搭載したスタンドに置かれているときのスキャナーの動作を指定します。

自動認識を無視：スキャナーがスタンドに置かれているときのモード切り替えを無効にします。

スタンドモードに切り替え：スキャナーがスタンドに置かれているときにスキャナーを自動的にスタンドモードに切り替えます。

フラッシングに切り替え：スキャナーがスタンドに置かれているときにスキャナーを自動的にフラッシュモードに切り替えます。

常時オンに切り替え：スキャナーがスタンドに置かれているときにスキャナーを自動的に常時オンモードに切り替えます。

	\$CSMSD00  自動認識を無視
\$CSMSD01  スタンドモードに切り替え	
	\$CSMSD02  常時オンに切り替え
\$CSMSD03  フラッシングに切り替え	



プログラミングモードの開始/終了





スタンドモードでの感度

スタンドモードでのスリープ解除の感度レベルを設定します。低、中、または高を選択できます。

	\$CSMSE00  スタンドモードでの感度=低
\$CSMSE01  スタンドモードでの感度=中	
	\$CSMSE02  スタンドモードでの感度=高



スキャン有効時間

この設定は、スキャナーでスキャンが有効な状態になった後、その状態のままの時間を指定します。この設定の範囲は、1～255秒（1秒単位）です。この機能の説明については、「リファレンス」の216ページを参照してください。

	\$CSNET03  スキャン有効時間=3秒
\$CSNET05  スキャン有効時間=5秒	
	\$CSNET08  スキャン有効時間=8秒

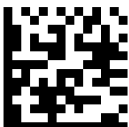



プログラミングモードの開始/終了

<p>\$CSNET</p>  <p>スキャン有効時間設定の選択</p>	
<p>入力ミスをした場合 : [キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。</p>	<p>~</p>  <p>キャンセル</p>

フラッシュ オン時間

この機能は、フラッシュモードのときにインジケータLEDがオンになっている時間を指定します。選択可能な範囲は、100~9,900ミリ秒 (0.1~9.9秒) (100ミリ秒単位) です。この機能の設定について詳しくは、「リファレンス」の217ページを参照してください。

<p>\$CSNFN</p>  <p>フラッシュ オン時間設定の選択</p>	
<p>入力ミスをした場合 : [キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。</p>	<p>~</p>  <p>キャンセル</p>

初期設定



10=フラッシュが1秒間オンになる



プログラミングモードの開始/終了

フラッシュ オフ時間

この機能は、フラッシュモードのときにインジケータLEDがオフになっている時間を指定します。選択可能な範囲は、100~9,900ミリ秒（0.1~9.9秒）（100ミリ秒単位）です。この機能の設定について詳しくは、「リファレンス」の218ページを参照してください。

<p>\$CSNFF</p>  <p>フラッシュ オフ時間設定の選択</p>	
<p>入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。</p>	<p>~</p>  <p>キャンセル</p>



06=フラッシュが600ミリ秒間オフになる

緑色スポットの持続時間

読み取りの成功後に読み取り成功を示すポインタ光線が点灯する時間を指定します。

	<p>\$CLSSP00</p>  <p>緑色スポットの持続時間=無効（緑色スポットがオフ）</p>
<p>\$CLSSP01</p>  <p>緑色スポットの持続時間=短（300ミリ秒）</p>	
	<p>\$CLSSP02</p>  <p>緑色スポットの持続時間=中（500ミリ秒）</p>
<p>\$CLSSP03</p>  <p>緑色スポットの持続時間=長（800ミリ秒）</p>	






プログラミングモードの開始/終了

携帯電話モード

デバイスが特定レベルの画像の読み取りにくさを算出し光の強さを加減する機能を有効または無効にします。

この機能のその他のオプションは、ソフトウェア設定ツールを使用して設定できます。




	<p>\$CSNPE00</p>  <p>携帯電話モード=無効</p>
<p>\$CSNPE01</p>  <p>携帯電話モード=有効</p>	 <p>初期設定</p>

ピックモード

ラベルが照準パターンの中心に近い場合にのみラベルをデコードするスキャナーの機能を指定します。



この機能は、[ボリューム内の複数ラベルの読み取り]とは互換性がありません。

 <p>初期設定</p>	<p>\$CSNPM00</p>  <p>ピックモード=無効</p>
<p>\$CSNPM01</p>  <p>ピックモード=有効</p>	



複数ラベルの読み取り

標準（初期設定）モードの場合、（モードに応じてトリガーを引く、動く、またはその他の方法によって）スキャナーの照準システムがアクティブになると、スキャナーはその読み取り範囲（ボリューム）内に存在する各イメージを取得して処理します。この場合、1つのラベルのデコードが完了した時点でスキャナーはイメージの処理を停止します。ボリューム（読取範囲）内にラベルがいくつか存在している場合、最初に検出されたラベルのみがデコードされて送信されます。




複数読み取りモードが有効になると、存在するすべてのラベルがデコードされるまで、スキャナーはイメージの処理を継続します。その後スキャナーは、すべてのバーコードからのデータをソートした後で、データの送信を行います（ソートするように設定されていた場合）。

ボリューム（読取範囲）内の複数ラベルの読み取り

同じボリューム（読取範囲）内の複数のラベルをデコードするスキャナーの機能を有効または無効にします。






この機能はピックモードと互換性がありません。

	<p>\$CDEML00</p>  <p>複数ラベルの読み取り=無効</p>
<p>\$CDEML01</p>  <p>複数ラベルの読み取り=有効</p>	

フレーム（時間枠）ごとの複数ラベル



特定のボリューム（読取範囲）内の一連のコード ラベルを単一の時間フレーム（時間枠）内でデコードして送信するスキャナーの機能を指定します。[フレームごとの複数ラベル]が有効になっている場合、スキャナーは、読み取り成功時のビープ音とLEDによる通知を、フレーム（時間枠）内でコードが読み取られるたびに行います。

複数ラベルモードが有効な場合、ISBTのペアリング、ABC Codabarのペアリング、およびコンポジットは許可されません。

	<p>\$CSNML00</p>  <p>フレームごとの複数ラベル=無効</p>
<p>\$CSNML01</p>  <p>フレームごとの複数ラベル=有効</p>	

読み取りコードによる複数ラベルの順序付け

[フレームごとの複数ラベル]が有効になっている場合にこの機能を使用すると、複数ラベルの送信順序を読み取りコードの種類に基づいて指定できます。この機能の設定については、「リファレンス」の219ページを参照してください。




<p>\$CSNMS</p>  <p>複数ラベルの順序付けに使用する読み取りコードの選択</p>	
<p>入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。</p>	<p>~</p>  <p>キャンセル</p>

初期設定

000000000000=ランダムな順序

コード長による複数ラベルの順序付け

[フレームごとの複数ラベル]が有効になっている場合に、コード長による送信の順序付けを指定します。

	<p>\$CSNMT00</p>  <p>複数ラベルの順序付け=無効</p>
	<p>\$CSNMT01</p>  <p>長さの昇順で送信</p>

1D読み取りコード

1Dコードの選択

このスキャナーでサポートされている1D読み取りコード（バーコードの種類）を以下に示します。2Dバーコードについては、172ページからの「2D読み取りコードの選択」を参照してください。各章には、読み取りコードに依存するオプションが含まれています。

- すべての読み取りコードの無効化（68ページ）
- Code EAN/UPC（69ページ）
- UPC-E（72ページ）
- GTINへのフォーマット変換（75ページ）
- EAN 13（JAN 13）（76ページ）
- ISSN（78ページ）
- EAN 8（JAN 8）（79ページ）
- UPC/EANのグローバル設定（81ページ）
- アドオン（82ページ）
- Code 39（91ページ）
- Trioptic Code（99ページ）
- Code 32（イタリアの医薬品コード）（99ページ）
- Code 39 CIP（フランスの医薬品）（101ページ）
- Code 39 Danish PPT（101ページ）
- Code 39 LaPoste（102ページ）
- Code 39 PZN（102ページ）
- Code 128（103ページ）
- GS1-128（109ページ）
- Code ISBT 128（110ページ）
- Interleaved 2 of 5（12 of 5）（113ページ）
- Standard 2 of 5（119ページ）
- Industrial 2 of 5（123ページ）
- Code IATA（127ページ）
- Codabar（128ページ）
- ABC Codabar（136ページ）
- Code 11（139ページ）
- GS1 DataBar™ Omnidirectional（146ページ）
- GS1 DataBar™ Expanded（147ページ）
- GS1 DataBar™ Limited（152ページ）
- Code 93（153ページ）
- MSI（158ページ）
- Plessey（162ページ）
- 郵便コードの選択（167ページ）

各機能またはオプションの初期設定は、緑色の矢印で示されています。また、最も一般的に使用されている標準の工場出荷時設定の一覧については、付録B「標準の初期設定」を参照してください。このセクションには、お使いのシステムに必要な、または導入されているカスタム設定を記録する欄も用意されています。

大部分の機能を設定するには、以下の操作を行います。

1. 該当するプログラミング ページの一番上にある[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンします。
2. 目的のプログラミング機能またはパラメーターを設定するためのバーコードをスキャンします。スキャン対象のバーコードのみがスキャナーで確実に読み取られるように、そのページおよび（場合によっては）見開きページ上の使用しないバーコードを隠す必要が生じる場合があります。

3. その他の入力パラメーターが必要な場合は、付録D「テンキー」に進み、テンキーの適切な文字をスキャンします。



「リファレンス」の章には、多くの機能に関する追加情報が記載されています。

最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

4. 一連のプログラミング手順を完了します。このためには、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンしてプログラミングモードを終了します。

すべての読み取りコードの無効化

この機能を使用すると、すべての読み取りコードを無効にできます。

1. 以下の[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンします。
2. [すべての読み取りコードの無効化]バーコードをスキャンします。
3. [プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンして一連のプログラミング手順を完了します。



プログラミングモードの開始/終了

\$AD



すべての読み取りコードの無効化



この操作を行っても、プログラミングラベルの読み取りは無効になりません。



Code EAN/UPC

クーポンの制御

この機能を使用すると、スキャナーでのクーポンラベルの処理方法を制御できます。

	<p>\$CCPCL00</p>  <p>クーポンの制御=すべてのクーポンバーコードのデコードを許可する</p>
<p>\$CCPCL01</p>  <p>クーポンの制御=UPCAクーポンのデコードのみを有効にする</p>	
	<p>\$CCPCL02</p>  <p>クーポンの制御=GS1 DataBar™クーポンのデコードのみを有効にする</p>






UPC-A

UPC-A読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。




UPC-Aの有効化/無効化

このオプションを無効にすると、スキャナーでUPC-Aのバーコードが読み取られません。

	\$CABEN00  UPC-A=無効
\$CABEN01  UPC-A=有効	

UPC-Aのチェックキャラクタの送信




このオプションを有効にすると、UPC-Aのバーコードデータとともにチェックキャラクタが送信されます。

	\$CABCT00  UPC-Aのチェックキャラクタの送信=送信しない
\$CABCT01  UPC-Aのチェックキャラクタの送信=送信する	






UPC-AをEAN-13に拡張

UPC-AデータをEAN-13データフォーマットに拡張します。また、この機能を選択すると、読み取りコードIDがEAN-13に必要な読み取りコードIDに変更されます。

	<p>\$CAB3B00</p>  <p>UPC-AからEAN-13=拡張しない</p>
<p>\$CAB3B01</p>  <p>UPC-AからEAN-13=拡張する</p>	

UPC-Aのナンバーシステムキャラクタの送信




この機能は、UPC-Aのナンバーシステムキャラクタの送信を有効または無効にします。

	<p>\$CABNS00</p>  <p>UPC-Aのナンバーシステムキャラクタ=送信しない</p>
<p>\$CABNS01</p>  <p>UPC-Aのナンバーシステムキャラクタ=送信する</p>	



UPC-Aの2Dコンポーネント

この機能は、この読み取りコードのベースラベルをデコードする場合に2Dラベルコンポーネントをデコードする必要があるかどうかを指定します。




	<p>\$CAB2D00</p>  <p>EAN-13の2Dコンポーネント=無効 (2Dコンポーネントは不要)</p>
<p>\$CAB2D01</p>  <p>EAN-13の2Dコンポーネント=2Dコンポーネントのデコードが必要</p>	

UPC-E

UPC-E読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

UPC-Eの有効化/無効化




このオプションを無効にすると、スキャナーでUPC-Eのバーコードが読み取られません。

	<p>\$CEBEN00</p>  <p>UPC-E=無効</p>
<p>\$CEBEN01</p>  <p>UPC-E=有効</p>	






UPC-Eのチェックキャラクタの送信

このオプションを有効にすると、UPC-Eのバーコードデータとともにチェックキャラクタが送信されます。

	<p>\$CEBCT00</p>  <p>UPC-Eのチェックキャラクタの送信=送信しない</p>
<p>\$CEBCT01</p>  <p>UPC-Eのチェックキャラクタの送信=送信する</p>	 <p>初期設定</p>

UPC-Eの2Dコンポーネント




この機能は、この読み取りコードのベースラベルをデコードする場合に2Dラベルコンポーネントをデコードする必要があるかどうかを指定します。

 <p>初期設定</p>	<p>\$CEB2D00</p>  <p>UPC-Eの2Dコンポーネント=無効 (2Dコンポーネントは不要)</p>
<p>\$CEB2D01</p>  <p>UPC-Eの2Dコンポーネント=2Dコンポーネントのデコードが必要</p>	






UPC-EをEAN-13に拡張

UPC-EデータをEAN-13データ フォーマットに拡張します。また、この機能を選択すると、読み取りコードIDがEAN-13に必要な読み取りコードIDに変更されます。

	<p>\$CEB3B00</p>  <p>UPC-EからEAN-13=拡張しない</p>
<p>\$CEB3B01</p>  <p>UPC-EからEAN-13=拡張する</p>	

UPC-EをUPC-Aに拡張




UPC-EデータをUPC-Aデータ フォーマットに拡張します。

	<p>\$CEBAB00</p>  <p>UPC-EからUPC-A=拡張しない</p>
<p>\$CEBAB01</p>  <p>UPC-EからUPC-A=拡張する</p>	



UPC-Eのナンバーシステムキャラクタの送信

この機能は、UPC-Eのナンバーシステムキャラクタの送信を有効または無効にします。


	\$CEBNS00  UPC-Eのナンバーシステムキャラクタ=送信しない
\$CEBNS01  UPC-Eのナンバーシステムキャラクタ=送信する	

GTINへのフォーマット変換

この機能は、UPC-E、UPC-A、EAN 8、およびEAN 13のラベルを14文字のGTINフォーマットに変換する機能を有効または無効にします。



変換前のベース ラベルにアドオン情報が存在する場合、変換後のGTINラベルにアドオン情報が付加されます。

	\$CGBEN00  GTINへのフォーマット変換=無効
\$CGBEN01  GTINへのフォーマット変換=有効	






EAN 13 (JAN 13)

EAN 13 (JAN 13) 読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。




EAN 13の有効化/無効化

このオプションを無効にすると、スキャナーでEAN 13またはJAN 13のバーコードが読み取られません。

	\$C3BEN00	 EAN 13=無効
\$C3BEN01	 EAN 13=有効	

EAN 13のチェックキャラクタの送信

このオプションを有効にすると、EAN 13のバーコードデータとともにチェックキャラクタが送信されます。

	\$C3BCT00	 EAN 13のチェックキャラクタの送信=送信しない
\$C3BCT01	 EAN 13のチェックキャラクタの送信=送信する	






EAN-13のフラグ1文字

EAN 13またはJAN 13のフラグ1文字の送信を有効または無効にします。フラグ1文字は、ラベルの最初の文字です。

	\$C3BF100  EAN-13のフラグ1文字=送信しない
\$C3BF101  EAN-13のフラグ1文字=送信する	

EAN-13からISBNへの変換




このオプションは、978で始まるEAN 13またはJAN 13 BooklandラベルからISBNラベルへの変換を有効または無効にします。

	\$C3BIS00  EAN-13からISBNへの変換=無効
\$C3BIS01  EAN-13からISBNへの変換=ISBNに変換	



EAN-13の2Dコンポーネント

この機能は、この読み取りコードのベースラベルをデコードする場合に2Dラベルコンポーネントをデコードする必要があるかどうかを指定します。




	<p>\$C3B2D00</p>  <p>EAN-13の2Dコンポーネント= 無効 (2Dコンポーネントは不要)</p>
<p>\$C3B2D01</p>  <p>EAN-13の2Dコンポーネント= 2Dコンポーネントのデコードが必要</p>	

ISSN

ISSN読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

ISSNの有効化/無効化

977で始まるEAN 13またはJAN 13 BooklandラベルからISSNラベルへの変換を有効または無効にします。

	<p>\$C3BIN00</p>  <p>ISSN=無効</p>
<p>\$C3BIN01</p>  <p>ISSN=有効</p>	






EAN 8 (JAN 8)

EAN 8 (JAN 8) 読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。




EAN 8の有効化/無効化

このオプションを無効にすると、スキャナーでEAN 8またはJAN 8のバーコードが読み取られません。

	\$C8BEN00		EAN 8=無効
\$C8BEN01			EAN 8=有効
			

EAN 8のチェックキャラクタの送信




このオプションを有効にすると、EAN 8のバーコードデータとともにチェックキャラクタが送信されます。

	\$C8BCT00		EAN 8のチェックキャラクタの送信=送信しない
\$C8BCT01			EAN 8のチェックキャラクタの送信=送信する
			






EAN 8をEAN 13に拡張

このオプションを有効にすると、EAN 8/JAN 8ラベルがEAN 13/JAN 13に拡張されます。

	<p>\$C8B3B00</p>  <p>EAN 8をEAN 13に拡張=無効</p>
<p>\$C8B3B01</p>  <p>EAN 8をEAN 13に拡張=有効</p>	

EAN 8の2Dコンポーネント

この機能は、この読み取りコードのベースラベルをデコードする場合に2Dラベルコンポーネントをデコードする必要があるかどうかを指定します。

	<p>\$C8B2D00</p>  <p>EAN 8の2Dコンポーネント=無効 (2Dコンポーネントは不要)</p>
<p>\$C8B2D01</p>  <p>EAN 8の2Dコンポーネント=2Dコンポーネントのデコードが必要</p>	



UPC/EANのグローバル設定

このセクションでは、UPC-A、UPC-E、EAN 13、およびEAN 8の読み取りコードの設定について説明します。各機能の説明で特に指定がなければ、このセクションの設定は、それらのすべての読み取りコードに影響します。

UPC/EANの価格とウェイトのチェック

この機能は、価格とウェイトのチェック デジットの計算および検証を有効または無効にします。

	<p>\$CPWEN00</p>  <p>価格とウェイトのチェック=無効</p>
<p>\$CPWEN01</p>  <p>価格とウェイトのチェック=4桁の価格とウェイトのチェック</p>	
	<p>\$CPWEN02</p>  <p>価格とウェイトのチェック=5桁の価格とウェイトのチェック</p>
<p>\$CPWEN03</p>  <p>価格とウェイトのチェック=欧州向けの4桁の価格とウェイトのチェック</p>	
	<p>\$CPWEN04</p>  <p>価格とウェイトのチェック=欧州向けの5桁の価格とウェイトのチェック</p>



アドオン

オプションおよび条件付きのアドオンの高度なプログラミングについては、HPのサポート窓口にお問い合わせください。

オプションのアドオン

以下のアドオン(追加バーコード)を必要に応じてスキャナーで読み取れるようにできます。



UPC/EANのベースラベルおよびアドオンの両方がデコードされた場合、スキャナーによってベースラベルおよびアドオンが送信されます。UPC/EANのベースラベルがアドオンなしでデコードされた場合、ベースラベルがアドオンなしで送信されます。条件付きのアドオン設定(有効な場合)は、オプションのアドオン設定の前にスキャナーによって判定されます。

	<p>\$CADO200</p>  <p>オプションのアドオン=P2を無効にする</p>
<p>\$CADO201</p>  <p>オプションのアドオン=P2を有効にする</p>	
	<p>\$CADO500</p>  <p>オプションのアドオン=P5を無効にする</p>
<p>\$CADO501</p>  <p>オプションのアドオン=P5を有効にする</p>	
	<p>\$CADO800</p>  <p>オプションのアドオン=GS1-128を無効にする</p>
<p>\$CADO801</p>  <p>オプションのアドオン=GS1-128を有効にする</p>	



オプションのアドオンのタイマー

このオプションは、アドオン フラグメントが確認されていて、オプションのアドオンが有効になっているときに、スキャナーでそのアドオンが検索される時間を設定します（86ページの「オプションのGS1-128アドオンのタイマー」も参照してください）。

<p>\$CADOT01</p>  <p>オプションのアドオンのタイマー=10ミリ秒</p>	
	<p>\$CADOT02</p>  <p>オプションのアドオンのタイマー=20ミリ秒</p>
<p>\$CADOT03</p>  <p>オプションのアドオンのタイマー=30ミリ秒</p>	
	<p>\$CADOT04</p>  <p>オプションのアドオンのタイマー=40ミリ秒</p>
<p>\$CADOT05</p>  <p>オプションのアドオンのタイマー=50ミリ秒</p>	



オプションのアドオンのタイマー（続き）

	<p>\$CADOT06</p>  <p>オプションのアドオンのタイマー=60ミリ秒</p>
<p>\$CADOT07</p>  <p>オプションのアドオンのタイマー=70ミリ秒</p>	
	<p>\$CADOT0A</p>  <p>オプションのアドオンのタイマー=100ミリ秒</p>
<p>\$CADOT0C</p>  <p>オプションのアドオンのタイマー=120ミリ秒</p>	
	<p>\$CADOT0E</p>  <p>オプションのアドオンのタイマー=140ミリ秒</p>
<p>\$CADOT10</p>  <p>オプションのアドオンのタイマー=160ミリ秒</p>	



オプションのアドオンのタイマー（続き）

	\$CADOT12  オプションのアドオンのタイマー=180ミリ秒
\$CADOT14  オプションのアドオンのタイマー=200ミリ秒	
	\$CADOT16  オプションのアドオンのタイマー=220ミリ秒
\$CADOT18  オプションのアドオンのタイマー=240ミリ秒	
	\$CADOT1A  オプションのアドオンのタイマー=260ミリ秒
\$CADOT1C  オプションのアドオンのタイマー=280ミリ秒	
	\$CADOT1E  オプションのアドオンのタイマー=300ミリ秒



オプションのGS1-128アドオンのタイマー

このオプションは、EAN/UPCの線形部分の読み取り後に追加部分を読み取るためのタイマーの有効期限値を設定します。GS1-128以外の種類のUPC/EANアドオンについては、83ページの「オプションのアドオンのタイマー」を参照してください。

	<p>\$CADUT00</p>  <p>オプションのGS1-128アドオンのタイマー=無効</p>
<p>\$CADUT01</p>  <p>オプションのGS1-128アドオンのタイマー=10ミリ秒</p>	
<p>\$CADUT02</p>  <p>オプションのGS1-128アドオンのタイマー=20ミリ秒</p>	
<p>\$CADUT03</p>  <p>オプションのGS1-128アドオンのタイマー=30ミリ秒</p>	
<p>\$CADUT04</p>  <p>オプションのGS1-128アドオンのタイマー=40ミリ秒</p>	
<p>\$CADUT05</p>  <p>オプションのGS1-128アドオンのタイマー=50ミリ秒</p>	



オプションのGS1-128アドオンのタイマー（続き）

	\$CADUT06  オプションのGS1-128アドオンのタイマー=60ミリ秒
\$CADUT07  オプションのGS1-128アドオンのタイマー=70ミリ秒	
	\$CADUT0A  オプションのGS1-128アドオンのタイマー=100ミリ秒
\$CADUT0C  オプションのGS1-128アドオンのタイマー=120ミリ秒	
	\$CADUT0E  オプションのGS1-128アドオンのタイマー=140ミリ秒
\$CADUT10  オプションのGS1-128アドオンのタイマー=160ミリ秒	



オプションのGS1-128アドオンのタイマー（続き）

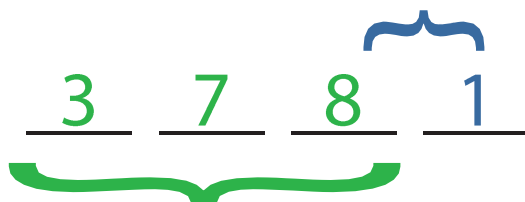
	\$CADUT12  オプションのGS1-128アドオンのタイマー=180ミリ秒
\$CADUT14  オプションのGS1-128アドオンのタイマー=200ミリ秒	
	\$CADUT16  オプションのGS1-128アドオンのタイマー=220ミリ秒
\$CADUT18  オプションのGS1-128アドオンのタイマー=240ミリ秒	
	\$CADUT1A  オプションのGS1-128アドオンのタイマー=260ミリ秒
\$CADUT1C  オプションのGS1-128アドオンのタイマー=280ミリ秒	
	\$CADUT1E  オプションのGS1-128アドオンのタイマー=300ミリ秒



条件付きアドオン制御（1～4）

条件付きアドオン制御は、高度なプログラミング機能であり、ベースラベルの最初の3桁およびベースラベルの種類を表す4つのフィールド（ニブル）を手動で入力する必要があります。この種類は、以下のキーで表されます。

ベースラベルの種類 +
必要なアドオンの種類。



ベースラベルの最初の3桁。

0=このエントリは無効
1=UPCA + P2
2=UPCA + P5
3=UPCA + P8
4=UPCE + P2
5=UPCE + P5
6=UPCE + P8
7=EAN13 + P2
8=EAN13 + P5
9=EAN13 + P8
A=EAN8 + P2
B=EAN8 + P5
C=EAN8 + P8

	<p>\$CADC13780</p>  <p>条件付きアドオン制御1=無効</p>
<p>\$CADC1</p>  <p>条件付きアドオン制御1の設定</p>	
	<p>\$CADC23790</p>  <p>条件付きアドオン制御2=無効</p>
<p>\$CADC2</p>  <p>条件付きアドオン制御2の設定</p>	



条件付きアドオン制御 (1~4) (続き)

	\$CADC39770 条件付きアドオン制御3=無効
\$CADC3 条件付きアドオン制御3の設定	
	\$CADC39770 条件付きアドオン制御4=無効
\$CADC4 条件付きアドオン制御4の設定	



Code 39


Code 39読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

Code 39の有効化/無効化

	\$CC3EN00  Code 39=無効
\$CC3EN01  Code 39=有効	

Code 39のチェックキャラクタの計算

このオプションを有効にすると、オプションのCode 39チェックキャラクタの計算および検証が有効または無効になります。このオプションを無効にすると、ラベル内のすべてのチェックキャラクタがデータ文字として扱われます。

	\$CC3CC00  Code 39のチェックキャラクタの計算=計算しない
\$CC3CC01  Code 39のチェックキャラクタの計算=標準チェックを計算	
	\$CC3CC02  Code 39のチェックキャラクタの計算=モジュラス7チェックを計算



Code 39のチェックキャラクタの計算（続き）

<p>\$CC3CC04</p>  <p>Code 39のチェックキャラクタの計算=イタリアの郵便チェックを有効にする</p>	
	<p>\$CC3CC08</p>  <p>Code 39のチェックキャラクタの計算=Daimler Chrysler社のチェックを有効にする</p>

Code 39のチェックキャラクタの送信




このオプションを有効にすると、Code 39のバーコードデータとともにチェックキャラクタが送信されます。

	<p>\$CC3CT00</p>  <p>Code 39のチェックキャラクタの送信=送信しない</p>
<p>\$CC3CT01</p>  <p>Code 39のチェックキャラクタの送信=送信する</p>	






Code 39のスタート/ストップキャラクタの送信

このオプションを有効にすると、Code 39のスタート/ストップキャラクタの送信が有効または無効になります。

	<p>\$CC3SS00</p>  <p>Code 39のスタート/ストップキャラクタの送信=送信しない</p>
<p>\$CC3SS01</p>  <p>Code 39のスタート/ストップキャラクタの送信=送信する</p>	

Code 39 Full ASCII

Code 39文字からCode 39 Full ASCII文字への変換を有効または無効にします。

	<p>\$CC3FA00</p>  <p>Code 39 Full ASCII=無効</p>
<p>\$CC3FA01</p>  <p>Code 39 Full ASCII=有効</p>	






Code 39の長さ制御

この機能は、Code 39読み取りコードで可変長デコードまたは固定長デコードのどちらを使用するかを指定します。

可変長：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

固定長：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。

	\$CC3LC00  Code 39の長さ制御=可変長
\$CC3LC01  Code 39の長さ制御=固定長	





Code 39の長さ1の設定

この機能は、Code 39の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または、1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。0~50文字の長さを設定できます。

表2には、長さ1の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、205ページを参照してください。

表2.Code 39の長さ1の設定の例

手順	アクション	例			
1	目的の設定	00文字	07文字	15文字	50文字
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[Code 39の長さ1の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「テンキー」から2つの文字をスキャン	[0]および[0]	[0]および[7]	[1]および[5]	[5]および[0]
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				

\$CC3L1  Code 39の長さ1の設定の選択	~  キャンセル
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。	

初期設定

02=長さ1は2文字です



Code 39の長さ2の設定

この機能は、Code 39の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのチェックキャラクタ、データ文字列、およびFull ASCIIのシフト文字が含まれません。この長さにスタート/ストップキャラクタは含まれません。

表3には、長さ2の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順については詳しくは、205ページを参照してください。

表3.Code 39の長さ2の設定の例

手順	アクション	例			
1	目的の設定	00（この長さを無視する）	07文字	15文字	50文字
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[Code 39の長さ2の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「テンキー」から2つの文字をスキャン	[0]および[0]	[0]および[7]	[1]および[5]	[5]および[0]
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				

\$CC3L2



Code 39の長さ2の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

~



キャンセル






初期設定

50=長さ2は50文字です



Code 39のディジット間の比率

この機能は、Code 39ラベルの文字間のスペースとモジュールの比率を指定します。

	\$CC3IR00  Code 39のディジット間の比率=無効
\$CC3IR01  Code 39のディジット間の比率=1	
	\$CC3IR02  Code 39のディジット間の比率=2
\$CC3IR03  Code 39のディジット間の比率=3	
	\$CC3IR04  Code 39のディジット間の比率=4
\$CC3IR05  Code 39のディジット間の比率=5	



Code 39のディジット間の比率（続き）




	\$CC3IR06  Code 39のディジット間の比率=6
\$CC3IR07  Code 39のディジット間の比率=7	
	\$CC3IR08  Code 39のディジット間の比率=8
\$CC3IR09  Code 39のディジット間の比率=9	
	\$CC3IROA  Code 39のディジット間の比率=10



Trioptic Code

Trioptic読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

Trioptic Codeの有効化/無効化




	<p>CCTEN00</p>  <p>Trioptic Code=無効</p>
<p>CCTEN01</p>  <p>Trioptic Code=有効</p>	

Code 32 (イタリアの医薬品コード)

Code 32(イタリアの医薬品コード)読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

Code 32の有効化/無効化

このオプションを無効にすると、スキャナーでCode 32のバーコードが読み取られません。

	<p>\$CP3EN00</p>  <p>Code 32=無効</p>
<p>\$CP3EN01</p>  <p>Code 32=有効</p>	



Code 32の機能設定の例外






Code 32用に以下の機能を設定するには、Code 39のそれぞれの設定を使用します。

94ページの「Code 39の長さ制御」

97ページの「Code 39のディジット間の比率」


Code 32のチェックキャラクタの送信

このオプションを有効にすると、Code 32のバーコードデータとともにチェックキャラクタが送信されます。

	<p>\$CP3CT00</p>  <p>Code 32のチェックキャラクタの送信=送信しない</p>
<p>\$CP3CT01</p>  <p>Code 32のチェックキャラクタの送信=送信する</p>	

Code 32のスタート/ストップキャラクタの送信

このオプションは、Code 32のスタート/ストップキャラクタの送信を有効または無効にします。

	<p>\$CP3SS00</p>  <p>Code 32のスタート/ストップキャラクタの送信=送信しない</p>
<p>\$CP3SS01</p>  <p>Code 32のスタート/ストップキャラクタの送信=送信する</p>	






Code 39 CIP（フランスの医薬品）

Code 39 CIP読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

Code 39 CIPの有効化/無効化

Code 39 CIPのラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。




	<p>\$CCEN00</p>  <p>Code 39 CIP=無効</p>
<p>\$CCEN01</p>  <p>Code 39 CIP=有効</p>	

Code 39 Danish PPT

Code 39 Danish PPT読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

Code 39 Danish PPTの有効化/無効化

Code 39 Danish PPTコードのAIM IDを有効または無効にします。

	<p>CDPEN00</p>  <p>Code 39 Danish PPT=無効</p>
<p>CDPEN01</p>  <p>Code 39 Danish PPT=有効</p>	






Code 39 LaPoste

Code 39 LaPoste読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

Code 39 LaPosteの有効化/無効化

Code39 La Posteのラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。




	<p>CLPEN00</p>  <p>Code 39 LaPoste=無効</p>
<p>CLPEN01</p>  <p>Code 39 LaPoste=有効</p>	

Code 39 PZN

Code 39 PZN読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

Code 39 PZNの有効化/無効化

Code39 PZNのラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。

	<p>CPZEN00</p>  <p>Code 39 PZN=無効</p>
<p>CPZEN01</p>  <p>Code 39 PZN=有効</p>	






Code 128

Code 128読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。




Code 128の有効化/無効化

このオプションを無効にすると、スキャナーでCode 128のバーコードが読み取られません。

	\$CC8EN00  Code 128=無効
\$CC8EN01  Code 128=有効	

Code 128をCode 39に拡張




このオプションは、Code 128ラベルをCode 39ラベルに拡張する機能を有効または無効にします。

	\$CC8C300  Code 128からCode 39=拡張しない
\$CC8C301  Code 128からCode 39=拡張する	






Code 128のチェックキャラクタの送信

このオプションを有効にすると、Code 128のバーコードデータとともにチェックキャラクタが送信されます。

	<p>\$CC8CT00</p>  <p>Code 128のチェックキャラクタの送信=送信しない</p>
<p>\$CC8CT01</p>  <p>Code 128のチェックキャラクタの送信=送信する</p>	

Code 128のファンクション文字の送信




Code128のファンクション文字1、2、3、および4の送信を有効または無効にします。

	<p>\$CC8TF00</p>  <p>Code 128のファンクション文字の送信=送信しない</p>
<p>\$CC8TF01</p>  <p>Code 128のファンクション文字の送信=送信する</p>	



Code 128のサブコード交換の送信




「サブコード交換」文字の送信（標準デコードでは送信されない）を有効または無効にします。

	<p>\$CC8SC00</p>  <p>Code 128のサブコード交換の送信=無効</p>
<p>\$CC8SC01</p>  <p>Code 128のサブコード交換の送信=有効</p>	



Code 128の長さ制御

この機能は、Code 128読み取りコードで可変長デコードまたは固定長デコードのどちらを使用するかを指定します。詳しくは、[205ページ](#)を参照してください。

	<p>\$CC8LC00</p>  <p>Code 128の長さ制御=可変長</p>
<p>\$CC8LC01</p>  <p>Code 128の長さ制御=固定長</p>	




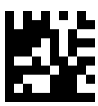
Code 128の長さ1の設定

Code 128の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。1～80文字の長さを設定できます。

表4には、長さ1の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、205ページを参照してください。

表4.Code 128の長さ1の設定の例

手順	アクション	例			
1	目的の設定	01文字	07文字	15文字	80文字
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[Code 128の長さ1の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「テンキー」から2つの文字をスキャン	[0]および[1]	[0]および[7]	[1]および[5]	[8]および[0]
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				

<p>\$CC8L1</p>  <p>Code 128の長さ1の設定の選択</p>	
<p>入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。</p>	<p>~</p>  <p>キャンセル</p>

初期設定

01=長さ1は1文字です



Code 128の長さ2の設定

この機能は、Code 128の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。

1～80文字の長さを設定できます。0を設定すると、この長さは無視されます（固定長は1つのみ）。

表5には、長さ2の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順については詳しくは、205ページを参照してください。

表5.Code 128の長さ2の設定の例

手順	アクション	例			
1	目的の設定	00（この長さを無視する）	07文字	15文字	80文字
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[Code 128の長さ2の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「テンキー」から2つの文字をスキャン	[0]および[0]	[0]および[7]	[0]および[F]	[5]および[0]
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				

\$CC8L2



Code 128の長さ2の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

~



キャンセル

初期設定

80=長さ2は80文字です







GS1-128

GS1-128読み取りコード（USS-128、GTIN-128、UCC-128、EAN-128とも呼ばれる）には、以下のオプションが適用されます。

GS1-128の有効化

このオプションは、スキャナーでGS1-128ラベルをGS1-128データフォーマットに変換する機能を有効または無効にします。以下のオプションがあります。

- GS1-128ラベルをCode 128データフォーマットで送信する
- GS1-128ラベルをGS1-128データフォーマットで送信する
- GS1-128ラベルを送信しない

	<p>\$CU8EN00</p>  <p>GS1-128=Code 128データフォーマットで送信</p>
<p>\$CU8EN01</p>  <p>GS1-128=GS1-128データフォーマットで送信</p>	
	<p>\$CU8EN02</p>  <p>GS1-128 =GS1-128ラベルを送信しない</p>

GS1-128の2Dコンポーネント

この機能は、この読み取りコードのベースラベルをデコードする場合に2Dラベルコンポーネントをデコードする必要があるかどうかを指定します。

	<p>CU82D00</p>  <p>GS1-128の2Dコンポーネント=無効</p>
<p>CU82D01</p>  <p>GS1-128の2Dコンポーネント=有効</p>	



Code ISBT 128

ISBT 128読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

ISBT 128の連結

このオプションを使用すると、ISBT128の2つのラベルの連結が有効または無効になります。




	<p>\$CI8CE00</p>  <p>ISBT 128の連結=無効</p>
<p>\$CI8CE01</p>  <p>ISBT 128の連結=有効</p>	

ISBT 128の強制連結

この機能を有効にすると、ISBTの連結が強制的に行われます。



このオプションは、ISBT 128の連結が有効になっている場合にのみ有効です。

	<p>\$CI8FC00</p>  <p>ISBT 128の強制連結=無効</p>
<p>\$CI8FC01</p>  <p>ISBT 128の強制連結=有効</p>	






ISBT 128の連結モード

静的または動的の連結モードを指定します。










このオプションは、ISBT 128の連結が有効になっている場合にのみ有効です（110ページを参照してください）。

	<p>\$C18CM00</p>  <p>ISBT 128の連結モード=静的</p>
<p>\$C18CM01</p>  <p>ISBT 128の連結モード=動的</p>	



ISBT 128の動的連結のタイムアウト

ISBT 128の動的連結モードで使用されるタイムアウトを指定します。

	\$CI8DT05  ISBT 128の動的連結のタイムアウト=50ミリ秒
\$CI8DT0A  ISBT 128の動的連結のタイムアウト=100ミリ秒	
	\$CI8DT14  ISBT 128の動的連結のタイムアウト=200ミリ秒
\$CI8DT32  ISBT 128の動的連結のタイムアウト=500ミリ秒	
	\$CI8DT4B  ISBT 128の動的連結のタイムアウト=750ミリ秒
\$CI8DT64  ISBT 128の動的連結のタイムアウト=1秒	

ISBT 128の高度な連結オプション



連結の対象となるラベルの種類のパアをセットアップするには、[HP Imaging Scanner Configuration]アプリケーションを使用するか、またはHPのテクニカル サポート (8ページを参照してください) までお問い合わせください。






Interleaved 2 of 5 (I 2 of 5)

I 2 of 5読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

I 2 of 5の有効化/無効化

このオプションを無効にすると、スキャナーでI 2 of 5のバーコードが読み取られません。

	\$CI2EN00  I 2 of 5=無効
\$CI2EN01  I 2 of 5=有効	



12 of 5のチェックキャラクタの計算



このオプションは、オプションの12 of 5チェックキャラクタの計算および検証を有効または無効にします。これらの設定を組み合わせることもできます。設定ユーティリティを使用するか、またはテクニカルサポートまでお問い合わせください。

	\$CI2CC00  12 of 5のチェックキャラクタの計算=無効
\$CI2CC01  12 of 5のチェックキャラクタの計算=標準チェック (モジュラス10)	
	\$CI2CC02  12 of 5のチェックキャラクタの計算=ドイツの小包のチェック
\$CI2CC04  12 of 5のチェックキャラクタの計算=DHLのチェック	
	\$CI2CC08  12 of 5のチェックキャラクタの計算=Daimler Chrysler社の チェック
\$CI2CC10  12 of 5のチェックキャラクタの計算=Bosch社のチェック	
	\$CI2CC20  12 of 5のチェックキャラクタの計算=イタリアの郵便



12 of 5のチェックキャラクタの送信

このオプションを有効にすると、12 of 5のバーコードデータとともにチェックキャラクタが送信されます。


	\$CI2CT00  12 of 5のチェックキャラクタの送信=送信しない
\$CI2CT01  12 of 5のチェックキャラクタの送信=送信する	

12 of 5の長さ制御

この機能は、12 of 5読み取りコードの可変長のデコードまたは固定長のデコードのどちらかを指定します。

可変長：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

固定長：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。

	\$CI2LC00  12 of 5の長さ制御=可変長
\$CI2LC01  12 of 5の長さ制御=固定長	



12 of 5の長さ1の設定

この機能は、12 of 5の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。この長さには、バーコードのチェックキャラクタおよびデータ文字列が含まれます。2～50文字（2文字単位）の長さを設定できます。

表6には、長さ1の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、205ページを参照してください。

表6.12 of 5の長さ1の設定の例

手順	アクション	例			
		2文字	6文字	14文字	50文字
1	目的の設定				
2	前を0で埋めて2桁の数値にする	02	06	14	50
3	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
4	[12 of 5の長さ1の設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から2つの文字をスキャン	[0]および[2]	[0]および[6]	[1]および[4]	[5]および[0]
6	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				

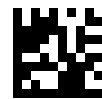
\$C12L1



12 of 5の長さ1の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

~



キャンセル

初期設定

06=長さ1は6文字です



12 of 5の長さ2の設定



この機能は、12 of 5の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。この長さには、バーコードのチェックキャラクタおよびデータ文字列が含まれます。

2～50文字の長さを設定できます。0を設定すると、この長さは無視されます（固定長は1つのみ）。

表7には、長さ2の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、205ページを参照してください。

表7.12 of 5の長さ2の設定の例

手順	アクション	例			
		この長さを無視する	4文字	14文字	50文字
1	目的の設定				
2	前を0で埋めて2桁の数値にする	00	04	14	50
3	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
4	[12 of 5の長さ2の設定の選択]をスキャン				
5	付録D「デンキー」から2つの文字をスキャン	[0]および[0]	[0]および[4]	[1]および[4]	[5]および[0]
6	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				

\$C12L2  12 of 5の長さ2の設定の選択	
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。	~  キャンセル

初期設定

50=長さ2は50文字です






Interleaved 2 of 5 CIP HR

Interleaved 2 of 5 CIP HR読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

Interleaved 2 of 5 CIP HRの有効化/無効化

Interleaved 2 of 5 CIP HRのラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。

	<p>\$CCHEN00</p>  <p>Interleaved 2 of 5 CIP HR=無効</p>
<p>\$CCHEN01</p>  <p>Interleaved 2 of 5 CIP HR=有効</p>	




Standard 2 of 5

Standard 2 of 5読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。




Standard 2 of 5の有効化/無効化

このオプションを無効にすると、スキャナーでStandard 2 of 5のバーコードが読み取られません。

	<p>\$CS2EN00</p>  <p>Standard 2 of 5=無効</p>
<p>\$CS2EN01</p>  <p>Standard 2 of 5=有効</p>	

Standard 2 of 5のチェックキャラクタの計算




このオプションは、オプションのStandard 2 of 5チェックキャラクタの計算および検証を有効または無効にします。

	<p>\$CS2CC00</p>  <p>Standard 2 of 5のチェックキャラクタの計算=無効</p>
<p>\$CS2CC01</p>  <p>Standard 2 of 5のチェックキャラクタの計算=有効</p>	



Standard 2 of 5のチェックキャラクタの送信

この機能は、オプションのStandard 2 of 5チェックキャラクタの送信を有効または無効にします。




	\$CS2CT00  Standard 2 of 5のチェックキャラクタの送信=送信しない
\$CS2CT01  Standard 2 of 5のチェックキャラクタの送信=送信する	

Standard 2 of 5の長さ制御

この機能は、Standard 2 of 5読み取りコードの可変長のデコードまたは固定長のデコードのどちらかを指定します。

可変長：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

固定長：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。

	\$CS2LC00  Standard 2 of 5の長さ制御=可変長
\$CS2LC01  Standard 2 of 5の長さ制御=固定長	





Standard 2 of 5の長さ1の設定

この機能は、Standard 2 of 5の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または、1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのチェックキャラクタおよびデータ文字列が含まれます。1～50文字の長さを設定できます。

表8には、長さ1の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、205ページを参照してください。

表8.Standard 2 of 5の長さ1の設定の例

手順	アクション	例			
		01文字	07文字	15文字	50文字
1	目的の設定				
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[Standard 2 of 5の長さ1の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「テンキー」から2つの文字をスキャン	[0]および[1]	[0]および[7]	[1]および[5]	[5]および[0]
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				

\$CS2L1  Standard 2 of 5の長さ1の設定の選択	
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。	~  キャンセル

初期設定

08=長さ1は8文字です



Standard 2 of 5の長さ2の設定

この機能は、Standard 2 of 5の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのチェックキャラクタおよびデータ文字列が含まれます。

1～50文字の長さを設定できます。0を設定すると、この長さは無視されます（固定長は1つのみ）。

表9には、長さ2の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順については、205ページを参照してください。

表9.Standard 2 of 5の長さ2の設定の例

手順	アクション	例			
1	目的の設定（前を0で埋める）	00（この長さを無視する）	07文字	15文字	50文字
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[Standard 2 of 5の長さ2の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「デンキー」から2つの文字をスキャン	[0]および[0]	[0]および[7]	[1]および[5]	[5]および[0]
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				

\$CS2L2



Standard 2 of 5の長さ2の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

~



キャンセル

初期設定

50=長さ2は50文字です






Industrial 2 of 5

Industrial 2 of 5読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。




Industrial 2 of 5の有効化/無効化

Industrial 2 of 5のラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。

	<p>\$CU2EN00</p>  <p>Industrial 2 of 5=無効</p>
<p>\$CU2EN01</p>  <p>Industrial 2 of 5=有効</p>	

Industrial 2 of 5のチェックキャラクタの計算




オプションのIndustrial 2 of 5チェックキャラクタの計算および検証を有効または無効にします。

	<p>\$CU2CC00</p>  <p>Industrial 2 of 5のチェックキャラクタの計算=無効</p>
<p>\$CU2CC01</p>  <p>Industrial 2 of 5のチェックキャラクタの計算=有効</p>	



Industrial 2 of 5のチェックキャラクタの送信

Industrial 2 of 5のチェックキャラクタの送信を有効または無効にします。




	<p>\$CU2CT00</p>  <p>Industrial 2 of 5のチェックキャラクタの送信=無効</p>
<p>\$CU2CT01</p>  <p>Industrial 2 of 5のチェックキャラクタの送信=有効</p>	

Industrial 2 of 5の長さ制御

この機能は、Industrial 2 of 5読み取りコードの可変長のデコードまたは固定長のデコードのどちらかを指定します。

可変長：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

固定長：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。

	<p>\$CU2LC00</p>  <p>Industrial 2 of 5の長さ制御=可変長</p>
<p>\$CU2LC01</p>  <p>Industrial 2 of 5=固定長</p>	






Industrial 2 of 5の長さ1の設定

この機能は、Industrial 2 of 5の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。0～50文字の長さを設定できます。

表10には、長さ1の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順については、詳しくは、205ページを参照してください。

表10.Industrial 2 of 5の長さ1の設定の例

手順	アクション	例			
		00文字	07文字	15文字	50文字
1	目的の設定				
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[Industrial 2 of 5の長さ1の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「テンキー」から2つの文字をスキャン	[0]および[0]	[0]および[7]	[1]および[5]	[5]および[0]
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				

<p>\$CU2L1</p>  <p>Industrial 2 of 5の長さ1の設定の選択</p>	
<p>入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。</p>	<p>~</p>  <p>キャンセル</p>
 <p>初期設定</p>	
<p>01=長さ1は1文字です</p>	



Industrial 2 of 5の長さ2の設定



この機能は、Industrial 2 of 5の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのチェックキャラクタ、データ文字列、およびFull ASCIIのシフト文字が含まれます。この長さにスタート/ストップキャラクタは含まれません。

1～50文字の長さを設定できます。0を設定すると、この長さは無視されます（固定長は1つのみ）。

表11には、長さ2の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、205ページを参照してください。

表11.Industrial 2 of 5の長さ2の設定の例

手順	アクション	例			
1	目的の設定	00（この長さを無視する）	07文字	15文字	50文字
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[Industrial 2 of 5の長さ2の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「テンキー」から2つの文字をスキャン	[0]および[0]	[0]および[7]	[1]および[5]	[5]および[0]
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				

\$CU2L2  Industrial 2 of 5の長さ2の設定の選択	
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。	~  キャンセル

初期設定

50=長さ2は50文字です



Code IATA

IATA読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。




IATAの有効化/無効化

IATAのラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。

	<p>\$CIAEN00</p>  <p>IATA=無効</p>
<p>\$CIAEN01</p>  <p>IATA=有効</p>	

IATAのチェックキャラクタの送信

オプションのIndustrial 2 of 5チェックキャラクタの計算および検証を有効または無効にします。

	<p>\$CIACT00</p>  <p>IATAのチェックキャラクタの送信=無効</p>
<p>\$CIACT01</p>  <p>IATAのチェックキャラクタの送信=有効</p>	






Codabar

Codabar読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

Codabarの有効化/無効化

このオプションを無効にすると、スキャナーでCodabarのバーコードが読み取られません。

	<p>\$CCBEN00</p>  <p>Codabar=無効</p>
<p>\$CCBEN01</p>  <p>Codabar=有効</p>	

Codabarのチェックキャラクタの計算

このオプションを有効にすると、オプションのCodabarチェックキャラクタの計算および検証が有効または無効になります。このオプションを無効にすると、ラベル内のすべてのチェックキャラクタがデータ文字として扱われます。

	<p>\$CCBCC00</p>  <p>Codabarのチェックキャラクタの計算=計算しない</p>
<p>\$CCBCC01</p>  <p>Codabarのチェックキャラクタの計算= AIM標準チェックキャラクタを有効にする</p>	
	<p>\$CCBCC02</p>  <p>Codabarのチェックキャラクタの計算= モジュラス10のチェックキャラクタを有効にする</p>






Codabarのチェックキャラクタの送信

このオプションを有効にすると、Codabarのバーコードデータとともにチェックキャラクタが送信されます。

	\$CCBCT00  Codabarのチェックキャラクタの送信=送信しない
\$CCBCT01  Codabarのチェックキャラクタの送信=送信する	

Codabarのスタート/ストップキャラクタの送信

このオプションを有効にすると、Codabarのスタート/ストップキャラクタの送信が有効または無効になります。

	\$CCBSS00  Codabarのスタート/ストップキャラクタの送信=送信しない
\$CCBSS01  Codabarのスタート/ストップキャラクタの送信=送信する	



Codabarのスタート/ストップキャラクタセット

このオプションは、送信されるCodabarのスタート/ストップキャラクタのフォーマットを指定します。

	\$CCBSC00  Codabarのチェックキャラクタセット=ABCD/TN*E
\$CCBSC01  Codabarのチェックキャラクタセット=ABCD/ABCD	
	\$CCBSC02  Codabarのチェックキャラクタセット=abcd/tn*e
\$CCBSC03  Codabarのチェックキャラクタセット=abcd/abcd	

Codabarのスタート/ストップキャラクタの一致

このオプションを有効にすると、スタートキャラクタとストップキャラクタの一致が必要になります。

	\$CCBSM00  Codabarのスタート/ストップキャラクタの一致=一致の必要なし
\$CCBSM01  Codabarのスタート/ストップキャラクタの一致=一致が必要	






Codabarの長さ制御

この機能は、Codabar読み取りコードの可変長のデコードまたは固定長のデコードのどちらかを指定します。

可変長：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

固定長：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。

	\$CCBLC00  Codabarの長さ制御=可変長
\$CCBLC01  Codabarの長さ制御=固定長	





Codabarの長さ1の設定

この機能は、Codabarの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのスタートキャラクタ、ストップキャラクタ、チェックキャラクタ、およびデータ文字列が含まれます。少なくとも1つのデータ文字を含める必要があります。3～50文字の長さを設定できます。

表12には、長さ1の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、205ページを参照してください。

表12.Codabarの長さ1の設定の例

手順	アクション	例			
		03文字	09文字	15文字	50文字
1	目的の設定（前を0で埋める）	03文字	09文字	15文字	50文字
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[Codabarの長さ1の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「デンキー」から2つの文字をスキャン	[0]および[3]	[0]および[9]	[1]および[5]	[5]および[0]
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				

\$CCBL1  Codabarの長さ1の設定の選択	
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。	~  キャンセル

初期設定

03=長さ1は3文字です



Codabarの長さ2の設定


この機能は、Codabarの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのスタートキャラクタ、ストップキャラクタ、チェックキャラクタ、およびデータ文字列が含まれます。少なくとも1つのデータ文字を含める必要があります。

3～50文字の長さを設定できます。0を設定すると、この長さは無視されます（固定長は1つのみ）。

表13には、長さ2の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、205ページを参照してください。

表13.Codabarの長さ2の設定の例

手順	アクション	例			
1	目的の設定（前を0で埋める）	00（この長さを無視する）	07文字	15文字	50文字
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[Codabarの長さ2の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「テンキー」から2つの文字をスキャン	[0]および[0]	[0]および[7]	[1]および[5]	[5]および[0]
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				

\$CCBL2  Codabarの長さ2の設定の選択	
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。	~ キャンセル

初期設定

50=長さ2は50文字です



Codabarのディジット間の比率

この機能は、Codabarラベルの文字間のスペースとモジュールの比率を指定します。

	\$CCBIR00  Codabarのディジット間の比率=無効
\$CCBIR01  Codabarのディジット間の比率=1	
	\$CCBIR02  Codabarのディジット間の比率=2
\$CCBIR03  Codabarのディジット間の比率=3	
	\$CCBIR04  Codabarのディジット間の比率=4
\$CCBIR05  Codabarのディジット間の比率=5	



Codabarのディジット間の比率（続き）

	\$CCBIR06  Codabarのディジット間の比率=6
\$CCBIR07  Codabarのディジット間の比率=7	
	\$CCBIR08  Codabarのディジット間の比率=8
\$CCBIR09  Codabarのディジット間の比率=9	
	CCBIR0A  Codabarのディジット間の比率=10






ABC Codabar

ABC Codabar読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。




ABC Codabarの有効化/無効化

ABC Codabarのラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。

	<p>\$CCBAB00</p>  <p>ABC Codabar=無効</p>
<p>\$CCBAB01</p>  <p>ABC Codabar=有効</p>	

ABC Codabarの連結モード

静的または動的の連結モードを指定します。

	<p>\$CCBCM00</p>  <p>ABC Codabarの連結モード=静的</p>
<p>\$CCBCM01</p>  <p>ABC Codabarの連結モード=動的</p>	



ABC Codabarの動的連結のタイムアウト

ABC Codabarの動的連結モードで使用されるタイムアウト値を10ミリ秒単位で指定します。

	\$CCBDT05  ABC Codabarの動的連結のタイムアウト=50ミリ秒
\$CCBDT0A  ABC Codabarの動的連結のタイムアウト=100ミリ秒	
	\$CCBDT14  ABC Codabarの動的連結のタイムアウト=200ミリ秒
\$CCBDT32  ABC Codabarの動的連結のタイムアウト=500ミリ秒	
	\$CCBDT4B  ABC Codabarの動的連結のタイムアウト=750ミリ秒
\$CCBDT64  ABC Codabarの動的連結のタイムアウト=1秒	



ABC Codabarの強制連結

Dで始まるラベルまたはDで終わるラベルを強制的に連結します。

	<p>\$CCBFC00</p>  <p>ABC Codabarの強制連結=無効</p>
<p>\$CCBFC01</p>  <p>ABC Codabarの強制連結=有効</p>	






Code 11

Code 11読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

Code 11の有効化/無効化

このオプションを無効にすると、スキャナーでCode 11のバーコードが読み取られません。



	<p>\$CC1EN00</p>  <p>Code 11=無効</p>
<p>\$CC1EN01</p>  <p>Code 11=有効</p>	

Code 11のチェックキャラクタの計算

このオプションは、オプションのCode 11チェックキャラクタの計算および検証を有効または無効にします。




	<p>\$CC1CC00</p>  <p>Code 11のチェックキャラクタの計算=無効</p>
<p>\$CC1CC01</p>  <p>Code 11のチェックキャラクタの計算=Cをチェック</p>	



	<p>\$CC1CC02</p>  <p>Code 11のチェックキャラクタの計算=Kをチェック</p>
<p>\$CC1CC03</p>  <p>Code 11のチェックキャラクタの計算=CおよびKをチェック</p>	

Code 11のチェックキャラクタの送信

この機能は、オプションのCode 11チェックキャラクタの送信を有効または無効にします。

	<p>\$CC1CT00</p>  <p>Code 11のチェックキャラクタの送信=送信しない</p>
<p>\$CC1CT01</p>  <p>Code 11のチェックキャラクタの送信=送信する</p>	






Code 11の長さ制御

この機能は、Code 11読み取りコードで可変長デコードまたは固定長デコードのどちらを使用するかを指定します。

可変長：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

固定長：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。

	\$CC1LC00  Code 11の長さ制御=可変長
\$CC1LC01  Code 11の長さ制御=固定長	






Code 11の長さ1の設定

この機能は、Code 11の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または、1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのチェックキャラクタおよびデータ文字列が含まれます。2～50文字の長さを設定できます。

表14には、長さ1の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、205ページを参照してください。

表14.Code 11の長さ1の設定の例

手順	アクション	例			
1	目的の設定（前を0で埋める）	02文字	07文字	15文字	50文字
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[Code 11の長さ1の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「テンキー」から2つの文字をスキャン	[0]および[2]	[0]および[7]	[1]および[5]	[5]および[0]
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				

\$CC1L1  Code 11の長さ1の設定の選択	
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。	~  キャンセル
 初期設定	
04=長さ1は4文字です	



Code 11の長さ2の設定



この機能は、Code 11の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのチェックキャラクタおよびデータ文字列が含まれます。

2～50文字の長さを設定できます。0を設定すると、この長さは無視されます（固定長は1つのみ）。

表15には、長さ2の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、205ページを参照してください。

表15.Code 11の長さ2の設定の例

手順	アクション	例			
1	目的の設定（前を0で埋める）	00（この長さを無視する）	07文字	15文字	50文字
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[Code 11の長さ2の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「テンキー」から2つの文字をスキャン	[0]および[0]	[0]および[7]	[0]および[F]	[3]および[2]
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				

\$CC1L2  Code 11の長さ2の設定の選択	
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。	~  キャンセル

初期設定

50=長さ2は50文字です



Code 11のディジット間の比率

この機能は、Code 11ラベルの文字間のスペースとモジュールの比率を指定します。

	\$CC1IR00  Code 11のディジット間の比率=無効
\$CC1IR01  Code 11のディジット間の比率=1	
	\$CC1IR02  Code 11のディジット間の比率=2
\$CC1IR03  Code 11のディジット間の比率=3	
	\$CC1IR04  Code 11のディジット間の比率=4
\$CC1IR05  Code 11のディジット間の比率=5	



Code 11のディジット間の比率（続き）

	\$CC1IR06  Code 11のディジット間の比率=6
\$CC1IR07  Code 11のディジット間の比率=7	
	CC1IR08  Code 11のディジット間の比率=8
\$CC1IR09  Code 11のディジット間の比率=9	
	\$CC1IR0A  Code 11のディジット間の比率=10






GS1 DataBar™ Omnidirectional

GS1 DataBar™ Omnidirectional（以前のRSS-14）読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。




GS1 DataBar™ Omnidirectionalの有効化/無効化

このオプションを無効にすると、スキャナーでGS1 DataBar™ Omnidirectionalのバーコードが読み取られません。

	<p>\$C4BEN00</p>  <p>GS1 DataBar™ Omnidirectional=無効</p>
<p>\$C4BEN01</p>  <p>GS1 DataBar™ Omnidirectional=有効</p>	

GS1 DataBar™ OmnidirectionalのGS1-128エミュレーション




このオプションを有効にすると、GS1 DataBar™ OmnidirectionalのバーコードがGS1-128ラベルのデータフォーマットに変換されます。

	<p>\$C4BU800</p>  <p>GS1 DataBar™ OmnidirectionalのGS1-128エミュレーション=無効</p>
<p>\$C4BU801</p>  <p>GS1 DataBar™ OmnidirectionalのGS1-128エミュレーション=有効</p>	



GS1 DataBar™ Omnidirectionalの2Dコンポーネント

この機能は、この読み取りコードのベースラベルをデコードする場合に2Dラベルコンポーネントをデコードする必要があるかどうかを指定します。




	<p>\$C4B2D00</p>  <p>GS1 DataBar™ Omnidirectionalの2Dコンポーネント=無効 (2Dコンポーネントは不要)</p>
<p>\$C4B2D01</p>  <p>GS1 DataBar™ Omnidirectionalの2Dコンポーネント=2Dコンポーネントをデコードする必要がある</p>	

GS1 DataBar™ Expanded

GS1 DataBar™ Expanded (以前のRSS Expanded) 読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

GS1 DataBar™ Expandedの有効化/無効化




このオプションを無効にすると、スキャナーでGS1 DataBar™ Expandedのバーコードが読み取られません。

	<p>\$CXBEN00</p>  <p>GS1 DataBar™ Expanded=無効</p>
<p>\$CXBEN01</p>  <p>GS1 DataBar™ Expanded=有効</p>	






GS1 DataBar™ ExpandedのGS1-128エミュレーション

このオプションを有効にすると、GS1 DataBar™ ExpandedのバーコードがGS1-128ラベルのデータフォーマットに変換されます。

	<p>\$CXBU800</p>  <p>GS1 DataBar™ ExpandedのGS1-128エミュレーション=無効</p>
<p>\$CXBU801</p>  <p>GS1 DataBar™ ExpandedのGS1-128エミュレーション=有効</p>	

GS1 DataBar™ Expandedの2Dコンポーネント

この機能は、この読み取りコードのベースラベルをデコードする場合に2Dラベルコンポーネントをデコードする必要があるかどうかを指定します。

	<p>CXB2D00</p>  <p>GS1 DataBar™ Expandedの2Dコンポーネント=無効</p>
<p>CXB2D01</p>  <p>GS1 DataBar™ Expandedの2Dコンポーネント=有効</p>	






GS1 DataBar™ Expandedの長さ制御

この機能は、GS1 DataBar™ Expanded読み取りコードの可変長のデコードまたは固定長のデコードのどちらかを指定します。

可変長：可変長のデコードでは、最小の長さを設定できます。

固定長：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。

	<p>\$CXBLC00</p>  <p>GS1 DataBar™ Expandedの長さ制御=可変長</p>
<p>\$CXBLC01</p>  <p>GS1 DataBar™ Expandedの長さ制御=固定長</p>	





GS1 DataBar™ Expandedの長さ1の設定

この機能は、GS1 DataBar™ Expandedの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。1～74文字の長さを設定できます。

表16には、長さ1の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、205ページを参照してください。

表16.GS1 DataBar™ Expandedの長さ1の設定の例

手順	アクション	例			
1	目的の設定	01文字	07文字	52文字	74文字
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[GS1 DataBar™ Expandedの長さ1の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「テンキー」から2つの文字をスキャン	[0]および[1]	[0]および[7]	[5]および[2]	[7]および[4]
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				

\$CXBL1  GS1 DataBar™ Expandedの長さ1の設定の選択	
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。	~  キャンセル

初期設定

01=長さ1は1文字です





GS1 DataBar™ Expandedの長さ2の設定

この機能は、GS1 DataBar™ Expandedの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。1～74文字の長さを設定できます。0を設定すると、この長さは無視されます（固定長は1つのみ）。

表17には、長さ2の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、205ページを参照してください。

表17.GS1 DataBar™ Expandedの長さ2の設定の例

手順	アクション	例			
1	目的の設定	00 (2つ目の長さを無視する)	07文字	52文字	74文字
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[GS1 DataBar™ Expandedの長さ2の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「テンキー」から2つの文字をスキャン	[0]および[0]	[0]および[7]	[5]および[2]	[7]および[4]
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				

\$CXBL2  GS1 DataBar™ Expandedの長さ2の設定の選択	
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。	~  キャンセル

初期設定

74=長さ2は74文字です






GS1 DataBar™ Limited

GS1 DataBar™ Limited（以前のRSS Limited）読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。




GS1 DataBar™ Limitedの有効化/無効化

このオプションを無効にすると、スキャナーでGS1 DataBar™ Limitedのバーコードが読み取られません。

	<p>\$CLBEN00</p>  <p>GS1 DataBar™ Limited=無効</p>
<p>\$CLBEN01</p>  <p>GS1 DataBar™ Limited=有効</p>	

GS1 DataBar™ LimitedのGS1-128エミュレーション




このオプションを有効にすると、GS1 DataBar™ LimitedのバーコードがGS1-128ラベルのデータフォーマットに変換されます。

	<p>\$CLBU800</p>  <p>GS1 DataBar™ LimitedのGS1-128エミュレーション=無効</p>
<p>\$CLBU801</p>  <p>GS1 DataBar™ LimitedのGS1-128エミュレーション=有効</p>	



GS1 DataBar™ Limitedの2Dコンポーネント

この機能は、この読み取りコードのベースラベルをデコードする場合に2Dラベルコンポーネントをデコードする必要があるかどうかを指定します。




	<p>\$CLB2D00</p>  <p>GS1 DataBar™ Limitedの2Dコンポーネント=無効 (2Dコンポーネントは不要)</p>
<p>\$CLB2D01</p>  <p>GS1 DataBar™ Limitedの2Dコンポーネント=2Dコンポーネントのデコードが必要</p>	

Code 93

Code 93読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

Code 93の有効化/無効化

Code 93のラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。

	<p>\$CC9EN01</p>  <p>Code 93=有効</p>
<p>\$CC9EN00</p>  <p>Code 93=無効</p>	





Code 93のチェックキャラクタの計算

オプションのCode 93チェックキャラクタの計算および検証を有効または無効にします。

	\$CC9LC00  Code 93のチェックキャラクタの計算=無効
\$CC9LC00  Code 93のチェックキャラクタの計算=Cのチェックを有効にする	
	\$CC9LC00  Code 93のチェックキャラクタの計算=Kのチェックを有効にする
\$CC9LC00  Code 93のチェックキャラクタの計算=CおよびKのチェックを有効にする	

Code 93のチェックキャラクタの送信

オプションのCode 93チェックキャラクタの送信を有効または無効にします。

	\$CC9LC00  Code 93のチェックキャラクタの送信=無効
\$CC9LC00  Code 93のチェックキャラクタの送信=有効	






Code 93の長さ制御

この機能は、Code 93読み取りコードで可変長デコードまたは固定長デコードのどちらを使用するかを指定します。

可変長：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

固定長：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。

	\$CC9LC00  Code 93の長さ制御=可変長
\$CC9LC01  Code 93=固定長	





Code 93の長さ1の設定

Code 93の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。01～50文字の長さを設定できます。

表18には、長さ1の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、205ページを参照してください。

表18.Code 93の長さ1の設定の例

手順	アクション	例			
1	目的の設定	01文字	07文字	15文字	50文字
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[Code 93の長さ1の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「テンキー」から2つの文字をスキャン	[0]および[1]	[0]および[7]	[1]および[5]	[5]および[0]
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				

\$CC9L1  Code 93の長さ1の設定の選択	
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。	~  キャンセル

初期設定

01=長さ1は1文字です





Code 93の長さ2の設定

この機能は、Code 93の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのチェックキャラクタ、データ文字列、およびFull ASCIIのシフト文字が含まれません。この長さにスタート/ストップキャラクタは含まれません。1～50文字の長さを設定できます。0を設定すると、この長さは無視されます（固定長は1つのみ）。

表19には、長さ2の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、205ページを参照してください。

表19.Code 93の長さ2の設定の例

手順	アクション	例			
1	目的の設定	00（この長さを無視する）	07文字	15文字	50文字
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[Code 93の長さ2の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「デンキー」から2つの文字をスキャン	[0]および[0]	[0]および[7]	[1]および[5]	[5]および[0]
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				

\$CC9L2  Code 93の長さ2の設定の選択	
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。	~  キャンセル

初期設定

50=長さ2は50文字です






MSI

MSI読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

MSIの有効化/無効化

MSIのラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。

	<p>\$CMSEN00</p>  <p>MSI=無効</p>
<p>\$CMSEN01</p>  <p>MSI=有効</p>	

MSIのチェックキャラクタの計算


オプションのMSIチェックキャラクタの計算および検証を有効または無効にします。

	<p>\$CMSCC00</p>  <p>MSIのチェックキャラクタの計算=無効</p>
<p>\$CMSCC01</p>  <p>MSIのチェックキャラクタの計算=Mod10を有効にする</p>	
	<p>\$CMSCC02</p>  <p>MSIのチェックキャラクタの計算=Mod11/10を有効にする</p>
<p>\$CMSCC03</p>  <p>MSIのチェックキャラクタの計算=Mod10/10を有効にする</p>	



MSIのチェックキャラクタの送信

MSIのチェックキャラクタの送信を有効または無効にします。




	\$CMSCT00  MSIのチェックキャラクタの送信=無効
\$CMSCT01  MSIのチェックキャラクタの送信=有効	

MSIの長さ制御

この機能は、MSI読み取りコードで可変長デコードまたは固定長デコードのどちらを使用するかを指定します。

可変長：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

固定長：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。

	\$CMSLC00  MSIの長さ制御=可変長
\$CMSLC01  MSI=固定長	





MSIの長さ1の設定

この機能は、MSIの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。01～50文字の長さを設定できます。

表20には、長さ1の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、205ページを参照してください。

表20.MSIの長さ1の設定の例

手順	アクション	例			
		01文字	07文字	15文字	50文字
1	目的の設定	01文字	07文字	15文字	50文字
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[MSIの長さ1の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「テンキー」から2つの文字をスキャン	[0]および[1]	[0]および[7]	[1]および[5]	[5]および[0]
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				

\$CMSL1		
	MSIの長さ1の設定の選択	
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。	~	
		キャンセル

初期設定

01=長さ1は1文字です



MSIの長さ2の設定



この機能は、MSIの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのチェックキャラクタ、データ文字列、およびFull ASCIIのシフト文字が含まれます。この長さにスタート/ストップキャラクタは含まれません。

1～50文字の長さを設定できます。0を設定すると、この長さは無視されます（固定長は1つのみ）。

表21には、長さ2の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、205ページを参照してください。

表21.MSIの長さ2の設定の例

手順	アクション	例			
1	目的の設定	00（この長さを無視する）	07文字	15文字	50文字
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[MSIの長さ2の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「テンキー」から2つの文字をスキャン	[0]および[0]	[0]および[7]	[1]および[5]	[5]および[0]
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				

\$CMSL2  MSIの長さ2の設定の選択	
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。	~  キャンセル

初期設定

50=長さ2は50文字です






Plessey

Plessey読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

Plesseyの有効化/無効化

Plesseyのラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。

	<p>\$CPLEN00</p>  <p>Plessey=無効</p>
<p>\$CPLEN01</p>  <p>Plessey=有効</p>	



Plesseyのチェックキャラクタの計算

オプションのPlesseyチェックキャラクタの計算および検証を有効または無効にします。

	\$CPLCC00  Plesseyのチェックキャラクタの計算=無効
\$CPLCC01  Plesseyのチェックキャラクタの計算= Plessey標準チェックキャラクタの検証を有効にする	
	\$CPLCC02  Plesseyのチェックキャラクタの計算= Ankerチェックキャラクタの検証を有効にする
\$CPLCC03  Plesseyのチェックキャラクタの計算=Plessey標準チェックキャラクタおよびAnkerチェックキャラクタの検証を有効にする	

Plesseyのチェックキャラクタの送信

MSIのチェックキャラクタの送信を有効または無効にします。

	\$CPLCT00  Plesseyのチェックキャラクタの送信=無効
\$CPLCT01  Plesseyのチェックキャラクタの送信=有効	






Plesseyの長さ制御

この機能は、Plessey読み取りコードの可変長のデコードまたは固定長のデコードのどちらかを指定します。

可変長：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

固定長：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。

	<p>\$CPLLC00</p>  <p>Plesseyの長さ制御=可変長</p>
<p>\$CPLLC01</p>  <p>Plessey=固定長</p>	





Plesseyの長さ1の設定

この機能は、Plesseyの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。01～50文字の長さを設定できます。

表22には、長さ1の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順については詳しくは、205ページを参照してください。

表22.Plesseyの長さ1の設定の例

手順	アクション	例			
		01文字	07文字	15文字	50文字
1	目的の設定				
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[Plesseyの長さ1の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「デンキー」から2つの文字をスキャン	[0]および[1]	[0]および[7]	[1]および[5]	[5]および[0]
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				

\$CPLL1  Plesseyの長さ1の設定の選択	
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。	~  キャンセル

初期設定

01=長さ1は1文字です



Plesseyの長さ2の設定

この機能は、Plesseyの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのチェックキャラクタ、データ文字列、およびFull ASCIIのシフト文字が含まれません。この長さにスタート/ストップキャラクタは含まれません。

1～50文字の長さを設定できます。0を設定すると、この長さは無視されます（固定長は1つのみ）。

表23には、長さ2の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、205ページを参照してください。

表23.Plesseyの長さ2の設定の例

手順	アクション	例			
1	目的の設定	00（この長さを無視する）	07文字	15文字	50文字
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[Plesseyの長さ2の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「テンキー」から2つの文字をスキャン	[0]および[0]	[0]および[7]	[1]および[5]	[5]および[0]
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				

\$CPLL2



Plesseyの長さ2の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

~



キャンセル

初期設定

50=長さ2は50文字です



郵便コードの選択

特定の郵便読み取りコードのラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。

- すべての郵便コードの無効化
- Postnet
- Planet
- Royal Mail
- Kix
- オーストラリアの郵便
- 日本の郵便
- IMB
- スウェーデンの郵便
- ポルトガルの郵便




	<p>CPOEN00</p>  <p>郵便コードの選択=すべての郵便コードを無効にする</p>
<p>CPOEN01</p>  <p>郵便コードの選択=Postnetを有効にする</p>	
<p>CPOEN02</p>  <p>郵便コードの選択=Planetを有効にする</p>	
<p>CPOEN03</p>  <p>郵便コードの選択=Royal Mailを有効にする</p>	
<p>CPOEN04</p>  <p>郵便コードの選択=Kixを有効にする</p>	
<p>CPOEN05</p>  <p>郵便コードの選択=オーストラリアの郵便を有効にする</p>	



	<p>CPOEN06</p>  <p>郵便コードの選択=日本の郵便を有効にする</p>
<p>CPOEN07</p>  <p>郵便コードの選択=IMBを有効にする</p>	
	<p>CPOEN08</p>  <p>郵便コードの選択=スウェーデンの郵便を有効にする</p>
<p>CPOEN09</p>  <p>郵便コードの選択=ポルトガルの郵便を有効にする</p>	

PostnetのBB制御

PostnetラベルのBおよびB'フィールドをスキャナーでデコードする機能を制御します。

	<p>CPOBB00</p>  <p>PostnetのBB制御=無効</p>
<p>CPOBB01</p>  <p>PostnetのBB制御=有効</p>	

2D読み取りコード

2Dグローバル機能

- 2Dの最大デコード時間 (170ページ)
- 2D標準/反転読み取りコード制御 (171ページ)
- 2Dマルチフレームタイムアウト (171ページ)

2D読み取りコード

- Aztec Code (173ページ)
- China Sensible Code (175ページ)
- Data Matrix (178ページ)
- Maxicode (182ページ)
- PDF417 (184ページ)
- Micro PDF417 (187ページ)
- QR Code (191ページ)
- Micro QR (193ページ)
- UCC Composite (194ページ)

2Dグローバル機能

以下の機能は、利用可能なすべての（場合によってはほとんどの）2D読み取りコードに共通するものです。各機能またはオプションの初期設定は、緑色の矢印で示されています。また、最も一般的に使用されている標準の工場出荷時設定の一覧については、付録B「標準の初期設定」を参照してください。このセクションには、お使いのシステムに必要な、または導入されているカスタム設定を記録する欄も用意されています。

大部分の機能を設定するには、以下の操作を行います。

1. 該当するプログラミング ページの一番上にある[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンします。
2. 目的のプログラミング機能またはパラメーターを設定するためのバーコードをスキャンします。スキャン対象のバーコードのみがスキャナーで確実に読み取られるように、そのページおよび（場合によっては）見開きページ上の使用しないバーコードを隠す必要が生じる場合があります。
3. その他の入力パラメーターが必要な場合は、付録D「テンキー」に進み、テンキーの適切な文字をスキャンします。



「リファレンス」の章には、多くの機能に関する追加情報が記載されています。









最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

一連のプログラミング手順を完了します。このためには、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンしてプログラミング モードを終了します。



2Dの最大デコード時間

この機能は、ソフトウェアが2Dラベルのデコードに費やす最大の時間を指定します。選択可能な範囲は、10ミリ秒～2.55秒です。

<p>CDETM0A</p>  <p>2Dの最大デコード時間=100ミリ秒</p>	
	<p>CDETM32</p>  <p>2Dの最大デコード時間=200ミリ秒</p>
<p>CDETM23</p>  <p>2Dの最大デコード時間=350ミリ秒</p>	
	<p>CDETM80</p>  <p>2Dの最大デコード時間=500ミリ秒</p>
<p>CDETM16</p>  <p>2Dの最大デコード時間=1秒</p>	
	<p>CDETM8</p>  <p>2Dの最大デコード時間=2秒</p>
<p>CDETMFF</p>  <p>2Dの最大デコード時間=2.55秒</p>	



2Dの通常/反転読み取りコード制御

通常印刷または白黒反転印刷された読み取りコードのデコードに利用できるオプションを指定します。この設定項目は、標準AIM仕様に従ってその機能をサポートしているすべての読み取りコード（Datamatrix、QR、Micro QR、Aztec、およびChinese Sensible Code）にグローバルに適用されます。オプションは、以下のとおりです。

- 標準
- 反転
- 標準と反転の両方

	<p>CIPNR00</p> <p>通常/反転読み取りコード制御=通常</p>
<p>CIPNR01</p> <p>通常/反転読み取りコード制御=反転</p>	
	<p>CIPNR02</p> <p>通常/反転読み取りコード制御=通常と反転の両方</p>

2Dマルチフレーム タイムアウト

部分的にデコードされた2Dラベルがソフトウェアによって格納されてから破棄されるまでの時間（ラベルが正常にデコードされなかった場合）を指定します。このタイムアウトは、無効にすることも、100～6300ミリ秒（01～0x3F）の範囲で100ミリ秒単位で設定することもできます。

	<p>CSNMF00</p> <p>2Dマルチフレーム タイムアウト=タイムアウトは無効</p>
<p>CSNMF01</p> <p>2Dマルチフレーム タイムアウト=100ミリ秒</p>	



	CSNMF05  2Dマルチフレーム タイムアウト=500ミリ秒
CSNMF0A  2Dマルチフレーム タイムアウト=1秒	
	CSNMF14  2Dマルチフレーム タイムアウト=2秒
CSNMF19  2Dマルチフレーム タイムアウト=2.5秒	
	CSNMF1E  2Dマルチフレーム タイムアウト=3秒

2D読み取りコードの選択

このスキャナーでサポートされている2D読み取りコード（バーコードの種類）を以下に示します。この章には、各読み取りコードの、読み取りコードに依存するオプションが含まれています。1Dバーコードの設定については、67ページからの「1Dコードの選択」を参照してください。




- Aztec Code（173ページ）
- China Sensible Code（175ページ）
- Data Matrix（178ページ）
- Maxicode（182ページ）
- PDF417（184ページ）
- Micro PDF417（187ページ）
- QR Code（191ページ）
- Micro QR（193ページ）
- UCC Composite（194ページ）



Aztec Code

Aztec Codeの有効化/無効化

Aztec Codeのラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。


	<p>CAZEN00</p>  <p>Aztec Code=無効</p>
<p>CAZEN01</p>  <p>Aztec Code=有効</p>	

Aztec Codeの長さ制御

この機能は、この読み取りコードで可変長デコードまたは固定長デコードのどちらを使用するかを指定します。

可変長：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

固定長：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。



	<p>CAZLC00</p>  <p>Aztec Codeの長さ制御=可変長</p>
<p>CAZLC01</p>  <p>Aztec Codeの長さ制御=固定長</p>	

Aztec Codeの長さ1の設定

Aztec Codeの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。文字数は、0001～2,000文字の範囲で0001単位で設定できます（前を0で埋めます）。



この機能の設定手順について詳しくは、[205ページ](#)を参照してください。

<p>CAZL1</p>  <p>Aztec Codeの長さ1の設定の選択</p>	
<p>入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。</p>	<p>~</p>  <p>キャンセル</p>



初期設定

0001=長さ1は1文字です

Aztec Codeの長さ2の設定

この機能は、Aztec Codeの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。文字数は、0001 ~ 2,000文字の範囲で0001単位で設定できます（前を0で埋めます）。

この機能の設定手順について詳しくは、[205ページ](#)を参照してください。

<p>CAZL2</p>  <p>Aztec Codeの長さ2の設定の選択</p>	
<p>入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。</p>	<p>~</p>  <p>キャンセル</p>

初期設定




長さ2は2,000文字です



China Sensible Code

China Sensible Codeの有効化/無効化

China Sensible Codeのラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。

	<p>CCSEN00</p>  <p>China Sensible Code=無効</p>
<p>CCSEN01</p>  <p>China Sensible Code=有効</p>	

China Sensible Codeの長さ制御

この機能は、この読み取りコードで可変長デコードまたは固定長デコードのどちらを使用するかを指定します。

可変長：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

固定長：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。



	<p>CCSLC00</p>  <p>China Sensible Codeの長さ制御=可変長</p>
<p>CCSLC01</p>  <p>China Sensible Codeの長さ制御=固定長</p>	



China Sensible Codeの長さ1の設定

China Sensible Codeの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。文字数は、0001～2,000文字の範囲で0001単位で設定できます（前を0で埋めます）。

この機能の設定手順について詳しくは、[205ページ](#)を参照してください。

<p>CCSL1</p>  <p>China Sensible Codeの長さ1の設定の選択</p>	
<p>入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。</p>	<p>~</p>  <p>キャンセル</p>





0001=長さ1は1文字です



China Sensible Codeの長さ2の設定

この機能は、China Sensible Codeの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。文字数は、0001～2,000文字の範囲で0001単位で設定できます（前を0で埋めます）。

この機能の設定手順について詳しくは、[205ページ](#)を参照してください。

CCSL2  China Sensible Codeの長さ2の設定の選択	
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。	~  キャンセル

初期設定

長さ2は2,000文字です



Data Matrix




Data Matrixの有効化/無効化

Data Matrixのラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。

	CDMEN00  Data Matrix=無効
CDMEN01  Data Matrix=有効	

Data Matrixのスモールコード

Data Matrixのスモールコードをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。

	CDMSC00  Data Matrixのスモールコード=無効
CDMSC01  Data Matrixのスモールコード=有効	



Data Matrixの正方形/長方形スタイル

異なるフォーム ファクターを持つDatamatrixを読み取る場合に利用可能なオプションを指定します。以下のオプションを選択できます。

- 正方形スタイル
- 長方形スタイル
- 正方形スタイルと長方形スタイルの両方

また、この設定項目は、異なる読み取りコード サイズおよび形状スタイルを持つ1つ以上のData Matrixラベルをフィルタリングするビットマスクとして設定することもできます。

	CDMDM3FFF0BDF  Data Matrixの寸法マスク=正方形スタイル
CDMDM0000F420  Data Matrixの寸法マスク=長方形スタイル	
	CDMDM03FFFFFFF  Data Matrixの寸法マスク=正方形スタイルと長方形スタイルの両方






Data Matrixの長さ制御

この機能は、この読み取りコードで可変長デコードまたは固定長デコードのどちらを使用するかを指定します。

可変長：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。



固定長：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。

	<p>CDSCC00</p>  <p>Data Matrixの長さ制御=可変長</p>
<p>CDSCC01</p>  <p>Data Matrixの長さ制御=固定長</p>	

Data Matrixの長さ1の設定

Data Matrixの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。文字数は、0001～2,000文字の範囲で0001単位で設定できます（前を0で埋めます）。

この機能の設定手順について詳しくは、[205ページ](#)を参照してください。

<p>CDML1</p>  <p>Data Matrixの長さ1の設定の選択</p>	
<p>入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。</p>	<p>~</p>  <p>キャンセル</p>

初期設定



0001=長さ1は1文字です



Data Matrixの長さ2の設定

この機能は、Data Matrixの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。文字数は、0001~2,000文字の範囲で0001単位で設定できます（前を0で埋めます）。

この機能の設定手順について詳しくは、[205ページ](#)を参照してください。

<p>CDML2</p>  <p>Data Matrixの長さ2の設定の選択</p>	
<p>入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。</p>	<p>~</p>  <p>キャンセル</p>

初期設定




長さ2は2,000文字です



Maxicode




Maxicodeの有効化/無効化

Maxicodeのラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。

	CMXEN00  Maxicode=無効
CMXEN01  Maxicode=有効	

Maxicodeのプライマリ メッセージの送信

セカンダリ メッセージを読み取れない場合のプライマリ メッセージのみの送信を有効または無効にします。

	CMXPT00  Maxicodeのプライマリ メッセージの送信=無効
CMXPT01  Maxicodeのプライマリ メッセージの送信=有効	






Maxicodeの長さ制御

この機能は、この読み取りコードで可変長デコードまたは固定長デコードのどちらを使用するかを指定します。

可変長：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。



固定長：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。

	<p>CMXLC00</p>  <p>Maxicodeの長さ制御=可変長</p>
<p>CMXLC01</p>  <p>Maxicodeの長さ制御=固定長</p>	

Maxicodeの長さ1の設定

Maxicodeの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。文字数は、0001～2,000文字の範囲で0001単位で設定できます（前を0で埋めます）。

この機能の設定手順について詳しくは、[205ページ](#)を参照してください。

<p>CMXL1</p>  <p>Maxicodeの長さ1の設定の選択</p>	
<p>入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。</p>	<p>~</p>  <p>キャンセル</p>

初期設定



0001=長さ1は1文字です



Maxicodeの長さ2の設定

この機能は、Maxicodeの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。文字数は、0001～2,000文字の範囲で0001単位で設定できます（前を0で埋めます）。

この機能の設定手順について詳しくは、[205ページ](#)を参照してください。

<p>CMXL2</p>  <p>Maxicodeの長さ2の設定の選択</p>	
<p>入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。</p>	<p>~</p>  <p>キャンセル</p>



初期設定

長さ2は2,000文字です

PDF417

PDF417の有効化/無効化




PDF417のラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。

	<p>CP4EN00</p>  <p>PDF417=無効</p>
<p>CP4EN01</p>  <p>PDF417=有効</p>	<p>初期設定</p>



Macro PDF417

複数のPDF417ラベルを連結して構造化されたフォーマット（Macro PDF417とも呼ばれる）を形成するスキャナーの機能を有効または無効にします。

	CP4SA00  Macro PDF417=無効
CP4SA01  Macro PDF417=有効	






PDF417の長さ制御

この機能は、この読み取りコードで可変長デコードまたは固定長デコードのどちらを使用するかを指定します。

可変長：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。



固定長：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。

	<p>CP4LC00</p>  <p>PDF417の長さ制御=可変長</p>
<p>CP4LC01</p>  <p>PDF417の長さ制御=固定長</p>	

PDF417の長さ1の設定

PDF417の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。文字数は、0001～1,000文字の範囲で01単位で設定できます（前を0で埋めます）。1,000より大きな値は1,000とみなされます。

この機能の設定手順について詳しくは、[205ページ](#)を参照してください。

<p>CP4L1</p>  <p>PDF417の長さ1の設定の選択</p>	
<p>入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。</p>	<p>~</p>  <p>キャンセル</p>

初期設定



0001=長さ1は1文字です



PDF417の長さ2の設定

この機能は、PDF417の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのチェックキャラクタ、データ文字列、およびFull ASCIIのシフト文字が含まれます。この長さにスタート/ストップキャラクタは含まれません。文字数は、01～1,000文字の範囲で01単位で設定できます（前を0で埋めます）。1,000より大きな値は1,000とみなされます。

この機能の設定手順について詳しくは、[205ページ](#)を参照してください。

<p>CP4L2</p>  <p>PDF417の長さ2の設定の選択</p>	
<p>入力ミスをした場合：【キャンセル】バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。</p>	<p>~</p>  <p>キャンセル</p>




初期設定

長さ2は1,000文字です

Micro PDF417

Micro PDF417の有効化/無効化

Micro PDF417のラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。

<p>初期設定</p> 	<p>CMIEN00</p>  <p>Micro PDF417=無効</p>
<p>CMIEN01</p>  <p>Micro PDF417=有効</p>	






Micro PDF417のCode 128/GS-1-128エミュレーション

Code 128またはGS1-128エミュレーションを行うときにMicroPDFラベルで使用するAIM IDを指定します。

エミュレーションの選択肢は以下のとおりです。

- Micro PDFのAIM IDおよびラベルの種類
- Code 128/EAN128のAIM IDおよびラベルの種類



	<p>CMIU800</p>  <p>Micro PDF417のCode 128/GS-1-128エミュレーション= Micro PDFのAIM IDおよびラベルの種類</p>
<p>CMIU801</p>  <p>Micro PDF417のCode 128/GS-1-128エミュレーション= Code 128/EAN128のAIM IDおよびラベルの種類</p>	

Micro PDF417の長さ制御

この機能は、この読み取りコードで可変長デコードまたは固定長デコードのどちらを使用するかを指定します。

可変長：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

固定長：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。



	<p>CMILC00</p>  <p>Micro PDF417の長さ制御=可変長</p>
<p>CMILC01</p>  <p>Micro PDF417の長さ制御=固定長</p>	



Micro PDF417の長さ1の設定

Micro PDF417の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。文字数は、0001～0366文字の範囲で01単位で設定できます（前を0で埋めます）。0366よりも大きい値はすべて0366とみなされます。

この機能の設定手順について詳しくは、[205ページ](#)を参照してください。

<p>CMIL1</p>  <p>Micro PDF417の長さ1の設定の選択</p>	
<p>入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。</p>	<p>~</p>  <p>キャンセル</p>

初期設定



0001=長さ1は1文字です



Micro PDF417の長さ2の設定

この機能は、PDF417の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。文字数は、0001～0366文字の範囲で01単位で設定できます（前を0で埋めます）。0366よりも大きい値はすべて0366とみなされます。

この機能の設定手順について詳しくは、[205ページ](#)を参照してください。

CMIL2  Micro PDF417の長さ2の設定の選択	
入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。	~  キャンセル

初期設定




長さ2は0366文字です



QRコード

QR Codeの有効化/無効化

QR Codeのラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。

	CQREN00  QR Code=無効
CQREN01  QR Code=有効	






QR Codeの長さ制御

この機能は、この読み取りコードで可変長デコードまたは固定長デコードのどちらを使用するかを指定します。

可変長：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。



固定長：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。

	<p>CQRLC00</p>  <p>QR Codeの長さ制御=可変長</p>
<p>CQRLC01</p>  <p>QR Codeの長さ制御=固定長</p>	

QR Codeの長さ1の設定

QR Codeの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。文字数は、0001 ~ 2,000文字の範囲で0001単位で設定できます（前を0で埋めます）。

この機能の設定手順について詳しくは、[205ページ](#)を参照してください。

<p>CQRL1</p>  <p>QR Codeの長さ1の設定の選択</p>	
<p>入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。</p>	<p>~</p>  <p>キャンセル</p>

初期設定



0001=長さ1は1文字です



QR Codeの長さ2の設定

この機能は、QR Codeの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。文字数は、0001～2,000文字の範囲で0001単位で設定できます（前を0で埋めます）。

この機能の設定手順について詳しくは、[205ページ](#)を参照してください。

<p>CQRL2</p>  <p>QR Codeの長さ2の設定の選択</p>	
<p>入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。</p>	<p>~</p>  <p>キャンセル</p>




初期設定

長さ2は2,000文字です

Micro QR

Micro QRの有効化/無効化

Micro QRのラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。

<p>初期設定</p> 	<p>CMQEN00</p>  <p>Micro QR=無効</p>
<p>CMQEN01</p>  <p>Micro QR=有効</p>	






UCC Composite

UCC Compositeの有効化/無効化

UCC Compositeラベルのスタック部分をスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。



グローバルAIM IDが有効になっていると、この機能は有効でなくなります (39ページの「グローバルAIM ID」を参照してください)。

	CCMEN00  UCC Composite=無効
CCMEN01  UCC Composite=有効	



UCCオプション コンポジット タイマー

システムが線形ラベルをアドオンなしで送信する前にUCC Compositeラベルのスタック部分を待つ時間を指定します。

	CCMOT00  UCCオプション コンポジット タイマー=タイマーが無効
CCMOT01  UCCオプション コンポジット タイマー=10ミリ秒	
	CCMOT02  UCCオプション コンポジット タイマー=20ミリ秒
CCMOT03  UCCオプション コンポジット タイマー=30ミリ秒	
	CCMOT04  UCCオプション コンポジット タイマー=40ミリ秒
CCMOT05  UCCオプション コンポジット タイマー=50ミリ秒	

UCCオプション コンボジット タイマー (続き)

	CCMOT08  UCCオプション コンボジット タイマー=80ミリ秒
CCMOT64  UCCオプション コンボジット タイマー=100ミリ秒	
	CCMOT96  UCCオプション コンボジット タイマー=150ミリ秒
CCMOTC8  UCCオプション コンボジット タイマー=200ミリ秒	
	CCMOTFA  UCCオプション コンボジット タイマー=250ミリ秒
CCMOT1E  UCCオプション コンボジット タイマー=300ミリ秒	

第4章

リファレンス

このセクションには、一部のバーコード機能の説明および例が載されています。スキャナーの設定に使用される実際のバーコード ラベルについては、設定のセクションを参照してください。

USB COMのパラメーター

文字間遅延

このパラメーターは、ある文字の末尾が送られてから次の文字の先頭が送られるまでの文字間の遅延時間を指定します。遅延時間は、0（ゼロ）～990ミリ秒の範囲（10ミリ秒単位）で設定できます。0を設定すると、遅延なしになります。

遅延時間を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の設定（ミリ秒）を決めます。
2. 目的の設定を10で割ります（設定は10ミリ秒単位です）。結果の前を0で埋めて2桁の数値にします。例：0 = 00、5 = 05、20 = 20など
3. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミングモードを開始します。
4. 22ページを参照し、[文字間遅延設定の選択]バーコードをスキャンします。
5. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順で決めた待機時間を表す適切な2つの数字をスキャンします。最後の文字を入力すると、ピープ音が2回鳴って通知されます。



最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力直すことができます。

6. [プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンして終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、表24を参照してください。

表24.文字間遅延の設定の例

手順	アクション	例			
1	目的の設定	50ミリ秒	150ミリ秒	600ミリ秒	850ミリ秒
2	10で除算（前を0で埋めて2桁の数値にする）	05	15	60	85
3	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
4	[文字間遅延の設定の選択]をスキャン				
5	付録D「デンキー」から2つの文字をスキャン	[0]および[5]	[5]および[0]	[6]および[0]	[8]および[5]
6	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				

ACK/NAKのオプション

このオプションは、スキャナーのACK/NAKプロトコルサポート機能を有効または無効にします。このオプションを設定すると、スキャナーまたはホストで、データを正しく受信すると「ACK」を送信し、データが間違っていると「NAK」を送信します。

以下のオプションがあります。

- 無効化
- ラベルの送信で有効：スキャナーで、ラベルの送信時にホストからのACK/NAK応答を待ちます。
- ホスト コマンドの確認応答で有効：ホストからコマンドが送信されたときにスキャナーでACK/NAK応答を送ります。
- ラベルの送信およびホスト コマンドの確認応答で有効

ACK文字

この設定は、ACK文字として使用するASCII文字または16進値を指定します。ASCII文字または0~0xFFの16進値を選択できます。

1. 目的の文字または値を決めます。
2. このガイドの裏表紙の内側に記載されているASCII表を使用して、目的の文字または値を表す同等の16進値を見つけます。
3. 24ページを参照し、[プログラミングモードの開始/終了]をスキャンしてプログラミングモードを開始します。
4. [ACK文字設定の選択]バーコードをスキャンします。
5. 付録D「デンキー」に記載されているデンキーから、上記の手順1で決めた目的の文字または値を表す適切な2つの英数字をスキャンします。2つ目の文字を入力すると、ビーブ音が2回鳴って通知されます。
6. [プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンして終了します。

この機能の設定方法のいくつかの例については、表25を参照してください。

表25.ACK文字の設定の例

手順	アクション	例			
1	目的の文字または値	ACK	\$	@	>
2	ASCII表に基づく同等の16進値	0x06	0x24	0x40	0x3E
3	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				
4	[ACK文字設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から 2つの文字をスキャン	[0]および[6]	[2]および[4]	[4]および[0]	[3]および[E]
6	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				

NAK文字

この設定は、NAK文字として使用するASCII文字または16進値を指定します。ASCII文字または0~0xFFの16進値を選択できます。

この機能を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の文字または値を決めます。
2. このガイドの裏表紙の内側に記載されているASCII表を使用して、目的の文字または値を表す同等の16進値を見つけます。
3. 24ページを参照し、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンしてプログラミング モードを開始します。
4. [NAK文字の設定の選択]バーコードをスキャンします。
5. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順1で決めた目的の文字または値を表す適切な2つの英数字をスキャンします。2つ目の文字を入力すると、ビーブ音が2回鳴って通知されます。
6. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、表26を参照してください。

表26.NAK文字の設定の例

手順	アクション	例			
1	目的の文字または値	NAK	\$	@	>
2	ASCII表に基づく同等の16進値	0x15	0x24	0x40	0x3E
3	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				
4	[ACK文字設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から 2つの文字をスキャン	[1]および[5]	[2]および[4]	[4]および[0]	[3]および[E]

手順	アクション	例			
1	目的の文字または値	NAK	\$	@	>
2	ASCII表に基づく同等の16進値	0x15	0x24	0x40	0x3E
6	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				

ACK/NAKのタイムアウト値

このオプションは、ラベルの送信後にホストからACK文字が送られてくるまでスキャナーが待機する時間を指定します。選択できるタイムアウト値の範囲は、200～15,000ミリ秒（15秒）（200ミリ秒単位）です。0を選択すると、タイムアウトは無効になります。

この値を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の設定（ミリ秒）を決めます。
2. 目的の設定を200で割ります（設定は200ミリ秒単位です）。結果の前を0で埋めて2桁の数値にします。例：0 = 00、5 = 05、20 = 20など
3. 25ページを参照し、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンしてプログラミングモードを開始します。
4. [ACK/NAKのタイムアウト値の設定の選択]バーコードをスキャンします。
5. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順で決めた待機時間を表す適切な2つの数字をスキャンします。最後の文字を入力すると、ビープ音が2回鳴って通知されます。



最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力直すことができます。

6. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミングモードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、表27を参照してください。

表27.ACK/NAKのタイムアウト値の設定の例

手順	アクション	例			
1	目的の設定	200ミリ秒	1,000ミリ秒（1秒）	5200ミリ秒（5.2秒）	15,000ミリ秒（15秒）
2	200で除算	01	05	26	75
3	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				
4	[ACK/NAKのタイムアウト値の設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から2つの文字をスキャン	[0]および[1]	[0]および[5]	[2]および[6]	[7]および[5]
6	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				

ACK/NAKの再試行回数

この機能は、再試行状態のためにスキャナーでラベルの送信を再試行する回数を指定します。選択できる再試行回数は1～254です。0を選択すると、再試行回数は無効になり、255を選択すると、再試行回数は無制限になります。

この機能を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の設定を決めます。
2. 数字の前を0で埋めて3桁の数値にします。例：0 = 000、5 = 005、20 = 020など
3. 25ページを参照し、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンしてプログラミングモードを開始します。
4. [ACK/NAKの再試行回数の設定の選択]バーコードをスキャンします。
5. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順で決めた数値を表す適切な3つの数字をスキャンします。最後の文字を入力すると、ピープ音が2回鳴って通知されます。



最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

6. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミングモードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、表28を参照してください。

表28.ACK/NAKの再試行回数設定の例

手順	アクション	例			
1	目的の設定	再試行回数を無効化	3回の再試行	54回の再試行	無制限の再試行
2	前に0（ゼロ）を埋める	000	003	054	255
3	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
4	[ACK/NAKの再試行回数設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から3つの文字をスキャン	[0]、[0]、および[0]	[0]、[0]、および[3]	[0]、[5]、および[4]	[2]、[5]、および[5]
6	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				

無効化文字

スキャナーの無効化に使用されるホスト コマンドの値を指定します。ASCII文字または0～0xFFの16進値を選択できます。

この値を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の文字または値を決めます。0xFFの設定は、無効化文字が使用されない（利用不可である）ことを示します。
2. このガイドの裏表紙の内側に記載されているASCII表を使用して、目的の文字または値を表す同等の16進値を見つけます。
3. 27ページを参照し、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンしてプログラミングモードを開始します。
4. [無効化文字の設定の選択]バーコードをスキャンします。
5. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順1で決めた目的の文字または値を表す適切な2つの英数字をスキャンします。2つ目の文字を入力すると、ビープ音が2回鳴って通知されます。
6. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミングモードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、表29を参照してください。

表29.無効化文字設定の例

手順	アクション	例			
1	目的の文字または値	「d」	「j」	「D」	無効化文字未使用
2	ASCII表に基づく同等の16進値	0x64	0x7D	0x44	0xFF
3	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				
4	[無効化文字値の設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から2つの文字をスキャン	[6]および[4]	[7]および[D]	[4]および[4]	[F]および[F]
6	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				

有効化文字

スキャナーの有効化に使用されるホスト コマンドの値を指定します。ASCII文字または0 ~ 0xFFの16進値を選択できます。この機能を設定するには、以下の操作を行います。

目的の文字または値を決めます。0xFFの設定は、有効化文字が使用されない（利用不可である）ことを示します。

1. 目的の文字または値を決めます。
2. このガイドの裏表紙の内側に記載されているASCII表を使用して、目的の文字または値を表す同等の16進値を見つけます。
3. 27ページを参照し、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンしてプログラミング モードを開始します。
4. [有効化文字の設定の選択]バーコードをスキャンします。
5. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順2で決めた目的の文字または値を表す適切な2つの英数字をスキャンします。2つ目の文字を入力すると、ビープ音が2回鳴って通知されます。
6. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、表30を参照してください。

表30.有効化文字設定の例

手順	アクション	例			
1	目的の文字または値	「e」	「j」	「E」	有効化コマンド未使用
2	ASCII表に基づく同等の16進値	0x65	0x7D	0x45	0xFF
3	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				
4	[無効化文字値の設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から2つの文字をスキャン	[6]および[5]	[7]および[D]	[4]および[5]	[F]および[F]
6	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				

コード間遅延

キーボード インターフェイスでホストに送信されるラベル間の遅延時間を指定します。この機能の選択可能な範囲は、0～99秒です。

この機能を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の設定を決めます。
2. 数字の前を0で埋めて2桁の数値にします。例：0 = 00、5 = 05、20 = 20など
3. [33ページ](#)を参照し、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンしてプログラミングモードを開始します。
4. [コード間遅延の設定の選択]バーコードをスキャンします。
5. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順で決めた持続時間を表す適切な2つの数字をスキャンします。最後の文字を入力すると、ビープ音が2回鳴って通知されます。



最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力直すことができます。

6. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミングモードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、[表31](#)を参照してください。

表31. ウェッジのコード間遅延の例

手順	アクション	例			
		遅延なし	5秒	60秒	99秒
1	目的の設定		5秒	60秒	99秒
2	前に0（ゼロ）を埋める	00	05	60	99
3	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
4	[コード間遅延の設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から2つの文字をスキャン	[0]および[0]	[0]および[5]	[6]および[0]	[9]および[9]
6	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				

読み取りコード

長さの設定

長さ制御を使用すれば、指定された読み取りコードで可変長デコードまたは固定長デコードのどちらかを選択できます。

可変長：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

固定長：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。

長さ1の設定

この機能は、長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。

設定できる文字の数は読み取りコードによって異なります。特定の変数について確認するには、選択した読み取りコードのページを参照してください。

1. 目的の文字長を決めます（読み取りコードによって異なります）。数字の前を0で埋めて2桁の数値にします。例：0 = 00、5 = 05、20 = 20など
2. 選択した読み取りコードの長さ設定ページを参照し、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンしてプログラミングモードを開始します。
3. 選択した読み取りコードの「長さ1の設定を選択」するためのバーコードをスキャンします。
4. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順で決めた長さ設定を表す適切な2つの数字をスキャンします。最後の文字を入力すると、ビープ音が2回鳴って通知されます。



最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力直すことができます。

5. [プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミングモードを終了します。

長さ2の設定

この機能では、指定された読み取りコードのバーコード長の1つを設定できます。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。パラメーターについては、特定の読み取りコードのページを参照してください。

設定できる長さは読み取りコードによって異なります。0を設定すると、この長さは無視されます（固定長は1つのみ）。

この機能を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の文字長を決めます（1～50。この長さを無視する場合は0）。数字の前を0で埋めて2桁の数値にします。例：0 = 00、5 = 05、20 = 20など
2. 選択した読み取りコードの長さ設定ページを参照し、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンしてプログラミングモードを開始します。

3. 選択した読み取りコードの「長さ2の設定を選択」するためのバーコードをスキャンします。
4. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順で決めた長さ設定を表す適切な2つの数字をスキャンします。最後の文字を入力すると、ビープ音が2回鳴って通知されます。



最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力直すことができます。

5. [プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミングモードを終了します。

以上でこの手順は完了です。

データ編集

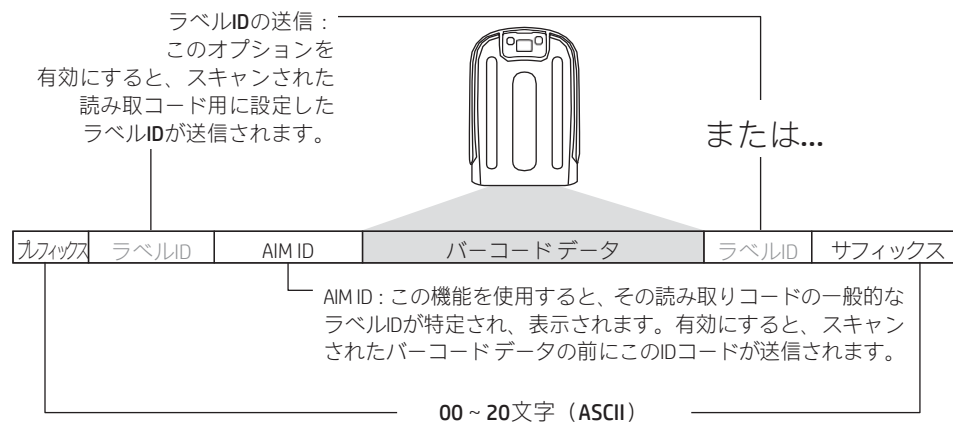


これらの機能をIBMインターフェイスで使用することはおすすめしません。

バーコードをスキャンすると、バーコード データとともに追加情報をホスト コンピューターに送信できます。このバーコード データとユーザー定義の追加データの組み合わせを「メッセージ文字列」と呼びます。データ編集機能を使用すると、特定のユーザー定義データをメッセージ文字列に組み込むことができます。

スキャンされたデータの前後に送信できる数種類の選択可能なデータ文字列があります。これらのデータ文字列をすべての読み取りコードに付加して送信するか、特定の読み取りコードのみに付加して送信するかを指定できます。図5は、メッセージ文字列に付加できる使用可能な要素を示しています。

図5.メッセージ文字列の内訳



その他の高度な編集も利用できます。詳しくは、[HP Imaging Scanner Configuration]ソフトウェアの高度なフォーマット機能を確認するか、またはテクニカル サポート (8ページを参照してください) までお問い合わせください。

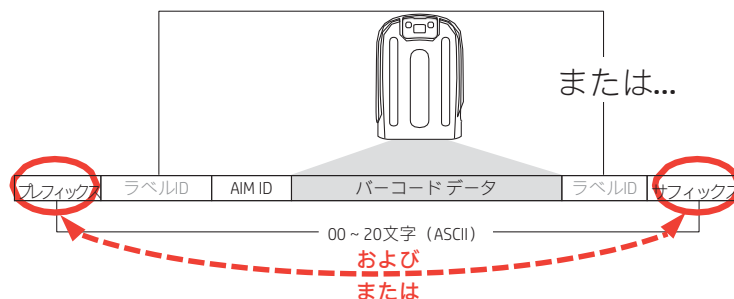
以下のことにご注意ください...

- メッセージ文字列の変更は必須条件ではありません。データ編集は、上級ユーザーにとってはカスタマイズ性の高い出力を可能にする優れた機能です。通常、データ編集の工場出荷時の設定は[NONE]（◆なし◆）になっています。
- プレフィックスまたはサフィックスは、指定された読み取りコード（67ページからの「1Dコードの選択」を参照）に対して適用することも、すべての読み取りコードにわたって適用（この章のグローバル機能を使用して設定）することもできます。
- このガイドの裏表紙の内側に記載されている「ASCII表」（00～FF）の任意の文字を、プレフィックス、サフィックス、またはラベルIDとして追加できます。
- プレフィックスおよびサフィックスは、出力に表示したい順序で入力します。

グローバルプレフィックス/サフィックス

図6に示すように、最大20文字のASCII文字をプレフィックスとして（バーコードデータの前の位置に）、またはサフィックスとして（バーコードデータの後ろの位置に）追加できます。

図6.プレフィックスおよびサフィックスの位置



例：プレフィックスの設定

この例では、すべての読み取りコードにプレフィックスを設定します。

1. スキャンされたバーコードデータに追加するASCII文字を決めます。この例では、ドル記号（「\$」）をプレフィックスとして追加します。
2. 38ページを参照し、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンします。
3. [グローバルプレフィックスの設定]バーコードをスキャンします。
4. このガイドの裏表紙の内側に記載されているASCII表を参照し、目的の文字に割り当てられている16進値を見つけます。「\$」文字に対応する16進数は24です。この選択コードを入力するには、付録D「テンキー」に記載されている[2]および[4]のバーコードをスキャンします。



最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

5. 想定された20文字よりも少ない文字列を選択した場合は、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンして文字列を終了します。

6. [プログラミングモードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンして、プログラミングモードを終了します。
7. 結果として、以下のようなメッセージ文字列が表示されます。

スキャンされたバーコードデータ : **12345**

結果として出力されるメッセージ文字列 : **\$12345**

グローバルAIM ID



この機能は、すべての種類の読み取りコードを対象にAIM IDの追加を有効または無効にします。

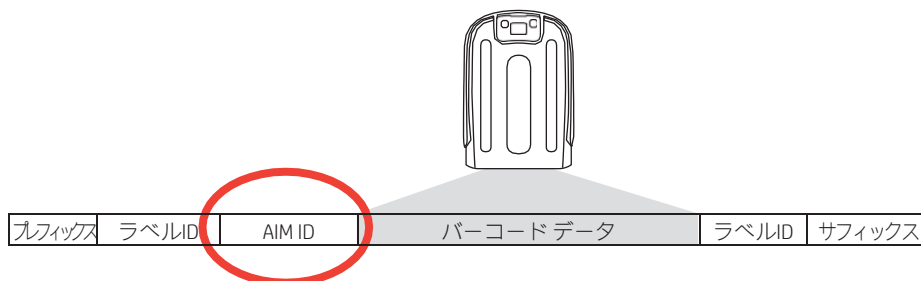
(ラベルIDのようにユーザー自身が選択するカスタム文字とは対照的に) AIMラベルIDをスキャンされたバーコードデータに付加できます。AIMラベルIDは、以下のように3つの文字で構成されます。

- 閉じ括弧文字 (ASCIIの「】」)。この後に以下の文字が続きます。
- コード文字 (以下の表を参照してください)。この後に以下の文字が続きます。
- 修飾文字 (修飾文字は読み取りコードによって決まります)。

読み取りコード	文字	読み取りコード	文字
UPC/EAN	E ^a	Code 128/GS1-128	C
Code 39および Code 32	A	DataBar Omnidirectional, DataBar Expanded	e
Codabar	F	Standard 2 of 5	S
Interleaved 2 of 5	I	ISBN	X ^b
Code 93	G	Code 11	H

- a. AIM IDの追加時に、UPC-AおよびUPC-EラベルはEAN 13に変換されます。
- b. ISBN (修飾文字0が付いたX)

図7.AIM ID



ラベルID

ラベルIDは、最大3つのASCII文字（各文字は0x01～0xFFの16進値のどれか）で構成されるカスタマイズ可能なコードであり、バーコード（読み取りコード）の種類を識別するために使用されます。このオプションを有効にする方法に応じて、送信されるバーコード データの前または後ろにラベルIDを連結できます。この機能には、カスタムのラベルIDをプリロードされたセットとして設定するオプション（以下の「ラベルID：プリロードされたセット」を参照してください）、および読み取りコードごとに個別に設定するオプション（211ページの「ラベルID：読み取りコードごとに個別設定」を参照してください）が用意されています。「すべての」種類の読み取りコードで常に業界標準のラベルIDが含まれるようにスキャナーをプログラミングする場合は、39ページの「グローバルAIMID」を参照してください。

ラベルID：プリロードされたセット

このスキャナーは、2つのプリロードされたラベルIDセットに対応しています。表32にUSAおよびEUのセットを示します。



注意

ラベルIDセットを別のものに変更すると、スキャナーの他のすべての設定（ホストのインターフェイスの種類を含む）が消去され、工場出荷時の標準設定にリセットされます。カスタム設定やカスタム初期設定はすべて失われます。

表32.プリロードされたラベルIDセット

読み取りコード	ラベルIDセット	
	ASCII文字	16進値
ABC Codabar	S	530000
Anker Plessey	o	6F0000
CODABAR	R	520000
CODE11	b	620000
CODE128	T	540000
CODE32	X	580000
CODE39	V	560000
CODE39 CIP	Y	590000
CODE93	U	550000
EAN13	B	420000
EAN13 P2	L	4C0000
EAN13 P5	M	4D0000
EAN13 P8	#	230000
EAN8	A	410000

読み取りコード	ラベルIDセット	
	ASCII 文字	16進値
EAN8 P2	J	4A0000
EAN8 P5	K	4B0000
EAN8 P8	*	2A0000
GS1 DATABAR EXPANDED	t	740000
GS1 DATABAR LIMITED	v	760000
GS1 DATABAR OMNIDIRECTIONAL	u	750000
GS1-128	k	6B0000
GTIN	\$A	244100
GTIN2	\$B	244200
GTIN5	\$C	244300
GTIN8	\$D	244400
IATA	&	260000
Industrial 2 of 5	W	570000
Interleaved 2 of 5	N	4E0000
Interleaved 2 of 5 CIP HR	e	650000
ISBN	@	400000
ISBT128	f	660000
ISSN	n	6E0000
MSI	Z	5A0000
Plessey	a	610000
S25	P	500000
UPCA	C	430000
UPCA P2	F	460000
UPCA P5	G	470000
UPCA P8	Q	510000

ラベルID：読み取りコードごとに個別設定

1つの読み取りコードのラベルIDを個別に設定するには、以下の操作を行います。

1. 40ページを参照し、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンします。
2. 40ページの「ラベルIDの制御」セクションに記載されている適切なバーコードをスキャンして、ラベルIDの位置を前（プレフィックスとして有効にする）または後ろ（サフィックスとして有効にする）のどちらかに選択します。複数のID機能が有効になっている場合は、図8を参照してラベルIDの適切な位置を確認してください。
3. 41ページの「ラベルIDの読み取りコードの選択 - 1D読み取りコード」セクションに記載されているバーコードをスキャンして、カスタムのラベルIDを設定する読み取りコードを選択します。
4. 選択した読み取りコード用のラベルIDを表す目的の文字（3文字まで選択可能）を決めます。
5. このガイドの裏表紙の内側にある「ASCII表」を参照し、選択したラベルIDに関連付けられている同等の16進数を見つけます。たとえば、ラベルIDとして等号（=）を選択する場合、ASCII表にはそれに関連付けられた16進文字が3Dとして示されています。243ページからの「テンキー」を参照し、決定した16進文字を表すバーコードをスキャンします。上記の例では、[3]および[D]の文字をスキャンすることになります。ラベルID設定のその他の例は、表33に記載されています。



最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力直すことができます。

6. [プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンして、ラベルIDの入力を終了します。
7. [プログラミングモードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンして、プログラミングモードを終了します。

以上で、特定の読み取りコード用のラベルIDを設定する手順は完了です。

図8.ラベルIDの位置のオプション

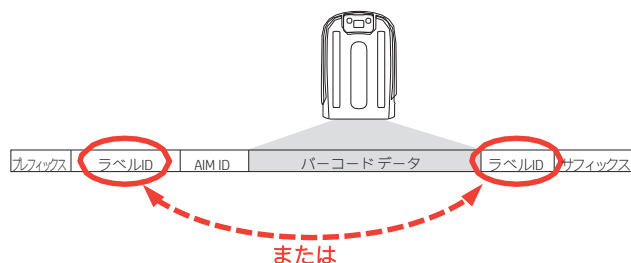


表33.ラベルIDの例

手順	アクション	例			
1.	[プログラミングモードの開始/終了] バーコードをスキャンします。	(スキャナーでプログラミングモードが開始)			
2.	40ページからの[ラベルIDの制御]を使用して、ラベルIDの文字をスキャンデータの「前」に配置するか、それとも「後」に配置するかを決定します。	プレフィックスとして有効	サフィックスとして有効	プレフィックスとして有効	サフィックスとして有効
3.	[ラベルIDの読み取りコードの選択 - 1D読み取りコード] (41ページから) を使用して、ラベルID文字を指定する読み取りコードの種類を選択するバーコードをスキャンします。	DataBar Omnidirectional	Code 39	Interleaved 2 of 5	Code 32
4.	カスタムのラベルIDの例 (目的の文字):	DB*	=C3	+	PH
5.	ASCII表(裏表紙の内側)から同等の16進値を見つけ、243ページからの「テンキー」のセクションに含まれるバーコードを使用して、それらの桁または文字をスキャンします。最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。	44 42 2A	3D 43 33	2B	50 48
6.	[プログラミングモードの開始/終了] バーコードをスキャンします	(スキャナーでのラベルIDの入力が終了)			
7.	[プログラミングモードの開始/終了] バーコードをもう一度スキャンします	(スキャナーでプログラミングモードが終了)			
	結果:	DB*[バーコードデータ]	[バーコードデータ]=C3	+ [バーコードデータ]	[バーコードデータ]PH

文字変換

文字変換は、8バイトの設定項目です。この8バイトは、16進のASCII値で表現された4つの文字ペアです。ペアの最初の文字は変換前の文字です。ペアの2つ目の文字は変換後の文字です。ペア内の変換する文字が「FF」である場合、変換は行われません。

たとえば、文字変換の設定項目を41423132FFFFFFに設定してある場合は、以下のようになります。

最初のペアは4142、つまりAB（16進数の41はASCIIの大文字A、16進数の42はASCIIの大文字B）であり、2つ目のペアは3132、つまり12（16進数の31はASCIIの1、16進数の32はASCIIの2）です。その他の2つのペアは、FFFFおよびFFFFです。

AB12BA21というラベルでは、文字変換後のラベルはBB22BB22となります。

文字Aは文字Bに変換され、文字1は文字2に変換されました。最後の2つの文字ペアはすべてFFなので、何も行われません。

文字変換を設定するには、以下の操作を行います。

1. [45ページ](#)を参照し、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンします。
2. [文字変換の設定]バーコードをスキャンします。
3. 目的の文字列を決めます。上記の例と同様に、16カ所の文字を決める必要があります。次に、このガイドの裏表紙の内側にあるASCII表を参照して、文字列を満たすために必要な同等の16進数を見つけます。
4. [付録D「テンキー」](#)を参照して、前の手順で決めた16進文字を表すバーコードをスキャンします。
5. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミングモードを終了します。



想定された16文字よりも少ない文字列を選択した場合は、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードを2回スキャンすることで、選択内容が受け入れられ、プログラミングモードが終了します。

読み取り時のパラメーター

読み取り成功LEDの持続時間

この機能は、読み取りの成功後に読み取り成功を示すLEDがオンのままになる時間を指定します。読み取り成功LEDの持続時間は、10～2,550ミリ秒（0.001～2.55秒）の範囲（100ミリ秒単位）で設定できます。

この機能を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の設定（ミリ秒）を決めます。0を設定すると、次回トリガーが引かれるまで読み取り成功LEDがオンのままになります。
2. 目的の設定を10で割ります（設定は100ミリ秒単位です）。結果の前を0で埋めて3桁の数値にします。例：0 = 000、5 = 000、20 = 020など
3. 55ページを参照し、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンしてプログラミングモードを開始します。
4. [読み取り成功LEDの持続時間の設定の選択]バーコードをスキャンします。
5. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順で決めた持続時間を表す適切な3つの数字をスキャンします。最後の文字を入力すると、ピープ音が2回鳴って通知されます。



最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力直すことができます。

6. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミングモードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、表34を参照してください。

表34.読み取り成功LEDの持続時間の設定の例

手順	アクション	例			
1	目的の設定	次のトリガーが引かれるまで読み取り成功LEDはオンのまま（00）	20ミリ秒	150ミリ秒	2550ミリ秒（2.55秒）
2	10で除算（および前を0で埋める）	000	002	015	255
3	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
4	[ラベル終了のタイムアウト設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から3つの文字をスキャン	[0]、[0]、および[0]	[0]、[0]、および[2]	[0]、[1]、および[5]	[2]、[5]、および[5]
6	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				

スキャン機能

スキャンモード

このモードは、一般的なハンドヘルド スキャナーの動作です。スキャナーのスキャン動作モードを選択します。すべてのモデルで有効な選択肢を以下に示します。

トリガー シングル：トリガーが引かれると、以下のどれかが発生するまでスキャンが有効になります。

- スキャン有効時間が経過した
- ラベルが読み取られた
- トリガーが解放された

トリガー ホールド マルチ：トリガーが引かれるとスキャンが開始され、トリガーが解放されるか、またはスキャン有効時間が経過するまで継続されます。ラベルの読み取りが行われても、スキャンは無効になりません。二重読み取りのタイムアウトを設定すると、このモードで意図しない同じラベルの二重読み取りを防止できます。

トリガー パルス マルチ：トリガーが引かれると、連続スキャンが有効になり、スキャン有効時間が経過するか、またはトリガーが解放された後で再び引かれるまで、継続されます。二重読み取りのタイムアウトを設定すると、このモードで意図しない同じラベルの二重読み取りを防止できます。

フラッシング：トリガーの状態とは無関係にスキャナーが点滅¹します。点滅速度は、フラッシュ オン時間およびフラッシュ オフ時間によって制御されます。フラッシュがオンのときは、スキャナーで継続的に読み取りが行われます。フラッシュがオフのときは、スキャンが無効になります。

常時オン：トリガーが引かれなくてもバーコードが読み取られます。スキャンが常に有効になります。トリガーが引かれると、スキャナーはトリガー シングル モードと同じように動作します。二重読み取りのタイムアウトを設定すると、このモードで意図しない同じラベルの二重読み取りを防止できます。

スタンドモード：トリガーが引かれなくてもバーコードが読み取られます。対象物がスキャナーの照射領域に入ると、自動的にスキャンが有効になります。トリガーが引かれると、スキャナーはシングル読み取りモードと同じように動作します。二重読み取りのタイムアウトを設定すると、このモードで意図しない同じラベルの二重読み取りを防止できます。

1. フラッシュ オン時間によって制御されます。

スキャン有効時間

この設定は、スキャナーでスキャンが有効な状態になった後、その状態のままの時間を指定します。この設定の範囲は、1～255秒（1秒単位）です。

この機能を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の設定を決めます。
2. 結果の前を0で埋めて3桁の数値にします。例：0 = 000、5 = 005、20 = 020など
3. 60ページを参照し、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンしてプログラミングモードを開始します。
4. [スキャン有効時間の設定の選択]バーコードをスキャンします。
5. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順で決めた持続時間を表す適切な3つの数字をスキャンします。最後の文字を入力すると、ビープ音が2回鳴って通知されます。



最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力直すことができます。

6. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミングモードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、表35を参照してください。

表35.スキャン有効時間の設定の例

手順	アクション	例			
1	目的の設定	1秒	90秒（1.5分）	180秒（3分）	255秒（4.25分）
2	前を0（ゼロ）で埋める	001	090	180	255
3	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
4	[スキャン有効時間の設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から3つの文字をスキャン	[0]、[0]、 および[1]	[0]、[9]、 および[0]	[1]、[8]、 および[0]	[2]、[5]、および[5]
6	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				

フラッシュ オン時間

この機能は、フラッシュモードのときにインジケータLEDがオンになっている時間を指定します。選択可能な範囲は、100～9,900ミリ秒（0.1～9.9秒）（100ミリ秒単位）です。

この機能を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の設定（ミリ秒）を決めます。
2. 目的の設定を100で割ります（設定は100ミリ秒単位です）。結果の前を0で埋めて2桁の数値にします。例：0 = 00、5 = 05、20 = 20など
3. 61ページを参照し、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンしてプログラミングモードを開始します。
4. [フラッシュ オン時間の設定の選択]バーコードをスキャンします。
5. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順で決めた持続時間を表す適切な2つの数字をスキャンします。最後の文字を入力すると、ビープ音が2回鳴って通知されます。



最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力直すことができます。

6. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミングモードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、表36を参照してください。

表36.フラッシュ オン時間の設定の例

手順	アクション	例			
		500ミリ秒	1,000ミリ秒 (1秒)	5,200ミリ秒 (5.2秒)	9,900ミリ秒 (9.9秒)
1	目的の設定	500ミリ秒	1,000ミリ秒 (1秒)	5,200ミリ秒 (5.2秒)	9,900ミリ秒 (9.9秒)
2	100で除算（および前を0で埋めて2桁の数値にする）	05	10	52	99
3	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				
4	[フラッシュ オフ時間の設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から3つの文字をスキャン	[0]および[5]	[1]および[0]	[5]および[2]	[9]および[9]
6	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				

フラッシュ オフ時間

この機能は、フラッシュモードのときにインジケータLEDがオフになっている時間を指定します。選択可能な範囲は、100～9,900ミリ秒（0.1～9.9秒）（100ミリ秒単位）です。

この機能を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の設定（ミリ秒）を決めます。
2. 目的の設定を100で割ります（設定は100ミリ秒単位です）。結果の前を0で埋めて2桁の数値にします。例：0 = 00、5 = 05、20 = 20など
3. 62ページを参照し、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンしてプログラミングモードを開始します。
4. [フラッシュ オン時間の設定の選択]バーコードをスキャンします。
5. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順で決めた持続時間を表す適切な2つの数字をスキャンします。最後の文字を入力すると、ビープ音が2回鳴って通知されます。



最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力直すことができます。

6. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミングモードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、表37を参照してください。

表37.フラッシュ オフ時間の設定の例

手順	アクション	例			
1	目的の設定	500ミリ秒	1,000ミリ秒 (1秒)	5,200ミリ秒 (5.2秒)	9,900ミリ秒 (9.9秒)
2	100で除算（および前を0で埋めて2桁の数値にする）	05	10	52	99
3	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				
4	[フラッシュ オフ時間の設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から3つの文字をスキャン	[0]および[5]	[1]および[0]	[5]および[2]	[9]および[9]
6	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				

読み取りコードによる複数ラベルの順序付け

この機能は、[フレームごとの複数ラベル]が有効になっている場合に、読み取りコードの種類による送信の順序付けを指定します。最大6つの読み取りコードを選択できます。6つの読み取りコードのすべてを使用しない場合は、ゼロを追加して文字列を12文字にする必要があります。

ラベルの順序はまず、出力マスクの指定に従って決定されます。ボリューム（読取範囲）内に存在するが未指定のラベルは、未指定の読み取りコードとして、読み取り時のシーケンスで許可される任意の順序で送信されます。スキャナーは、ボリューム（読取範囲）内でデコードされたラベルごとに、標準のビーブ音およびLEDによる通知を行います。

読み取りコードの順序を指定するには、以下の操作を行います。

1. 指定する読み取りコードおよび順序を決めます。
2. [220ページの表39](#)に基づいて、最大6つの読み取りコードに対応する16進値を見つけます。
3. [65ページ](#)を参照し、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンしてプログラミングモードを開始します。
4. [複数ラベルの順序付けに使用する読み取りコードを選択]バーコードをスキャンします。
5. [付録D「テンキー」](#)に記載されているテンキーから、上記の手順2で決めた目的の文字または値を表す適切な2つの英数字をスキャンします。
6. 必要に応じてゼロをスキャンし、12文字の文字列にします。
7. 処理が完了したら、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンしてプログラミングモードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、[表38](#)を参照してください。

表38.読み取りコードによる複数ラベルの順序付けの例

手順	アクション	例			
1	目的の読み取りコード	Code 39	DataMatrix	Code 128	Aztec
2	表39 に基づく同等の16進値	24	0E	0C	4E
3	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				
4	[複数ラベルの順序付けに使用する読み取りコードを選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」 から 2つの文字をスキャン	[2]および[4]	[0]および[E]	[0]および[C]	[4]および[E]
	結果	0x240E0C4E0000			
6	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				

[表39](#)に、各読み取りコードに関連付けられた16進値を示します。

表39.読み取りコードの16進値

16 進値	読み取りコードID	16 進値	読み取りコードID
0	無視	2C	GTIN5
1	UPCA	2D	GTIN8
2	UPCE	2E	S20F5
3	EAN8	2F	PDF417
4	EAN13	30	CODE11
5	UPC2	31	IATA
6	UPC5	32	MICRO_PDF
7	C128_ADDON	33	RSS_LIM_ID
A	EAN128	34	RSS_LIM_COMP
B	C128_PROGRAMMING_LABEL	35	RSS 14 COMP
C	CODE128	36	RSS_EXP_COMP
D	FNC3_C128_LABEL	37	GENERIC_DATA
E	DATAMATRIX	38	CC_A
F	MAXICODE	39	CC_B
10	QRCODE	3A	CC_C
11	CODABLOCK_A	3B	LABELIMAGE
12	CODABLOCK_F	3C	CAPTURE_IMAGE_LABEL
13	CODE49	3D	CODE16K
14	UPCE2	3E	M20F5
15	UPCE5	3F	D20F5
16	UPCE8	40	PLESSEY65
17	UPCA2	42	ISSN
18	UPCA5	43	ISBT
19	UPCA8	44	BC412
1A	EAN82	45	TIMER_EXPIRED_EVENT
1B	EAN85	46	FOLLETT_20F5
1C	EAN88	47	CODE4
1D	EAN132	48	CODE5
1E	EAN135	49	CODE39_CIP
1F	EAN138	4A	ABC_CODABAR
20	ISBN_ID	4B	I20F5_CIP
21	TWO_LABEL_PAIR	4C	C20F5
22	I20F5	4D	IND20F5
23	CODABAR	4E	AZTEC
24	CODE39	4F	UPCE_COMP

16 進値	読み取りコードID	16 進値	読み取りコードID
25	PHARMAC39	50	UPCA_COMP
26	MSI_PLESSEY	51	EAN8_COMP
27	CODE93	52	EAN13_COMP
28	RSS_EXP_ID	53	EAN128_COMP
29	RSS_14_ID	54	DATAMATRIX_PROGRAMMING_LA BEL
2A	GTIN	55	LABEL_ID_MAX
2B	GTIN2	FF	INVALID_LABEL_TYPE

メモ

付録A

技術仕様

表40に、物理およびパフォーマンス特性、ユーザー環境、および規制に関する情報を示します。表41に、ケーブルの標準のピン配列を示します。

表40.技術仕様：ケーブルの標準のピン配列

項目	説明	
物理特性		
カラー	黒色	
寸法	高さ181 mm 長さ100 mm 幅71 mm	
質量（ケーブルを除く）	約195.6 g	
電気特性		
電圧および電流	動作時（通常）：5 V DCで160 mA 動作時（最大）：5 V DCで350 mA アイドル/スタンバイ時：5 V DCで65 mA 入力電圧：4.75 ~ 5.25 V DC	
パフォーマンス特性		
光源	デュアルLED	
ロール角度	最大 ± 180°	
ピッチ角度	± 40°	
スキュー角度	± 40°	
照射領域	25.4 cm幅（スキャナーから31.8 cmの位置）	
被写界深度（通常）^a		
読み取りコード	1Dラベルの被写界深度	
Code 39 5 mil :	通常：3.8 ~ 19 cm	保証：5.0 ~ 16 cm
Code 39 10 mil :	通常：0.5 ~ 30 cm	保証：1.0 ~ 25 cm

項目	説明	
Code 39 20 mil :	通常 : ~ 50 cm	保証 : ~ 40 cm
UPCA 13 mil	通常 : 1.0 ~ 40 cm 暗い環境光 (約0ルクス) の下でのFF制限は、13mil EAN13グレードAのラベルの場合で少なくとも25 cmになります	保証 : 2.0 ~ 33 cm
UPCA 7.5 mil	通常 : 2.0 ~ 27 cm	保証 : 4.0 ~ 21 cm
	2Dラベルの被写界深度	
PDF-417 6.6 mil :	通常 : 2.5 ~ 14.0 cm	保証 : 4.0 ~ 12.5 cm
PDF-417 10 mil :	通常 : 0.5 ~ 22 cm	保証 : 1.0 ~ 21 cm
PDF-417 15 mil :	通常 : 1.5 ~ 34 cm	保証 : 2.0 ~ 30 cm
Datamatrix 10 mil :	通常 : 1.5 ~ 16.0 cm	保証 : 1.5 ~ 15.0 cm
Datamatrix 15 mil :	通常 : 0 ~ 15 cm	保証 : 0 ~ 23.5 cm
QR Code 10 mil :	通常 : 3.5 ~ 13.0 cm	保証 : 4.0 ~ 12.5 cm
QR Code 15 mil :	通常 : 0 ~ 19.5 cm	保証 : 0 ~ 18.5 cm
最小DataMatrix	7 mil	5 mil
エレメントの最少幅	4 mil (1D線形) 5 mil (PDF-417) 6 mil (DataMatrix)	
最小印刷コントラスト	最小25%の反射率	
デコード可能コード	1Dバーコード UPC/EAN/JAN (A、E、13、8)、UPC/EAN/JAN (P2/P5を含む)、UPC/EAN/JAN (ISBN/BooklandおよびISSNを含む)、UPC/EANクーポン、Code 39 (Full ASCIIを含む)、Code 39 Trioptic、Code39 CIP (フランスの医薬品)、LOGMARS (標準チェック デジタルが有効になったCode 39)、Danish PPT、Code 32 (Italian Pharmacode 39)、Code 128、Code 128 ISBT、Interleaved 2 of 5、Standard 2of 5、Interleaved 2 of 5 CIP (HR)、Industrial 2 of 5、Discrete 2 of 5、Datalogic 2 of 5 (China Post Code/Chinese 2 of 5)、IATA 2of5航空貨物コード、Code 11、Codabar、Codabar (NW7)、ABC Codabar、Code 93、MSI、PZN、Plessey、Anker Plessey、GS1 DataBar Omnidirectional、GS1 DataBar Limited、GS1 DataBar Expanded、GS1 DataBar Truncated、DATABAR Expanded Coupon	
	2D/スタック型コード HPイメージングバーコードスキャナーでは、複数のフレームを使用して以下の読み取りコードのデコード (複数フレームのデコード) が可能です。 PDF-417、QR Code、Aztec、Datamatrix、Inverse Datamatrix、Datamatrixは次のパラメーターで設定できます : 標準または反転、正方形スタイルまたは長方形スタイル、データ長 (1~3600文字)、Maxicode、各種QRコード (QR、Micro QR、およびMultiple QRコード)、Aztec、各種郵便コード、オーストラリア郵便、日本郵便、KIX郵便、Planetコード、Postnet、Royal Mail Code (RM45CC)、Intelligent Mail Barcode (IMB)、スウェーデン郵便、ポルトガル郵便、LaPoste A/R 39、4-State Canada、PDF-417、MacroPDF、Micro PDF417、GS1 Composites (1~12)、Codablock F、French CIP13 ^a 、GS1DataBar Stacked、GS1 DataBar Stacked Omnidirectional、GS1 DataBar Expanded Stacked、GS1 Databar Composites、Chinese Sensible Code、反転された2Dコード ^b 。 ^a ULEを使用して処理することが可能です ^b ソフトウェアでは、通常または反転されたデコード制御を以下の読み取りコードに適用可能 : Datamatrix、QR、Micro QR、Aztec、およびChinese Sensible Code	

項目	説明
サポートされているインターフェイス ^b	USB Com Std、USBキーボード、USBキーボード (ALTモード)
ユーザー環境	
動作時温度	0° ~ 55° C
非動作時温度	-20° ~ 70° C
湿度	動作時 : 5 ~ 90%の相対湿度 (結露なし)
耐落下仕様	1.8メートルの高さからコンクリート面へ18回落下後、動作可能
外光耐性	最大100,000ルクス
汚染物/雨、ほこり/微粒子への耐性	IEC 529-IP52
ESDレベル	16 KV
規定	
EMI/RFI	保留中
レーザー安全基準	IEC Class 2

- a. EANに基づく13 milの被写界深度。他の1DコードはすべてCode 39の値です。すべてのラベルはグレードA、一般的な環境光下、20° C、ラベルの傾斜角度10° での値です。
- b. 利用可能なインターフェイス セットの一覧については、[13ページ](#)の「インターフェイスの選択」を参照してください。

図9および表41には、インターフェースケーブルに用いられる標準のピン配列の情報が記載されています。

図9.ケーブルの標準のピン配列

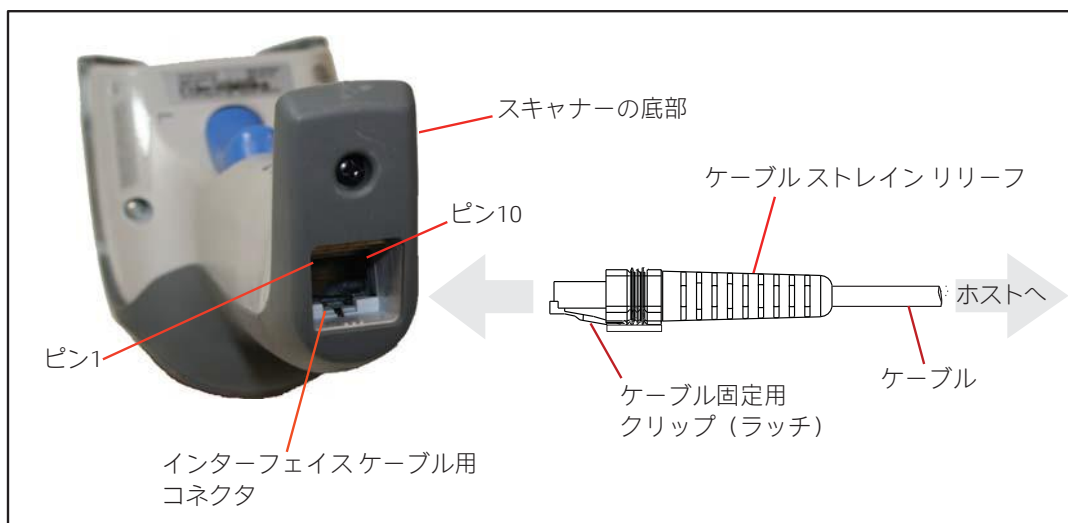


表41に記載されている信号の説明は、スキャナーのコネクタに適用されるもので、あくまでも参考用です。

表41.ケーブルの標準のピン配列 — スキャナー

ピン	USB
1	
2	D+
3	D-
4	GND
5	
6	
7	VCC

LEDおよびビーブ音による通知

スキャナーのビーブ音およびLEDでは、スキャナーのさまざまな機能やエラーが表されます。また、オプションの緑色スポットも有効な機能です。下の表に、これらのインジケータの一覧を示します。ただし、スキャナーの機能はプログラム可能であり、インジケータのオン/オフを切り替えられることがあるため、表に示された動作に当てはまらない場合もあります。たとえば、電源投入ビーブ音のような特定のインジケータは、プログラミングバーコードラベルを使用しても無効にできません。

表42.LEDおよびビーブ音による通知

インジケータによる通知	説明	LED	ビーブ音
電源投入ビーブ音	スキャナーは電源投入処理中です		スキャナーの電源投入時に最高の周波数と音量でビーブ音が4回鳴ります
読み取り成功ビーブ音	ラベルがスキャナーに正しくスキャンされました	このインジケータのLEDの動作は、機能[読み取り成功：通知のタイミング]によって設定できます	スキャナーでラベルのスキャンに成功すると、現在の周波数、音量、単音調または複音調設定、および持続時間で、ビーブ音が1回鳴ります
ROMの障害	スキャナーのソフトウェアまたはプログラミングにエラーがあります	点滅	最大の音量でエラーのビーブ音が1回鳴ります
制限されたスキャンのラベル読み取り	IBMまたはUSBインターフェイスが有効になっているときに、ホストへの接続が確立されていないことを知らせます	N/A	最高の周波数および現在の音量で6回高く鳴ります。
スキャナーがアクティブモード	スキャナーがアクティブになっていてスキャン可能な状態にあります	LEDが徐々に点灯します ^a	N/A
スキャナーが無効	スキャナーがホストによって無効に設定されています	LEDが継続的に点滅します	N/A
緑色スポット ^a が一瞬点滅	ラベルの読み取りが成功すると、ソフトウェアによって設定値で指定された時間だけ緑色スポットがオンになります	N/A	N/A
イメージキャプチャ	イメージをキャプチャする準備ができています	更新時に青色のランプが2回点滅します	N/A

a. スリープモードになっている場合、または読み取り成功LEDの持続時間が00以外になっている場合を除きます。

表43.プログラミングモードのインジケータ

プログラミングモード：以下のインジケータは、スキャナーがプログラミングモードになっている場合にのみ機能します。

ラベルプログラミングモードでの入力	有効なプログラミングラベルがスキャンされました	LEDが継続的に点滅します	低い周波数でピーブ音が4回鳴ります
ラベルプログラミングモードでのラベルの拒否	ラベルが拒否されました	N/A	最低の周波数および現在の音量で3回鳴ります
ラベルプログラミングモードでの部分的なラベルの受け入れ	1つの機能を設定するために複数のラベルをスキャンする必要がある場合に、各ラベルのスキャンが成功するごとにインジケータで通知されます	N/A	最高の周波数と現在の音量で短いピーブ音が1回鳴ります
ラベルプログラミングモードでのプログラミングの受け入れ	設定オプションがラベルを介して正しくプログラムされ、スキャナーでプログラミングモードが終了しました	N/A	高い周波数のピーブ音が1回、低い周波数のピーブ音が4回鳴ってから、リセットのピーブ音が鳴ります
ラベルプログラミングモードでのキャンセル項目の入力	キャンセルラベルがスキャンされました	N/A	低い周波数および現在の音量で2回鳴ります

エラーコード

スキャナーの起動時に長い音が鳴る場合は、スキャナーの自動セルフテストが正常に完了しなかったためにFRU (Field Replaceable Unit) 分離モードが開始されたことを示します。スキャナーがリセットされると、一連の処理が繰り返されます。以下の表に、検出されたエラーに関連するLEDの点滅およびピーブ音のコードを示します。

LEDの点滅/ ピーブ音の回数	エラー	修正方法
1	設定	ヘルプデスクに お問い合わせください
2	インターフェイスPCB	
6	デジタルPCB	
11	イメージャー	

付録B

標準の初期設定

以下の表の「初期設定」欄には、最も一般的な設定の一覧が記載されています。パラメーターごとに機能説明およびプログラミング バーコードの参照ページへのリンクも用意されています。さらに、これらの設定可能な機能に対して、ユーザーのお好みの初期設定を記録するための欄が用意されています。

表44.標準の初期設定

パラメーター	初期設定	ユーザーの設定	ページ番号
グローバルインターフェイス機能			
ホスト コマンド : 従う/無視	従う		19
USBサスペンドモード	無効化		19
USB-COM			
文字間遅延	遅延なし		22
ASCII BELでのビープ音	無効化		22
Not on Fileでのビープ音	有効化		23
ACK文字	「ACK」		24
NAK文字	「NAK」		24
ACK/NAKのタイムアウト値	600ミリ秒		25
ACK/NAKの再試行回数	3回の再試行		25
ACK/NAKのエラー処理	検出されたエラーを無視		26
送信エラーの通知	有効化		26
無効化文字	「D」		27
有効化文字	「E」		27

パラメーター	初期設定	ユーザーの設定	ページ番号
キーボードの設定			
国モード	USキーボード		30
制御文字の送信	無効化		32
コード間遅延	100ミリ秒		33
USBキーボードの速度	1ミリ秒		34
データフォーマット			
グローバルプレフィックス/サフィックス	グローバル プレフィックスなし グローバルサフィックス =0x0D (CR)		38
グローバルAIM ID	無効化		39
ラベルIDの制御	無効化		40
個別設定ラベルID	無効化		44
文字変換	文字変換なし		45
読み取り時のパラメーター			
二重読み取りのタイムアウト	0.4秒		47
スリープモードのタイムアウト	無効化		50
電源投入時の警告	ビーブ音4回		51
読み取り成功：通知のタイミング	デコード後		51
読み取り成功ビーブ音の種類	単音調		52
読み取り成功ビーブ音の周波数	中		52
読み取り成功ビーブ音の長さ	80ミリ秒		53
読み取り成功ビーブ音の音量	高		54
読み取り成功LEDの持続時間	1.4		55
スキャンモード	トリガー シングル		56
スタンドモードでのトリガーのタイムアウト	0.5秒		57
スタンドの動作	スタンドモードに 切り替え		59
スタンドモードでの感度	中		60
スキャン有効時間	5秒		60
フラッシュオン時間	1秒		61
フラッシュオフ時間	600ミリ秒		62

パラメーター	初期設定	ユーザーの設定	ページ番号
緑色スポットの持続時間	300ミリ秒		62
携帯電話モード	有効化		63
ピックモード	無効化		63
ボリューム（読取範囲）内の複数ラベルの読み取り	無効化		64
フレーム（時間枠）ごとの複数ラベル	無効化		65
読み取りコードによる複数ラベルの順序付け	順序なし		65
コード長による複数ラベルの順序付け	無効化		66
コードの選択：1Dバーコード			
クーポンの制御	UPCAクーポンの デコードを有効にする		69
UPC-A			
UPC-Aの有効化/無効化	有効化		70
UPC-Aのチェックキャラクタの送信	有効化		70
UPC-AをEAN-13に拡張	拡張しない		71
UPC-Aのナンバーシステムキャラクタの送信	送信する		71
UPC-E			
UPC-Eの有効化/無効化	有効化		72
UPC-Eのチェックキャラクタの送信	送信する		73
UPC-EをEAN-13に拡張	拡張しない		74
UPC-EをUPC-Aに拡張	拡張しない		74
UPC-Eのナンバーシステムキャラクタの送信	送信する		75
GTIN			
GTINへのフォーマット変換	無効化		75
EAN 13 (JAN 13)			
EAN 13の有効化/無効化	有効化		76
EAN 13のチェックキャラクタの送信	送信する		76
EAN-13のフラグ1文字	送信する		77
EAN-13からISBNへの変換	無効化		77
ISSN			
ISSNの有効化/無効化	無効化		78
EAN 8			

パラメーター	初期設定	ユーザーの設定	ページ番号
EAN 8の有効化/無効化	有効化		79
EAN 8のチェックキャラクタの送信	送信する		79
EAN 8をEAN 13に拡張	無効化		80
UPC/EANのグローバル設定			
UPC/EANの価格とウェイトのチェック	無効化		81
アドオン			
オプションのアドオン	P2、P5、およびP8を無効にする		82
オプションのアドオンのタイマー	70ミリ秒		83
オプションのGS1-128アドオンのタイマー	無効化		86
Code 39			
Code 39の有効化/無効化	有効化		91
Code 39のチェックキャラクタの計算	計算する		91
Code 39のチェックキャラクタの送信	送信する		92
Code 39のスタート/ストップキャラクタの送信	送信しない		93
Code 39 Full ASCII	無効化		93
Code 39の長さ制御	可変		94
Code 39の長さ1の設定	2		95
Code 39の長さ2の設定	50		96
Code 39のディジット間の比率	4		97
Code 32 (イタリアの医薬品コード)			
Code 32の有効化/無効化	無効化		99
Code 32の機能設定の例外	N/A		100
Code 32のチェックキャラクタの送信	送信しない		100
Code 32のスタート/ストップキャラクタの送信	送信しない		100
Code39 CIP (フランスの医薬品コード)			
Code 39 CIPの有効化/無効化	無効化		99
Code 128			
Code 128の有効化/無効化	有効化		103
Code 128をCode 39に拡張	拡張しない		103
Code 128のチェックキャラクタの送信	送信する		104

パラメーター	初期設定	ユーザーの設定	ページ番号
Code 128のファンクション文字の送信	送信しない		104
Code 128のサブコード交換の送信	無効化		105
Code 128の長さ制御	可変		106
Code 128の長さ1の設定	1		107
Code 128の長さ2の設定	80		108
GS1-128			
GS1-128の有効化	Code 128データ フォーマットで送信		109
ISBT 128			
ISBT 128の連結	無効化		110
ISBT 128の強制連結	無効化		110
ISBT 128の連結モード	静的		111
ISBT 128の動的連結のタイムアウト	200ミリ秒		112
ISBT 128の高度な連結オプション	無効化		112
Interleaved 2 of 5			
12 of 5の有効化/無効化	有効化		113
12 of 5のチェックキャラクタの計算	無効化		114
12 of 5のチェックキャラクタの送信	送信する		115
12 of 5の長さ制御	可変		115
12 of 5の長さ1の設定	12		116
12 of 5の長さ2の設定	100		117
Interleaved 2 of 5 CIP HR			
Interleaved 2 of 5 CIP HRの有効化/無効化	無効化		118
Standard 2 of 5			
Standard 2 of 5の有効化/無効化	無効化		119
Standard 2 of 5のチェックキャラクタの計算	無効化		119
Standard 2 of 5のチェックキャラクタの送信	送信する		120
Standard 2 of 5の長さ制御	可変		120
Standard 2 of 5の長さ1の設定	8		121
Standard 2 of 5の長さ2の設定	50		122
Industrial 2 of 5			

パラメーター	初期設定	ユーザーの設定	ページ番号
Industrial 2 of 5の有効化/無効化	無効化		123
Industrial 2 of 5のチェックキャラクタの計算	無効化		123
Industrial 2 of 5のチェックキャラクタの送信	有効化		124
Industrial 2 of 5の長さ制御	可変		124
Industrial 2 of 5の長さ1の設定	1		125
Industrial 2 of 5の長さ2の設定	50		126
Code IATA			
IATAの有効化/無効化	無効化		127
IATAのチェックキャラクタの送信	有効化		127
Codabar			
Codabarの有効化/無効化	無効化		128
Codabarのチェックキャラクタの計算	計算しない		128
Codabarのチェックキャラクタの送信	送信する		129
Codabarのスタート/ストップキャラクタの送信	送信する		129
Codabarのスタート/ストップキャラクタセット	abcd/abcd		130
Codabarのスタート/ストップキャラクタの一致	一致の必要なし		130
Codabarの長さ制御	可変		131
Codabarの長さ1の設定	3		132
Codabarの長さ2の設定	50		133
Codabarのディジット間の比率	4		134
ABC Codabar			
ABC Codabarの有効化/無効化	無効化		136
ABC Codabarの連結モード	静的		136
ABC Codabarの動的連結のタイムアウト	200ミリ秒		137
ABC Codabarの強制連結	無効化		138
Code 11			
Code 11の有効化/無効化	無効化		139
Code 11のチェックキャラクタの計算	CおよびKをチェック		139
Code 11のチェックキャラクタの送信	送信する		140
Code 11の長さ制御	可変		141

パラメーター	初期設定	ユーザーの設定	ページ番号
Code 11の長さ1の設定	4		142
Code 11の長さ2の設定	50		143
Code 11のディジット間の比率	4		144
GS1 DataBar™ Omnidirectional			
GS1 DataBar™ Omnidirectionalの有効化/無効化	無効化		146
GS1 DataBar™ OmnidirectionalのGS1-128エミュレーション	無効化		146
GS1 DataBar™ Expanded			
GS1 DataBar™ Expandedの有効化/無効化	無効化		147
GS1 DataBar™ ExpandedのGS1-128エミュレーション	無効化		148
GS1 DataBar™ Expandedの長さ制御	可変		149
GS1 DataBar™ Expandedの長さ1の設定	1		150
GS1 DataBar™ Expandedの長さ2の設定	74		151
GS1 DataBar™ Limited			
GS1 DataBar™ Limitedの有効化/無効化	無効化		152
GS1 DataBar™ LimitedのGS1-128エミュレーション	無効化		152
Code 93			
Code 93の有効化/無効化	有効化		153
Code 93のチェックキャラクタの計算	CおよびKのチェックを有効にする		154
Code 93のチェックキャラクタの送信	有効化		154
Code 93の長さ制御	可変		155
Code 93の長さ1の設定	1		156
Code 93の長さ2の設定	50		157
MSI			
MSIの有効化/無効化	無効化		158
MSIのチェックキャラクタの計算	Enable Mod10		158
MSIのチェックキャラクタの送信	有効化		159
MSIの長さ制御	可変		160
MSIの長さ1の設定	1		160
MSIの長さ2の設定	50		161

パラメーター	初期設定	ユーザーの設定	ページ番号
Plessey			
Plesseyの有効化/無効化	無効化		162
Plesseyのチェックキャラクタの計算	Plessey標準チェックキャラクタの検証を有効にする		163
Plesseyのチェックキャラクタの送信	有効化		163
Plesseyの長さ制御	可変		164
Plesseyの長さ1の設定	1		165
Plesseyの長さ2の設定	50		166
郵便コードの選択	すべての郵便コードの無効化		167
PostnetのBB制御	無効化		168
2D Bar Codes			
2Dの最大デコード時間	350 msec		170
2Dの通常/反転読み取りコード制御	標準		171
2Dマルチフレーム タイムアウト	無効化		171
Aztec Code			
Aztec Codeの有効化/無効化	無効化		173
Aztec Codeの長さ制御	可変		173
Aztec Codeの長さ1の設定	1		173
Aztec Codeの長さ2の設定	65,535		174
China Sensible Code			
China Sensible Codeの有効化/無効化	無効化		175
China Sensible Codeの長さ制御	可変		175
China Sensible Codeの長さ1の設定	1		176
China Sensible Codeの長さ2の設定	65,535		177
DataMatrix			
Data Matrixの有効化/無効化	有効化		178
Data Matrixのスマールコード	有効化		178
Data Matrixの正方形/長方形スタイル	正方形スタイルと長方形スタイルの両方		179
Data Matrixの長さ制御	可変		180
Data Matrixの長さ1の設定	1		180

パラメーター	初期設定	ユーザーの設定	ページ番号
Data Matrixの長さ2の設定	65,535		181
Maxicode			
Maxicodeの有効化/無効化	無効化		182
Maxicodeのプライマリ メッセージの送信	無効化		182
Maxicodeの長さ制御	可変		183
Maxicodeの長さ1の設定	1		183
Maxicodeの長さ2の設定	65,535		184
PDF417			
PDF417の有効化/無効化	有効化		184
Macro PDF417	無効化		185
PDF417の長さ制御	可変		186
PDF417の長さ1の設定	1		186
PDF417の長さ2の設定	1,000		187
Micro PDF417			
Micro PDF417の有効化/無効化	無効化		187
Micro PDF417のCode 128/GS-1-128エミュレーション	Micro PDFのAIM IDおよびラベルの種類		188
Micro PDF417の長さ制御	可変		188
Micro PDF417の長さ1の設定	1		189
Micro PDF417の長さ2の設定	366		189
QR Code			
QR Codeの有効化/無効化	有効化		191
QR Codeの長さ制御	可変		192
QR Codeの長さ1の設定	1		192
QR Codeの長さ2の設定	65,535		193
Micro QR			
Micro QRの有効化/無効化	無効化		193
UCC Composite			
UCC Compositeの有効化/無効化	無効化		194
UCCオプション コンポジット タイマー	タイマーが無効		195

メモ

付録C

サンプルバーコード

この付録に記載されているサンプルバーコードは、その読み取りコードの種類の一般的な表現です。

1Dバーコード



サンプルバーコード（続き）



B9P91Q

Code 32



A123456A

Codabar



ABCDEF

Code 93



12345678903

Code 11

GS1 DataBar™



下記のバーコードを読み取るには、GS1 DataBar™のバリエーションを有効にする必要があります(146ページの「GS1 DataBar™ Omnidirectional」を参照してください)。



(01)12345678901231

(GS1 DataBar™ 14)



(01)23456789012313

(GS1 DataBar™ Expanded)



(01)1234567890123:

(GS1 DataBar™ Limited)



(01)12345678901231

(GS1 DataBar™ Truncated)



(GS1 DataBar™ Stacked)

(01)12345678901231



(GS1 DataBar™ Omnidirectional Stacked)

(01)12345678901231



(GS1 DataBar™ Expanded Stacked)

2Dバーコード

Aztec



ABCabc

Datmatrix

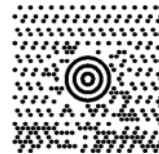


ABCabc

China Sensible Code



MaxiCode



ABCabc

PDF 417



ABCabc

Micro PDF 417



12345678

QR Code



ABCabc

Micro QR Code



ABCDEF

コンポジットコード

DataBar™ Expanded Stacked Composite

(17) 050923
(10) ABC123
(21) 2153641167



(04) 01234567890

GS1-128 Composite

(17) 050923 (10) ABC123













(01) 0 4012345 67890 1 1







付録D

テンキー

この付録に記載されているバーコードを使用すると、テンキーから数字や文字を選択するように数値を入力できます。

0	 0		
		1	 1
2	 2		
		3	 3

4  4	
	5  3
6  6	
	7  7
8  8	
	9  9

A  A	
	B  B
C  C	
	D  D
E  E	
	F  F

メモ

付録E

スキャンコード表

制御文字エミュレーション

制御文字エミュレーションは、この付録に記載されている各種スキャンコード表から選択します。それらの表には、インターフェイスの種類別に、以下の各制御文字セットが詳しく記述されています。これらの制御文字セットは、キーボード ウェッジおよびUSBキーボードのプラットフォームに適用されます。

制御文字00: 00 ~ 0x1Fの文字は制御文字[Ctrl] + キーとして送信され、特殊キーは0x80 ~ 0xA1に配置されます。

制御文字01: 00 ~ 0x1Fの文字は制御文字[Ctrl] + 大文字キーとして送信され、特殊キーは0x80 ~ 0xA1に配置されます。

制御文字02: 特殊キーは00 ~ 0x1Fに配置され、0x80 ~ 0xFEの文字は拡張ASCII表 (252ページのMicrosoft Windowsコードページ1252を参照してください) に従って送信されるよう意図されています。

1回押して放すキー

以下の各表では、「Ar ↓」は右の[Alt]キーが押されたことを意味し、「Ar ↑」は右の[Alt]キーが放されたことを意味します (他のキーも同様)。その他のキーの定義は、「Al」(左の[Alt])、 「Cr」(右の[Ctrl])、 「Cl」(左の[Ctrl])、 「Sh」 ([Shift]) となります。この方法を使用すると、[Alt]、[Ctrl]、または[Shift]を他のキーと組み合わせることができます。

例: 制御文字が00に設定されているものとし、ラベルをホストに送信する前に右[Alt] + [A]が必要な場合、この手法を用いるには、0x99 0x41 0x9Aのように3つのプレフィックスキーを設定します。

インターフェイスの種類：USBキーボード

表45.制御文字が00または01のときのスキャンコードセット

	x0	x1	x2	x3	x4	x5	x6	x7	x8	x9	xA	xB	xC	xD	xE	xF
0x	NULL C+@	SOH C(S)+A	STX C(S)+B	ETX C(S)+C	EOT C(S)+D	ENQ C(S)+E	ACK C(S)+F	BEL C(S)+G	BS	HT TAB	LF C(S)+J	VT C(S)+K	FF C(S)+L	CR Enter	SO C(S)+N	SI C(S)+O
1x	DLE C(S)+P	DC1 C(S)+Q	DC2 C(S)+R	DC3 C(S)+S	DC4 C(S)+T	NAK C(S)+U	SYN C(S)+V	ETB C(S)+W	CAN C(S)+X	EM C(S)+Y	SUB C(S)+Z	ESC Esc	FS C+\	GS C+]	RS C+^	US C(S)+_
2x	<u>SP</u>	!	"	#	\$	%	&	'	()	*	±	,	-	.	/
3x	<u>0</u>	<u>1</u>	<u>2</u>	<u>3</u>	<u>4</u>	<u>5</u>	<u>6</u>	<u>7</u>	<u>8</u>	<u>9</u>	÷	;	≤	≡	≥	?
4x	<u>@</u>	<u>A</u>	<u>B</u>	<u>C</u>	<u>D</u>	<u>E</u>	<u>F</u>	<u>G</u>	<u>H</u>	<u>I</u>	<u>J</u>	<u>K</u>	<u>L</u>	<u>M</u>	<u>N</u>	<u>O</u>
5x	<u>P</u>	<u>Q</u>	<u>R</u>	<u>S</u>	<u>T</u>	<u>U</u>	<u>V</u>	<u>W</u>	<u>X</u>	<u>Y</u>	<u>Z</u>	[\]	^	_
6x	`	<u>a</u>	<u>b</u>	e	<u>d</u>	<u>e</u>	f	<u>g</u>	<u>h</u>	i	<u>j</u>	<u>k</u>	l	<u>m</u>	<u>n</u>	<u>o</u>
7x	<u>p</u>	<u>q</u>	r	s	t	<u>u</u>	<u>v</u>	<u>w</u>	<u>x</u>	<u>y</u>	z	[]	~	Del
8x	€	Sh ↓	Sh ↑	Ins	Ent (keyp)	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	F10	F11
9x	F12	Home	End	Pg Up	Pg Dwn	↑	↓	←	→	Ar ↓	Ar ↑	Al ↓	Al ↑	Cl ↓	Cl ↑	Cr ↓
Ax	Cr ↑		'	f	„	…	†	‡	^	%	Š	<	Š	<	Œ	
Bx	°	±	²	³	´	μ	¶	·	,	¹	º	»	¼	½	¾	¿
Cx	À	Á	Â	Ã	Ä	Å	Æ	Ç	È	É	Ê	Ë	ì	í	î	ï
Dx	Ð		Ò	Ó	Ô	Õ	Ö	×	Ø	Ù	Ú	Û	Ü	Ý	Þ	ß
Ex	à	á	â	ã	ä	å	æ	ç	è	é	ê	ë	ì	í	î	ï
Fx	ð	ñ	ò	ó	ô	õ	ö	÷	ø	ù	ú	û	ü	ý	þ	ÿ

拡張文字（空色）は、専用のキー（選択した国モードで使用可能な場合）によって、またはALTモードシーケンスを使用して送信されます。

インターフェイスの種類：USBキーボード（続き）

表46.制御文字が02のときのスキャンコードセット

	x0	x1	x2	x3	x4	x5	x6	x7	x8	x9	xA	xB	xC	xD	xE	xF
0x	Ar ↓	Ar ↑	Al ↓	Al ↑	Cl ↓	Cl ↑	Cr ↓	Cr ↑	BS	Tab	→	S+Tab	Enter Keypd	Enter	Ins	Pg Up
1x	Pg Dwn	Home	←	↓	↑	F6	F1	F2	F3	F4	F5	ESC	F7	F8	F9	F10
2x	Space	!	“	#	\$	%	&	‘	()	*	+	,	-	.	/
3x	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?
4x	@	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
5x	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[\]	^	_
6x	`	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
7x	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	{		}	~	Del
8x	€		‘	f	„	…	†	‡	^	%	Š	<	Ś	<	Œ	
9x		‘	’	“	”	•	–	—	~	™	š	>	œ		ž	ÿ
Ax	NBSP	ı	¢	£	¤	¥	¦	§	¨	©	ª	«	¬	-	®	-
Bx	°	±	²	³	´	µ	¶	·	,	¹	º	»	¼	½	¾	¿
Cx	À	Á	Â	Ã	Ä	Å	Æ	Ç	È	É	Ê	Ë	Ì	Í	Î	Ï
Dx	Ð		Ò	Ó	Ô	Õ	Ö	×	Ø	Ù	Ú	Û	Ü	Ý	Þ	ß
Ex	à	á	â	ã	ä	å	æ	ç	è	é	ê	ë	ì	í	î	ï
Fx	ð	ñ	ò	ó	ô	õ	ö	÷	ø	ù	ú	û	ü	ý	þ	ÿ

インターフェイスの種類：USBキーボード（ALTモード）

表47.制御文字が00または01のときのスキャンコードセット

	x0	x1	x2	x3	x4	x5	x6	x7	x8	x9	xA	xB	xC	xD	xE	Xf
0x	Alt+000	Alt+001	Alt+002	Alt+003	Alt+004	Alt+005	Alt+006	Alt+007	BS	HT TAB	Alt+010	Alt+011	Alt+012	CR Enter	Alt+014	Alt+015
1x	Alt+016	Alt+017	Alt+018	Alt+019	Alt+020	Alt+021	Alt+022	Alt+023	Alt+024	Alt+025	Alt+026	ESC Esc	Alt+028	Alt+029	Alt+030	Alt+031
2x	A+032	A+033	A+034	A+035	A+036	A+037	A+038	A+039	A+040	A+041	A+042	A+043	A+044	A+045	A+046	A+047
3x	A+048	A+049	A+050	A+051	A+052	A+053	A+054	A+055	A+056	A+057	A+058	A+059	A+060	A+061	A+062	A+063
4x	A+064	A+065	A+066	A+067	A+068	A+069	A+070	A+071	A+072	A+073	A+074	A+075	A+076	A+077	A+078	A+079
5x	A+080	A+081	A+082	A+083	A+084	A+085	A+086	A+087	A+088	A+089	A+090	A+091	A+092	A+093	A+094	A+095
6x	A+096	A+097	A+098	A+099	A+100	A+101	A+102	A+103	A+104	A+105	A+106	A+107	A+108	A+109	A+110	A+111
7x	A+112	A+113	A+114	A+115	A+116	A+117	A+118	A+119	A+120	A+121	A+122	A+123	A+124	A+125	A+126	A+127
8x	€	Sh ↓	Sh ↑	Ins	Ent (keyp)	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	F10	F11
9x	F12	Home	End	Pg Up	Pg Dwn	↑	↓	←	→	Ar ↓	Ar ↑	Al ↓	Al ↑	Cl ↓	Cl ↑	Cr ↓
Ax	Cr ↑	A+0161	A+0162	A+0163	A+0164	A+0165	A+0166	A+0167	A+0168	A+0169	A+0170	A+0171	A+0172	A+0173	A+0174	A+0175
Bx	A+0176	A+0177	A+0178	A+0179	A+0180	A+0181	A+0182	A+0183	A+0184	A+0185	A+0186	A+0187	A+0188	A+0189	A+0190	A+0191
Cx	A+0192	A+0193	A+0194	A+0195	A+0196	A+0197	A+0198	A+0199	A+0200	A+0201	A+0202	A+0203	A+0204	A+0205	A+0206	A+0207
Dx	A+0208	A+0209	A+0210	A+0211	A+0212	A+0213	A+0214	A+0215	A+0216	A+0217	A+0218	A+0219	A+0220	A+0221	A+0222	A+0223
Ex	A+0224	A+0225	A+0226	A+0227	A+0228	A+0229	A+0230	A+0231	A+0232	A+0233	A+0234	A+0235	A+0236	A+0237	A+0238	A+0239
Fx	A+0240	A+0241	A+0242	A+0243	A+0244	A+0245	A+0246	A+0247	A+0248	A+0249	A+0250	A+0251	A+0252	A+0253	A+0254	A+0255

インターフェイスの種類：USBキーボード（ALTモード）（続き）

表48.制御文字が02のときのスキャンコードセット

	x0	x1	x2	x3	x4	x5	x6	x7	x8	x9	xA	xB	xC	xD	xE	xF
0x	Ar ↓	Ar ↑	Al ↓	Al ↑	Cl ↓	Cl ↑	Cr ↓	Cr ↑	BS	Tab	→	S+ Tab	Enter Keyprd	Enter	Ins	Pg Up
1x	Pg Dwn	Home	←	↓	↑	F6	F1	F2	F3	F4	F5	ESC	F7	F8	F9	F10
2x	A+032	A+033	A+034	A+035	A+036	A+037	A+038	A+039	A+040	A+041	A+042	A+043	A+044	A+045	A+046	A+047
3x	A+048	A+049	A+050	A+051	A+052	A+053	A+054	A+055	A+056	A+057	A+058	A+059	A+060	A+061	A+062	A+063
4x	A+064	A+065	A+066	A+067	A+068	A+069	A+070	A+071	A+072	A+073	A+074	A+075	A+076	A+077	A+078	A+079
5x	A+080	A+081	A+082	A+083	A+084	A+085	A+086	A+087	A+088	A+089	A+090	A+091	A+092	A+093	A+094	A+095
6x	A+096	A+097	A+098	A+099	A+100	A+101	A+102	A+103	A+104	A+105	A+106	A+107	A+108	A+109	A+110	A+111
7x	A+112	A+113	A+114	A+115	A+116	A+117	A+118	A+119	A+120	A+121	A+122	A+123	A+124	A+125	A+126	A+127
8x	A+0128	A+0129	A+0130	A+0131	A+0132	A+0133	A+0134	A+0135	A+0136	A+0137	A+0138	A+0139	A+0140	A+0141	A+0142	A+0143
9x	A+0144	A+0145	A+0146	A+0147	A+0148	A+0149	A+0150	A+0151	A+0152	A+0153	A+0154	A+0155	A+0156	A+0157	A+0158	A+0159
Ax	A+0160	A+0161	A+0162	A+0163	A+0164	A+0165	A+0166	A+0167	A+0168	A+0169	A+0170	A+0171	A+0172	A+0173	A+0174	A+0175
Bx	A+0176	A+0177	A+0178	A+0179	A+0180	A+0181	A+0182	A+0183	A+0184	A+0185	A+0186	A+0187	A+0188	A+0189	A+0190	A+0191
Cx	A+0192	A+0193	A+0194	A+0195	A+0196	A+0197	A+0198	A+0199	A+0200	A+0201	A+0202	A+0203	A+0204	A+0205	A+0206	A+0207
Dx	A+0208	A+0209	A+0210	A+0211	A+0212	A+0213	A+0214	A+0215	A+0216	A+0217	A+0218	A+0219	A+0220	A+0221	A+0222	A+0223
Ex	A+0224	A+0225	A+0226	A+0227	A+0228	A+0229	A+0230	A+0231	A+0232	A+0233	A+0234	A+0235	A+0236	A+0237	A+0238	A+0239
Fx	A+0240	A+0241	A+0242	A+0243	A+0244	A+0245	A+0246	A+0247	A+0248	A+0249	A+0250	A+0251	A+0252	A+0253	A+0254	A+0255

Microsoft Windowsコードページ1252

Windows-1252とは、Microsoft Windowsの英語版および他の数種の西欧言語版において従来のコンポーネントが初期設定で使用するラテン文字の文字コードです。

	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	0A	0B	0C	0D	0E	0F
00	NUL 0000	STX 0001	SOT 0002	ETX 0003	EOT 0004	ENQ 0005	ACK 0006	BEL 0007	BS 0008	HT 0009	LF 000A	VT 000B	FF 000C	CR 000D	SO 000E	SI 000F
10	DLE 0010	DC1 0011	DC2 0012	DC3 0013	DC4 0014	NAK 0015	SYN 0016	ETB 0017	CAN 0018	EM 0019	SUB 001A	ESC 001B	FS 001C	GS 001D	RS 001E	US 001F
20	SP 0020	! 0021	" 0022	# 0023	\$ 0024	% 0025	& 0026	' 0027	(0028) 0029	* 002A	+ 002B	, 002C	- 002D	. 002E	/ 002F
30	0 0030	1 0031	2 0032	3 0033	4 0034	5 0035	6 0036	7 0037	8 0038	9 0039	: 003A	; 003B	< 003C	= 003D	> 003E	? 003F
40	@ 0040	A 0041	B 0042	C 0043	D 0044	E 0045	F 0046	G 0047	H 0048	I 0049	J 004A	K 004B	L 004C	M 004D	N 004E	O 004F
50	P 0050	Q 0051	R 0052	S 0053	T 0054	U 0055	V 0056	W 0057	X 0058	Y 0059	Z 005A	[005B	\ 005C] 005D	^ 005E	_ 005F
60	` 0060	a 0061	b 0062	c 0063	d 0064	e 0065	f 0066	g 0067	h 0068	i 0069	j 006A	k 006B	l 006C	m 006D	n 006E	o 006F
70	p 0070	q 0071	r 0072	s 0073	t 0074	u 0075	v 0076	w 0077	x 0078	y 0079	z 007A	{ 007B	 007C	~ 007D	DEL 007E	007F
80	€ 20AC	• 20A8	ƒ 20A9	„ 20AE	… 20A6	† 2020	‡ 2021	ˆ 02C6	‰ 2030	Š 0160	‹ 0162	Œ 0163	• 0164	Ž 016A	• 016B	• 016C
90	• 20A8	ˆ 2020	˜ 2021	˘ 2022	˙ 2023	˚ 2024	˛ 02C7	˜ 2122	Š 0161	› 0163	œ 0164	• 0165	Ž 016A	• 016B	• 016C	• 016D
A0	NEST 00A0	ı 00A1	ç 00A2	£ 00A3	¤ 00A4	¥ 00A5	¦ 00A6	§ 00A7	¨ 00A8	© 00A9	ª 00AA	« 00AB	¬ 00AC	­ 00AD	® 00AE	¯ 00AF
B0	° 00B0	± 00B1	² 00B2	³ 00B3	´ 00B4	µ 00B5	¶ 00B6	· 00B7	¸ 00B8	¹ 00B9	º 00BA	» 00BB	¼ 00BC	½ 00BD	¾ 00BE	¿ 00BF
C0	À 00C0	Á 00C1	Â 00C2	Ã 00C3	Ä 00C4	Å 00C5	Æ 00C6	Ç 00C7	È 00C8	É 00C9	Ê 00CA	Ë 00CB	Ì 00CC	Í 00CD	Î 00CE	Ï 00CF
D0	Ð 00D0	Ñ 00D1	Ò 00D2	Ó 00D3	Ô 00D4	Õ 00D5	Ö 00D6	× 00D7	Ø 00D8	Ù 00D9	Ú 00DA	Û 00DB	Ü 00DC	Ý 00DD	Þ 00DE	ß 00DF
E0	à 00E0	á 00E1	â 00E2	ã 00E3	ä 00E4	å 00E5	æ 00E6	ç 00E7	è 00E8	é 00E9	ê 00EA	ë 00EB	ì 00EC	í 00ED	î 00EE	ï 00EF
F0	ø 00F0	ù 00F1	ò 00F2	ó 00F3	ô 00F4	õ 00F5	÷ 00F6	ø 00F7	ù 00F8	ú 00F9	û 00FA	ü 00FB	ý 00FC	þ 00FD	ÿ 00FE	• 00FF

付録F

クイックセットアップ

この章のバーコードを使用すると、共通の作業用のセットアップ手順をすばやく実行できます。以下のバーコードをスキャンすると、スキャナーの設定が工場出荷時の初期設定に戻ります。



すべて初期設定値に設定

注：標準の初期値に設定するバーコードをスキャンしても、インターフェイスの種類は変更されません。

HPイメージング バーコード スキャナーを初期設定のモードに戻すには、下のバーコード（USB HIDキーボードエミュレーション）をスキャンします。



USB HIDキーボードエミュレーション

スキャナーをHIDモードとUSB-COMモードの間で切り替えた場合は、Windowsオペレーティングシステムがスキャナーのネイティブ ドライバーを再ロードするまで少しお待ちください。

OPOSドライバー

HPイメージング バーコード スキャナーは、工場出荷時の初期設定ではヒューマン インターフェイス デバイス (HID) キーボード エミュレーション モードになっています。このバーコード スキャナーをOPOS (OLE for Retail POS) ドライバーで使用するには、スキャナーをUSB COM (OPOS) モードにする必要があります。

HPイメージング バーコード スキャナーをUSB COM (OPOS) モードまたはHIDキーボード エミュレーション モードに切り替えるバーコードは、すぐに使用できるようにこのガイドに記載しています。バーコードの一覧については、『HPイメージングバーコードスキャナー プロダクトリファレンスガイド』を参照してください。このガイドは、スキャナーに付属の『HP Point of Sale System Software and Documentation』（HP Point of Sale Systemソフトウェアおよびドキュメンテーション）CDに収録されています。また、HPのサポートWebサイトからsoftpaqとして入手することも可能です。

HPイメージングバーコードスキャナーをOPOSドライバーで使用するモードにするには、下のバーコード（USB COM OPOS）をスキャンします。



USB COM (OPOS)

キャリッジリターン

以下のバーコードをスキャンすると、スキャナーの設定が工場出荷時の初期設定に戻ります。



すべて初期設定値に設定

注：標準の初期値に設定するバーコードをスキャンしても、インターフェイスの種類は変更されません。

スキャンされた各バーコードの後にキャリッジリターン/[Enter]が必要な場合は、以下の順序でバーコードをスキャンします。



プログラミングモードの開始

以下のバーコードを左から右にスキャンします。



グローバルサフィックスの設定



0



D



グローバルサフィックスモードの終了



プログラミングモードの終了

タブ

以下のバーコードをスキャンすると、スキャナーの設定が工場出荷時の初期設定に戻ります。



すべて初期設定値に設定

注：標準の初期値に設定するバーコードをスキャンしても、インターフェイスの種類は変更されません。

スキャンされた各バーコードの後にタブが必要な場合は、以下の順序でバーコードをスキャンします。



プログラミングモードの開始

以下のバーコードを左から右にスキャンします。



グローバルサフィックスの設定



0



9



グローバルサフィックスモードの終了



プログラミングモードの終了

音量

以下のバーコードをスキャンすると、スキャナーの設定が工場出荷時の初期設定に戻ります。



すべて初期設定値に設定

HPイメージングスキャナーで、読み取り成功ビープ音の音量を設定するには、以下のバーコードをスキャンします。



プログラミングモードの開始

以下の4つのバーコードのどれかをスキャンして、音量を適切なレベルに設定します。



オフ



低



中



高



プログラミングモードの終了

読み取りコード

・ [187](#), [188](#), [191](#), [193](#), [195](#)

B

バーコード

キャンセル [243](#), [254](#), [255](#), [256](#)

数値バーコード [243](#), [254](#), [255](#), [256](#)

RS-232

ボーレート [34](#)

RS-232パラメーター

パリティ [30](#), [167](#)

ビープ音

ピッチ、読み取り成功 [52](#)

音量、読み取り成功 [54](#)

ビープ音、読み取り成功 [51](#)

C

ケーブルのピン配列 [223](#)

設定ソフトウェア [9](#)

変換、大文字/小文字 [45](#)

変換、文字 [45](#), [213](#)

クーポンの制御 [69](#), [173](#), [175](#), [178](#), [179](#), [182](#), [184](#), [187](#),
[188](#), [191](#), [193](#), [194](#), [195](#)

D

初期設定 [229](#)

寸法 [223](#)

E

エラーコード [228](#)

エラー [228](#)

G

読み取り成功、ビープ音 [51](#)

ピッチ [52](#)

音量 [54](#)

読み取り成功、ビープ音 - [51](#)

読み取り成功、ビープ音のピッチ - [52](#)

読み取り成功、ビープ音の音量 - [54](#)

緑色のスポット [227](#)

I

インジケータ [227](#)

インターフェイスケーブル [12](#)

ISSN [78](#)

K

キーボードサポート [30](#)

KEYBOARD WEDGE (KBW) インターフェイスの選択 [13](#)

P

パフォーマンス特性 [223](#)

物理特性 [223](#)

ピッチ - 読み取り成功、ビープ音 [52](#)

プレフィックス/サフィックス [38](#), [207](#)

製品仕様 [223](#)

プログラミングバーコード [9](#)

R

読み取り、ビープ音 - 成功 [51](#)

読み取り、ビープ音のピッチ - 成功 [52](#)

読み取り、ビープ音の音量 - 成功 [54](#)

S

サンプルバーコード

Code 128 [239](#)

Code 39 [239](#)

Interleaved 2 of 5 [240](#)

スキャンコード表 [247](#)

数字/文字の選択 [243](#)

シリアル出力 [226](#)

ケーブルの標準のピン配列 [226](#)

サフィックス [38](#), [207](#)

読み取りコードの種類 [239](#)

U

UPC [70](#)

USB接続 [12](#)

V

音量 - 読み取り成功、ビープ音 [54](#)

W

質量 [223](#)

ASCII表

ASCII 文字	16進数	ASCII 文字	16進数	ASCII 文字	16進数	ASCII 文字	16進数
NUL	00	SP	20	@	40	'	60
SOH	01	!	21	A	41	a	61
STX	02	“	22	B	42	b	62
ETX	03	#	23	C	43	c	63
EOT	04	\$	24	D	44	d	64
ENQ	05	%	25	E	45	e	65
ACK	06	&	26	F	46	f	66
BEL	07	'	27	G	47	g	67
BS	08	(28	H	48	h	68
HT	09)	29	I	49	i	69
LF	0A	*	2A	J	4A	j	6A
VT	0B	+	2B	K	4B	k	6B
FF	0C	,	2C	L	4C	l	6C
CR	0D	-	2D	M	4D	m	6D
SO	0E	.	2E	N	4E	n	6E
SI	0F	/	2F	O	4F	o	6F
DLE	10	0	30	P	50	p	70
DC1	11	1	31	Q	51	q	71
DC2	12	2	32	R	52	r	72
DC3	13	3	33	S	53	s	73
DC4	14	4	34	T	54	t	74
NAK	15	5	35	U	55	u	75
SYN	16	6	36	V	56	v	76
ETB	17	7	37	W	57	w	77
CAN	18	8	38	X	58	x	78
EM	19	9	39	Y	59	y	79
SUB	1A	:	3A	Z	5A	z	7A
ESC	1B	;	3B	[5B	{	7B
FS	1C	<	3C	\	5C		7C
GS	1D	=	3D]	5D	}	7D
RS	1E	>	3E	^	5E	~	7E
US	1F	?	3F	_	5F	DEL	7F

メモ